甲　南　大　学
研究年報　2021

KONAN RESEARCH
ANNUAL REPORT

甲南大学

研究年報

２０２１

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

ご挨拶

研究ＴＯＰＩＣＳ・・・・・　2

データで見る研究力・・・・　4

表彰・アワード・・・・・・　7

2021 年度　研究業績一覧・・ 11

研究推進　組織体制・・・・ 45

附置研究所の活動報告

特定プロジェクト研究所の活動報告

ご　挨　拶

甲南学園は、創立者・平生釟三郎の教育理念
「個性を尊重して各人の天賦の特性を啓発する人物教育の率先」の下に発展を続け、2019 年 4 月に創立 100 周年を迎えて「甲南新世紀」の幕を開けることとなりました。

国際都市神戸にあり、人文・自然・社会科学の 3 分野を備えた学生数約 9,000 名の〝ミディアムサイズ総合大学〟である甲南大学は、〝人物教育のクオリティ・リーダー〟として、研究分野の広がりと隅々まで行き届く質の高い教育の実現を追い求めてきました。

そして 2021 年に開学 70 周年を迎えました。

甲南新世紀ビジョン「KONAN U.VISION2025」では、「世界に通用する研究力と地域社会の発展に資する共働互助の力を教育に生かし、人物の育成と社会貢献を通じてよりよい社会の実現に持続的に貢献する大学になる」との決意を改めて 3 本柱の一つとして掲げました。

良質な研究が甲南大学の教育基盤を支え、その質の高い教育を受けた卒業生を世に送り出すことが社会貢献につながるという考えのもと、世界レベルの先進的な研究を続けている教員が、日々学生を育てていることを誇りに、研究力の向上を目指しています。

甲南大学の卒業生は関西経済界をはじめ世界を舞台に各界で活躍し、広く根をはったネットワークを形成しています。産官学連携研究の推進も重要な取り組みになっていることから、このネットワークはこれからますます重要性を増すことでしょう。甲南大学の活躍のフィールドは、キャンパスを持つ岡本の街、東灘区、神戸市、西宮市、兵庫県にとどまらず、姫路市、加古川市、堺市、和歌山市、そして、京都府、徳島市や中四国の各県との協定を通じてさまざまな自治体へと広がっています。これらの「つながる力」を生かし、研究成果の教育への還元をはかりながら、学生が主体的に地域で学ぶプロジェクトも展開しています。

世界レベルの最新の研究成果が、学生教育にしっかりと還元され、教育の質を漸進的に高めていく大学であり続けたいと考えています。

甲南大学長　中井 伊都子

研究ＴＯＰＩＣＳ

—2021 年度のハイライトご紹介

国立研究開発法人　科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING）に採択

概要

国立研究開発法人　科学技術振興機構の事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）」に甲南大学の取り組みが採択されました。同事業は、我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う存在である、志の高い優秀な博士後期課程学生に対して、経済的支援を強化し、幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることを目的としています。本学の採択提案「地域連携プラットフォームを活用する産学・官学連携インターンシップによるトランスレーショナル人材の育成」では、新しい融合分野・学際分野の研究に挑戦する博士後期課程の学生を対象に、イノベーション創出に不可欠なトランスレーショナル研究（基礎研究から応用研究や実用化への橋渡し）を推進できる人材として成長できるよう諸活動を支援します。

自然科学研究科またはフロンティアサイエンス研究科の博士後期課程 1 ～ 3 年次に在籍し学内選考を通過した者に、年間で生活費相当額として約 180 万円、研究費として約 40 万円が支給される制度です。

選抜学生の声

2021 年度は 5 名の大学院博士後期課程学生を支援しています。次世代を担う博士後期課程の学生たちは、現在の研究テーマや次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）を通じて期待していること、将来の目標など、「研究」の魅力だけではなく、大学院をめざす学部生や高校生に向けてのメッセージ等、様々な情報を発信しています。

KONAN－PLANET に特集記事を掲載

2021 年 4 月に開設された KONAN-PLANET では、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING）に採択された博士後期課程学生が、SPRING プログラムに一番期待していることなど、「生の声」を特集記事として掲載しています。

甲南から『世界』をおもしろく。

KONAN-PLANET

KONAN GAKUEN

特集記事は以下の QR コードよりご覧ください。

選抜学生のインタビューを YouTube で公開

甲南大学で日夜、研究にいそしむ研究者のたまごたち。
「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING）に採択された博士後期課程学生のインタビューを YouTube で配信しています。

動画は以下の QR コードよりご覧ください。

データで見る研究力

―甲南大学の研究力をデータでご紹介

科学研究費助成事業

2021 年度　採択率 39.0%　全国 17 位　関西 2 位

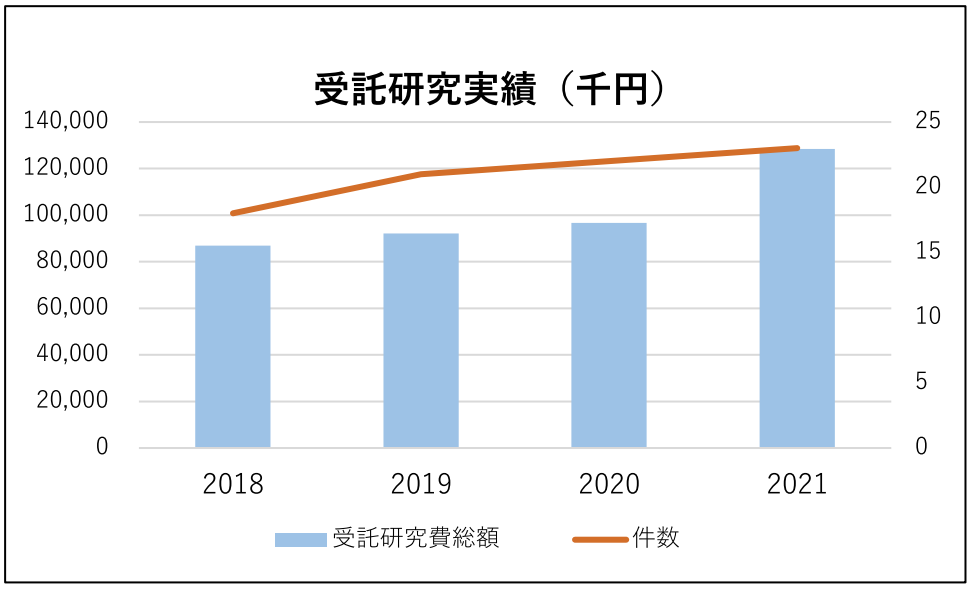
採択率、全国順位ともに過去 4 年間で最高

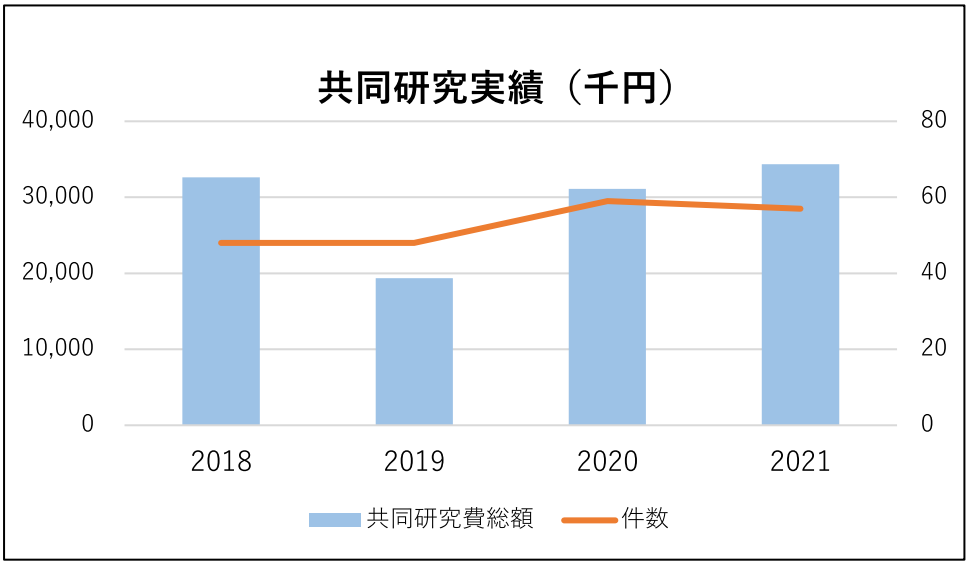
【科研費採択状況】申請年度別

	2018		2019		2020		2021	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択
基盤研究(A)（一般）	2		3	1	3	1	1	
基盤研究(B)（一般）	14	1	18	5	18	5	11	4
基盤研究(C)（一般）	42	23	39	18	35	15	38	16
基盤研究(C)（特設分野研究）	1							
基盤研究(S)	1		1					
学術変革領域研究（A）					1		6	
学術変革領域研究（B）					3		3	3
新学術領域研究	15	2	5		10	2	2	
挑戦的研究（開拓）					2		1	
挑戦的研究（萌芽）	8	2	10	1	8	2	9	3
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）	2	2	1					
研究活動スタート支援			3	1	2		1	1
若手研究	5	2	4	3	4	2	5	3
総計	90	32	84	29	86	27	77	30
採択率	35.6%		34.5%		31.4%		39.0%	

受託研究・共同研究　―外部資金獲得実績

受託研究・共同研究ともに、獲得した研究費は過去４年間で最多





大学院研究科　学位授与数等

令和３年度（2021 年度）大学院研究科の学位授与数

修士・博士　　学位授与者数

区分	修士課程			博士後期課程		
	男	女	計	男	女	計
人文科学研究科	2	0	2	0	0	0
日本語日本文学専攻	0	0	0	0	0	0
英語英米文学専攻	1	0	1	0	0	0
応用社会学専攻	1	0	1	0	0	0
人間科学専攻	0	0	0	0	0	0
自然科学研究科	22	4	26	0	0	0
物理学専攻	7	0	7	0	0	0
化学専攻	10	0	10			
生物学専攻	2	2	4			
生命・機能科学専攻				0	0	0
知能情報学専攻	3	2	5	0	0	0
社会科学研究科	1	3	4	1	0	1
経済学専攻	1	3	4			
経営学専攻	0	0	0	1	0	1
フロンティアサイエンス研究科	7	4	11	2	0	2
生命化学専攻	7	4	11	2	0	2
計	32	11	43	3	0	3

論文題名

博士後期課程修了者

氏　名	博士名	研究科	専攻	論文題名
杉本　渉	博士（理工学）	フロンティアサイエンス	生命化学	がん悪性化を惹起するRASシグナルに対する制御法の探索と解析
後藤　俊志	博士（理工学）	フロンティアサイエンス	生命化学	ホヤ１細胞期における母性決定因子輸送機構の解明
井上　徹	博士（経営学）	社会科学	経営学	インポートアパレル企業アオイの研究

表彰・アワード

―表彰実績のご紹介

川内敬子准教授が日本女性科学者の会奨励賞を受賞

フロンティアサイエンス学部の川内敬子准教授が日本女性科学者の会奨励賞を受賞しました。

日本女性科学者の会は「女性科学者の友好を深め研究分野の知識の交換を図り、その地位向上を目指すとともに、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境とネットワークの構築を推進することで、社会と世界の平和に貢献すること」を目的に活動しています。

今回受賞対象となった研究課題は以下のとおりです。

研究課題：がん遺伝子産物 RAS とそのシグナル分子を標的としたがん治療薬の創製を目指した基礎研究

久原篤教授が花王科学賞を受賞

理工学部の久原篤教授が公益財団法人花王芸術・科学財団の花王科学賞を受賞しました。花王科学賞と花王研究奨励賞の歴代受賞のうち、関西の私立大学では甲南大学が初めての受賞となりました。

公益財団法人 花王芸術・科学財団は芸術文化と科学技術への助成および研究者の顕彰、文理融合分野の研究への支援を通じて、日本の芸術文化と科学技術の振興および発展向上に寄与することを目的としています。また、この賞は、日本における「表面の科学」の＜化学・物理学分野＞と＜医学・生物学分野＞の基礎・基盤研究の振興と若い研究者の育成に貢献することを目的としています。

花王科学賞贈呈式および受賞記念講演は 6 月 1 日にオンラインにて開催され、記念講演後に花王芸術・科学財団 理事長 長谷部佳宏（花王(株)代表取締役社長)から線虫をつかった温度受容体の研究について祝辞をいただきました。

今回受賞対象となった研究テーマは以下のとおりです。

研究テーマ：皮下神経や腸を介した温度感知・応答の分子組織ネットワーク

甲元一也教授がバイオテックグランプリ 2021 において最優秀賞と AQI 賞をダブル受賞

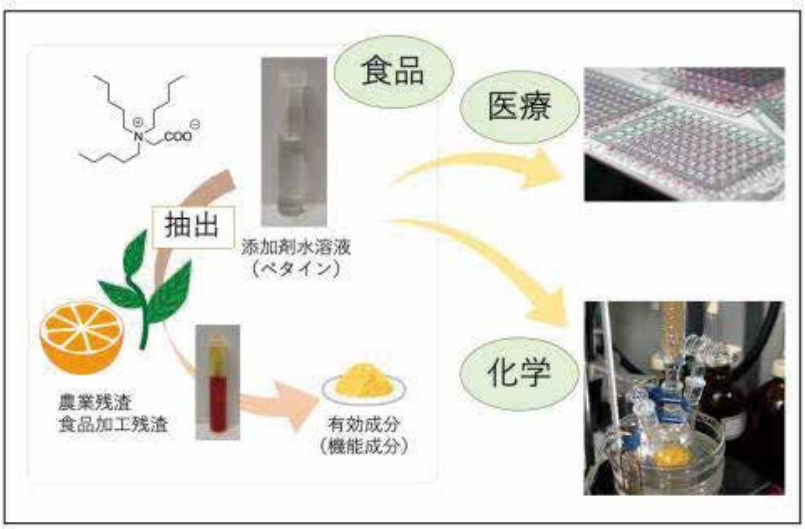
フロンティアサイエンス学部の甲元一也教授が株式会社リバネスの主催・運営するテックプランタープログラムの一部門である「バイオテックグランプリ 2021」に参加、同教授のチームである B-Lab が「最優秀賞」と「AQI 賞」（企業賞：アサヒクオリティーアンドイノベーションズ株式会社）の 2 つの賞をダブル受賞しました。

このプログラムは、リバネスとパートナー企業とが、大学や研究機関、企業の研究所に眠る科学技術の「種」を発掘し、ビジネスまで芽吹かせ、育てることを目的としたエコシステムであり、バイオテックグランプリは、バイオ、ヘルスケア、医療、創薬、医療機器、研究ツール等の技術シーズと起業家の発掘育成を目的としています。

甲元教授は、ヒトが生きられない環境でも生き抜くことができる生物（極限環境生物）が環境に適応するために利用する物質（老廃物）の機能に着目し、研究を行っています。その研究を進める中で合成した誘導体の 1 つが、細胞内の生体分子の活性や安定性を高める優れた機能を持つことを見出しました。さらに最近、その高濃度水溶液に、水に溶けない物質を驚くほど高濃度で水に溶かす性質があることを発見しました（特許出願済）。この性質は、天然物にはなく、甲元教授が発見した誘導体が持つ優れた機能となります。

甲元教授は、この誘導体を添加剤として、食品廃棄物からの完全水系、常温常圧での有効成分の抽出を目指して活動を始めており、本グランプリでは「生物特性を基にした新規添加剤が抽出や合成を変える」のテーマで発表を行い、最優秀賞を受賞しました。

最優秀賞の受賞は、パートナー企業がすぐに試すことができる素材を持っていることに加え、新たな素材や物質を今後も生み出していく基盤技術を構築する可能性に期待できるという点が評価されたものです。



卒業生 高垣菜式さんのロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞受賞式が行われました

理工学部生物学科卒業生の高垣菜式さん(申請時:甲南大学自然科学研究科博士後期課程)のロレアル-ユネスコ女性科学者日本奨励賞の受賞式が、2021 年 11 月 4 日にフランス大使公邸(東京都港区)にて行われました。

高垣さんの「ヒトと線虫に共通したメカノ受容体 DEG による温度受容」の研究が 2020 年度の受賞対象となりました。この賞は、ロレアルグループとユネスコが世界規模で展開する女性科学者を支援するものです。

(授賞式風景) 右: 高垣 菜式さん
左: ジャン-ピエール・シャリトン日本ロレアル株式会社 社長

井上剛志教授が「2021 年度日本天文学会欧文研究報告論文賞」を受賞

理工学部の井上剛志教授が「2021 年度日本天文学会欧文研究報告論文賞」を受賞しました。この賞は日本天文学会欧文研究報告に出版された中でも優れた論文を称賛し今後もそのような論文が投稿・出版される事を奨励するためのものです。

今回受賞対象となった論文題目等は以下のとおりです。

論文題目：The formation of massive molecular filaments and massive stars triggered by a magnetohydrodynamic shock wave

著者：Tsuyoshi Inoue, Patrick Hennebelle, Yasuo Fukui, Tomoaki Matsumoto, Kazunari Iwasaki, and Shu ichiro Inutsuka

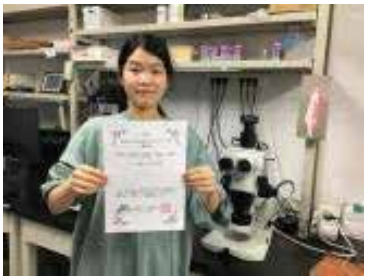
出版年等：Vol . 70 (2018) No. SP2 , article S5 3

上田晴子准教授が「2021 年度お茶の水女子大学賞（第 6 回保井コノ賞)」を受賞

理工学部の上田晴子准教授が「2021 年度お茶の水女子大学賞（第 6 回保井コノ賞)」を受賞しました。この賞は、日本の生物科学の黎明期から革新的な研究を展開するとともに、お茶の水女子大学およびその前身校において数多くの女子学生を育て、日本初の女性理学博士となった保井コノ博士を称えて設立されたものです。生命科学とその関連領域科学の諸分野において顕著な業績を挙げた女性を顕彰することを目的とし「お茶の水女子大学賞」のひとつとして位置付けられています。

業績：植物の細胞内運動と器官運動の解析

島本侑奈さんが日本生態学会でポスター優秀賞を受賞



理工学部生物学科、細胞学研究室 4 年次生（当時）の島本侑奈さんが、第 69 回日本生態学会大会（2022 年 3 月 14 日～19 日開催）でポスター優秀賞を受賞しました。アリ科は発達した真社会性をもつことから、陸上生態系の中で特に繁栄しています。その反面、遺伝的に近い仲間が狭い巣の中で一緒に生活しているため、一度病原菌が侵入すると一気に広がるというリスクがあります。アリ科ではそれに対するさまざまな衛生行動が進化していますが、今回の研究では幼虫や蛹に対する新たな衛生行動を発見し、その生態学的な意義を調べました。

伊東佑真さんが「2021 年電気学会　電子・情報・システム部門 技術委員会奨励賞」を受賞

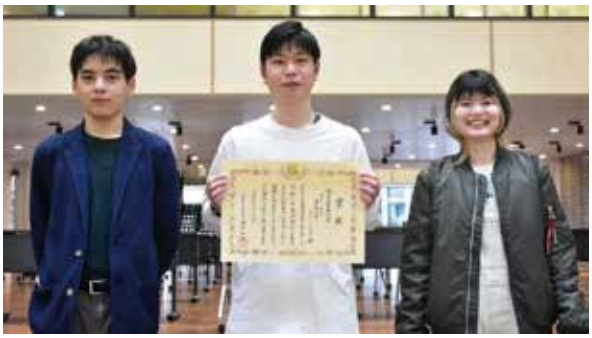
自然科学研究科物理学専攻 修士課程 1 年次生（当時）の伊東佑真さんが一般社団法人電気学会　電子・情報・システム部門 電子材料研究会において研究会活性化への貢献を称えられ、「2021 年電気学会電子・情報・システム部門技術委員会奨励賞」を受賞しました。この賞は、電子・情報・システム部門で発表された論文の中で、特に優秀な論文に与えられるものです。

今回受賞対象となった論文は以下のとおりです。

論文：He ガス中でのパルスレーザーアブレーション過程で形成された球状サブミクロン粒子の慣性インパクターを用いた収集

知財ビジネスアイデア学生コンテストで甲南大生が審査委員特別賞を受賞

「知財ビジネスアイデア学生コンテスト PaProSo」(2022 年 1 月 29 日近畿経済産業局主催)のパテント部門にエントリーした学生チーム「だんご 3 兄弟」が審査委員特別賞(パテント部門)を受賞しました。



平谷 悠(理工学部・1 年次生)
入谷 日奈美(理工学部・3 年次生)
橋本 侑樹(経済学部・3 年次生)
（学年はいずれも受賞当時）
指導教員 渡邉 順司教授（理工学部）

2021年度
研究業績一覧

・この一覧は、2021 年度の研究実績をまとめたものです。（所属組織は 2021 年度を示す）

・最新情報は、本学の教員・研究者紹介のホームページ（研究者データベース）からご覧いただくことができます。

https://researchers.adm.konan-u.ac.jp/search?m=home&l=ja

・業績は、下記項目を掲載しています。

論文

著書

MISC（総説・解説記事）

講演発表

※論文等刊行物については、共著、編著、分担執筆を含み、共著者名の併記はしていません。

文学部

日本語日本文学科

佐伯　暁子

研究課題　日本語の格助詞「を」の史的研究

論文　現代語における状況補語について―「～（の）中を」「～（の）下を」「～（の）ところを」を対象に― 岡大国文論稿 50巻 pp.43-56 2022/03

塚本　章子

研究課題　樋口一葉を中心とする近代文学、馬場孤蝶衆議院選挙立候補をめぐる研究

論文　馬場孤蝶衆議院選挙立候補における女性作家たちの応援―与謝野晶子・『青鞜』と、孤蝶の女性論― 『甲南大学紀要　文学編』 172号 pp.1-12 2022/03

田中　雅史

研究課題　文学とナルシシズム

田中　貴子

研究課題　日本古典文学　日本宗教文学　中世文学　説話文学　古典文学と学校教育　古典文学と近代文学の比較研究、文化史的思想史的に見た文学の問題、幻想文学と怪異文学

論文　詞のない絵巻たち―「鳥獣人物戯画」におけるかたち ユリイカ 2021/04/01

都染　直也

研究課題　現代日本語の動態に関する社会言語学的研究

論文　近畿・関西弁地域における標準語形の分布について－『日本言語地図』50項目の旧国・文化圏による分析－ 甲南大學紀要　文学編 172号 pp.27-34 2022/03/30

著書　甲南大学キャンパスこと辞典 1992・2009・2022－パンキョー・コーイキ・キソキョーツー－ 甲南大学文学部都染研究室 2022/03/31

MISC　甲南大学方言研究会報告書「言語地図」「グロットグラム」収録項目一覧と関連情報 甲南大學紀要　文学編 172号 pp.35-54 2022/03/30

MISC　都染直也教授　業績一覧 甲南大學紀要　文学編 172号 2022/03/30

野々口　ちとせ

研究課題　日本語教育の方法論と複言語使用

論文　バイリンガリズムの全体論的視点から見た中・朝・日三言語話者の言語使用と意識－比喩生成課題を用いたインタビュー調査－ 東北学院大学教養学部論集 187号 pp.61-75 2021/07

論文　人文・社会科学系英語学位プログラムの大学院生は自身の言語生活をどう評価するか ― PAC（個人別態度構造）分析による当事者評価 言語文化教育研究 19巻 pp.95-111 2021/12 ISSN2188-9600

友田　義行

研究課題　日本近現代文学と映像の相関研究

論文　安部公房×映画 『季刊文科』 87号 pp.52-58 2022/01/31

論文　安部公房の引揚げ体験と〈感染〉 『昭和文学研究』 84号 pp.80 2022/03/01 ISBN978-4-305-00384-3

著書　フィルムメーカーズ22 勅使河原宏 宮帯出版社 pp.14-35 2021/06 ISBN9784801602489

講演発表　帝国日本の崩壊と安部公房 ― 開拓民と労働者そして感染病の移動 2022/03/21 第36回占領開拓期文化研究会 占領開拓期文化研究会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　勅使河原宏の〈原点〉としての初期短編 2022/01/29 おもちゃ映画ミュージアム勅使河原宏生誕95年記念上映と講演PART1 おもちゃ映画ミュージアム 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　『インディレース 爆走』上映と解説 2021/11/20 善光寺平前衛派エキシビション2021 善光寺平善衛派 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　宮崎駿監督アニメの〈菌〉表象 2021/11/11 専修大学学際科目9（アニメーション） 専修大学 口頭発表（招待・特別） 国内会議

廣川　晶輝

研究課題　『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究

論文　『日本書紀』の仁徳天皇と磐之媛皇后 神話の源流をたどる―記紀神話と日向― pp.163-188 2022/02/16

論文　『万葉集』巻１・一番歌の「家告閑」について 甲南大學紀要 文学編 172号 pp.13-25 2022/03/30

MISC　長歌と反歌と ＫＡＤＯＫＡＷＡ 『万葉集の基礎知識』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）, 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編 2021/04/23 単著

MISC　『古事記』『日本書紀』の歌と万葉歌 ＫＡＤＯＫＡＷＡ 『万葉集の基礎知識』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）, 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編, 2021/04/23 ISBN9784047037021 単著

MISC　コラム旋頭歌の笑い ＫＡＤＯＫＡＷＡ 『万葉集の基礎知識』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）, 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編 2021/04/23 ISBN9784047037021 単著

MISC　歌物語と万葉集 ＫＡＤＯＫＡＷＡ 『万葉集の基礎知識』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）, 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編 2021/04/23 ISBN9784047037021 単著

MISC　五音と七音のリズム ＫＡＤＯＫＡＷＡ 『万葉集の基礎知識』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）, 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編 2021/04/23 ISBN9784047037021 単著

MISC　大谷雅夫氏『万葉集に出会う』 美夫君志 104号 pp.72-73 2022/03/20

MISC　長歌、短歌、旋頭歌、仏足石歌 ＫＡＤＯＫＡＷＡ 『万葉集の基礎知識』（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）, 上野誠・鉄野昌弘・村田右富実編 2021/04/23 ISBN9784047037021 単著

講演発表　入江泰吉氏作品と万葉集の歌 2021/11/23 奈良市観光協会「奈良万葉さんぽ 秋の七草編」（協力 入江泰吉記念奈良市写真美術館） 奈良市観光協会・入江泰吉記念奈良市写真美術館 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　死してなお求める恋心。神戸に伝わる悲恋の伝説 2022/01/14 神戸市生涯学習センター大学連携セミナー「こうべ生涯学習カレッジ」 神戸市生涯学習センターコミスタこうべ 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

英語英米文学科

DUFFIELD Nigel G.

研究課題　英語・ベトナム語文法（統語論）、言語習得と処理

講演発表　UG in the Eye of the Beholder 2021/04/15 Harvard-Yenching Workshop on Vietnamese Linguistics, Typology and Language Universals Phan, Trang 口頭発表（招待・特別） 国際会議

MARTIN　Andrew Thomas

研究課題　言語獲得、音韻論

安武　留美

研究課題　アメリカ史　アメリカ女性史　トランスナショナルヒストリー 環太平洋地域における女性運動、俯瞰的な国際女性運動の変遷、戦間期の人種的および文化的にハイブリッドの女性たちの活動についての研究

井野瀬　久美恵

研究課題　18世紀末以降のイギリス帝国における知的ネットワークの形成とその変容――奴隷制度廃止と植民地主義への抵抗を中心に

岩井 学

研究課題　イギリスを中心とした英語圏の文学と文化、比較文学、批評理論

講演発表　Universal Lawrence: a creative non-fiction workshop 2021/07/10 D. H. LAWRENCE, DISTANCE AND PROXIMITY: An International Virtual Symposium The D. H. Lawrence Society シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国際会議

講演発表　ワークショップ: 今、ロレンスにどうアプローチできるか 2021/06/20 第５２回日本ロレンス協会大会 日本ロレンス協会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

秋元　孝文

研究課題　現代アメリカユダヤ系作家とイスラエル

講演発表　喪失を型から起こす――Great House に見るホロコースト三世の表現 2021/12/04 日本アメリカ文学会関西支部第65回支部大会シンポジウム「アメリカ文学における触覚的身体の変容――「接触」と「接続」をめぐって」 日本アメリカ文学会関西支部 口頭発表（招待・特別） 国内会議

杉浦　裕子

研究課題　エリザベス朝演劇における少年、１８世紀のシェイクスピア受容、ナイチンゲールとクリミア戦争

著書　シェイクスピアとの往還――日本スシェイクスピア協会創立六〇周年記念論集 日本シェイクスピア協会 3-24 2021/10/29 ISBN9784327472375

著書　ナイチンゲールの越境６：戦争　ナイチンゲールはなぜ戦地クリミアに赴いたのか 日本看護協会出版会 61-82 2022/02/20 ISBN9784818023901

著書　英米文学、多彩な文学解釈への誘い――シェイクスピアからシドニー、ソローからトウェイン 彩流社 61-84 2021/11/15 ISBN9784779127922

講演発表　１８世紀シェイクスピア崇拝とブルーストッキング・レディーズ 2022/03/05 「シェイクスピア崇拝と18世紀イングランド娯楽ビジネス」第４回研究会 科研費プロジェクト「シェイクスピア崇拝と18世紀イングランド娯楽ビジネス」 国内会議

講演発表　子供の反逆―『恋の骨折り損』と『御意のままに』からみる生徒・小姓としての子供たち 2021/08/21 九州シェイクスピア研究会　第190回例会 九州シェイクスピア研究会 口頭発表（一般）

講演発表　初期近代イングランドをクィアに読む・観る・考える 2021/10/09 第59回シェイクスピア学会 日本シェイクスピア協会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

大谷　祐二

研究課題　アメリカ文学、モダニズム

講演発表　"Dead echoes!": "Pawhatan's Daughter" の失われた声を求めて 2021 科学研究費・基盤研究（Ｂ）「メイフラワー・コンパクトにおける排除/包括の理論と環大西洋文化の再定位」 口頭発表（一般）

中谷　健太郎

研究課題　言語学　心理言語学　日本語対照　第二言語習得

浜本　隆三

研究課題　マーク・トウェインと１９世紀アメリカの社会と文化

論文　南北戦争後のクー・クラックス・クラン活動とユニオン・リーグーテネシー州の証言録を中心にー 洛北史学 23巻 pp.73-88 2021/06 ISSN1345-5281

福島　彰利

研究課題　音節境界の設定と異音生起の関係

社会学科

阿部　真大

研究課題　労働社会学、家族社会学、文化社会学、社会調査論

関　めぐみ

研究課題　大学運動部における学生スタッフの研究

論文　カリキュラムの多層性からみた「体育嫌い」のジェンダー・ポリティクス スポーツとジェンダー研究 20巻 pp.6-19 2022/03

論文　体育におけるヘゲモニックな男性性の構築：「体育嫌い」の男性の声から スポーツとジェンダー研究 20巻 pp.20-35 2022/03

MISC　書評に応えて 日本スポーツ社会学会 ; 1993- スポーツ社会学研究 29巻1号 pp.112-115 2021 ISSN0919-2751

MISC　私が「女子マネージャー」を研究する理由 エトセトラ 6号 pp.76-79 2021/11

栗田　宣義

研究課題　文化社会学（ファッションとメイクの社会学）

論文　流行の社会学　―ファッド、ファッション、そして、スタンダード― 新社会学研究 6巻 pp.234-241 2021/12

論文　対偶的情報ペアについての中心仮説 ―エピジェネティック社会学①― 新社会学研究 6巻 pp.138-147 2021/12

論文　計量文化社会学タイムマシーン②　『CanCam』における定数としてのマキアージュとルイ・ヴィトン 甲南大學紀要 文学編 172号 pp.93-98 2022/03

論文　ファッション＆パッション⑤ ―『Seventeen』『non-no』『MORE』の物理情報― 新社会学研究 5巻 pp.202-210 2021/07

松川　恭子

研究課題　（１）ゴア州の現地語コーンカニー語による映画業界の動向とインド映画のグローバル化、（２）湾岸アラブ諸国生まれ／育ちのインド系移民の子女たちの教育とキャリア形成、（３）メディア実践系授業の可能性についての研究

著書　インドを旅する55章 明石書店 2021/06/10 ISBN9784750352077

著書　南アジアの新しい波　下―環流する南アジアの人と文化 昭和堂 2022/03/31 ISBN9784812221198

菅　康弘

研究課題　都市・地域・観光のcross zoneとしてのstranger-native interaction、」および空間表象・大衆文化・視覚文化を通した場所論の考察

星　敦士

研究課題　社会ネットワークに関する計量社会学的研究

論文　倫理的消費の世代間比較：社会階層、社会ネットワーク、政治意識との関連から 甲南大学紀要文学編 172号 pp.99-116 2022/03/30

著書　格差と分断／排除の諸相を読む 晃洋書房 2022/02/28 ISBN9784771035904

西川　麦子

研究課題　多文化社会における草の根活動とメディアについての実践的研究

帯谷　博明

研究課題　コミュニティと環境の持続可能性に関する社会学的研究

中里　英樹

研究課題　(1)日本、オーストラリア、ドイツ、スウェーデン、ポーランドなど諸外国育児休業制度の成立・改定のプロセスの比較、および日本における育児休業取得と保育所利用に関する夫婦間および職場における交渉過程の実態についての研究 (2)質的研究および文献レビューにおけるコンピュータの活用に関する方法論的検討

田野　大輔

研究課題　ナチ・ドイツにおけるマスコミュニケーションの研究

MISC　ホロコーストは近代の産物か 筑摩書房 ちくま 602号 2021/05 単著

人間科学科

森　茂起

研究課題　トラウマ関連障害の心理療法、社会的養護実践、ソーシャルペダゴジー実践

論文　ソーシャルペダゴジー概念の意義 成果報告書, 基盤研究B代表 細井勇2018～2021年度　課題番号18H00950 pp.4-11 2022/03

論文　戦争体験者と解離 こころの科学 221号 pp.53-58 2021/12/17

論文　ナラティヴ・エクスポージャー・セラピーと複雑性PTSD（CPTSD） 精神療法 47巻 2021

論文　心理療法で語られるトラウマの物語 精神分析的心理療法フォーラム 9巻 pp.83-90 2021

西　欣也

研究課題　「犠牲」概念の再検討

川口　茂雄

研究課題　哲学

川田　都樹子

研究課題　近現代芸術批評理論（特にフォーマリズム批評の再検証）、芸術療法の歴史と現状

MISC　「垂直」の立体試作と「襖絵」製作を経て 『岸本吉弘／垂直性の周辺　2019-2021』ギャラリー白（西天満） pp.04-07 2022/01

講演発表　「岸本吉弘展／絵画―垂直が意味するもの」 2022/01/17 ギャラリー・トーク（展覧会関連イベント） ギャラリー白 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　絵画のみかた ―フォーマリズム入門― 2021/10/02 芦屋市立美術博物館　開館30周年記念 コレクション展「絵画はつづく、今日にむかって」関連企画 芦屋市立美術博物館 国内会議

講演発表　絵画を観る～セザンヌ～ 2021/09/07 三田市生涯学習サポートクラブ 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

大西　彩子

研究課題　中学生のいじめに関する認知のゆがみと集団要因の研究

論文　青年の選択的道徳不活性化の研究 甲南大学教育学習支援センター紀要 7号 pp.59-66 2022/03/23

大澤　香織

研究課題　①専門家・非専門家を対象としたトラウマに関する心理教育プログラム，およびトラウマ体験者への対応に関する教育・研修プログラムの開発とその効果検証を試みる。これに関連して，トラウマ体験者が援助要請を行いやすい環境整備に寄与するような基礎研究も実施し，プログラムの内容に還元することを試みる　②健康の維持増進に寄与する情報提供と人々の意識・行動変容に有用となりうる情報伝達方法とデザインについて，これまでの知見を展望しながら検討する

論文　マインドフルネス傾向およびトラウマ関連の否定的認知・回避的対処がPTSD症状に及ぼす影響 認知療法研究 15巻1号 pp.92-101 2022/02/28

服部　正

研究課題　アウトサイダー・アート／アール・ブリュットの研究

福井　義一

研究課題　複雑性PTSDや解離性障害の発症メカニズムの解明と介入技法の確立，催眠に対する態度の変容可能性，いじめ被害者への有責性認知に関する研究

北川　恵

研究課題　臨床心理学、人格発達心理学、発達臨床心理学

論文　Effects of an attachment-based parent intervention on mothers of children with autism spectrum disorder: preliminary findings from a non-randomized controlled trial. Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health 15巻 2021/07/18

論文　アタッチメントの病理・問題と臨床実践 入門アタッチメント理論：臨床・実践への架け橋 pp.155-167 2021/10 ISBN 978-4-535-98479-0

論文　アタッチメント理論をベースにした親子への介入の実際 子どもの虐待とネグレクト 23巻2号 pp.136-143 2021/08/16

論文　Attachment-based intervention improves Japanese parent-child relationship quality: A pilot study Current Psychology 2021

講演発表　アタッチメント理論の臨床的活用（シンポジウムタイトル「Manchester Child Attachment Story Task （MCAST）を使った児童期のアタッチメントの測定」） 2021/12/05 日本子ども虐待防止学会第27回学術集会かながわ大会 シンポジウム・ワークショップ パネル（公募） 国内会議

講演発表　自閉スペクトラム症児の養育者に対するアタッチメント理論に基づいた親子関係支援：非ランダム化比較による効果検証 2021 第62回日本児童青年精神医学会総会 ポスター発表 国内会議

野崎　優樹

研究課題　他者の感情の調整に関する心的メカニズムの解明

著書　感情制御ハンドブック－基礎から応用そして実践へ－ 北大路書房 95–103 2022/03/03 ISBN9784762831829

著書　心理学と心理的支援（新・社会福祉士シリーズ 2） 弘文堂 2022/02 ISBN9784335612077

著書　非認知能力－概念・測定と教育の可能性－ 北大路書房 133–148 2021/08/13 ISBN9784762831645

講演発表　他者の情動を調整する方略の選択－受け手のネガティブ情動の強度に注目した検討－ 2021/10/30 日本感情心理学会第29回大会 口頭発表（一般） 国内会議

歴史文化学科

稲田　清一

研究課題　中国における地域社会史の研究

佐藤　公美

研究課題　西洋中世史　イタリア中世政治史・社会史・文化史　アルプス中世政治史・社会史・文化史　比較史

論文　江川溫・朝治・服部良久三氏の報告に寄せて 鷹陵史学 第47号 pp.77-90 2021/09/25

論文　「暴君」リナルド・ダ・モンテヴェルデとフェルモの反乱――八聖人戦争期の移動する傭兵隊長 髙田京比子・田中俊之・轟木広太郎・中村敦子・小林功編『中近世ヨーロッパ史のフロンティア』昭和堂 pp.241-267 2021/12/20

論文　モビリティーの歴史学のために――中・近世ヨーロッパにおける空間・社会移動の歴史研究の理論的前提―― 甲南大學紀要　文学編 第172号 pp.199-213 2022/03

MISC　「小さな」地中海の交易網――兵庫津と比較する 昭和堂 甲南大学プレミアプロジェクト神戸ガイド編集委員会『大学的神戸ガイド―こだわりの歩き方』 2021 ISBN9784812220153 単著

講演発表　Reflection from the project Spatial and Social Mobilities in the Medieval and Early Modern Alpine Regions: Political, Religious, and Social Dynamics in Boundary Areas 2022/02/25 Communication Maintenance in Longue Durée Laboratorio di Storia delle Alpi, U

講演発表　Rivolte locali e rivolte sovra-regionali nell'Italia del Trecento 2021/04/02 Attività formative per il dottorato di ricerca in Studi Storici: Età antica e medievale, 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等

佐藤　泰弘

研究課題　平安時代における徴税の社会的影響について

出口　晶子

研究課題　ユーバーシャールの日本学と教育研究の軌跡（続）

中町　信孝

研究課題　東洋史、イスラーム地域研究 アラビア語写本の文献学的研究、中世アラブ社会史、文化史、現代アラブのポピュラーカルチャー研究

中辻　享

研究課題　東南アジアにおける生計と土地利用の変化に関する研究

東谷　智

研究課題　日本近世史（特に政治史・藩政史・地域史）・史料の調査・整理論 ・博物館学や文化財行政論

鳴海　邦匡

研究課題　人と地域の関わりに関する様々な文化的な事象について

論文　台湾遠征：日清戦争期までに台湾の主要港湾について作製された英国製海図の翻訳(覆版)にみえる地名表記 地図 60巻1号 pp.17-35 2022/03/31

論文　（書評）羽山久男著『徳島藩分間絵図の研究』 歴史地理学 301号 pp.33-35 2021/07

著書　地図 法政大学出版局 2021/12 ISBN978-4588218712

著書　伊能忠敬の地図作製：伊能図・シーボルト日本図を検証する 古今書院 103-112 2022/02 ISBN9784772220309

髙田　実

研究課題　生の歴史学—比較史的研究

MISC　福祉の複合体 社会経済史学会編『社会経済学史事典』 pp.262-263 2021/06/20 ISBN978-4-621-30602-4

MISC　友愛組合 社会経済史学会編『社会経済学史事典』 pp.268-269 2021/06/20 ISBN978-4-621-30602-4

文学部共通

高石　恭子

研究課題　発達障害・精神障害のある学生への心理援助のあり方について

論文　コロナ禍が加速した学生の体験様式の変容について 甲南大学学生相談室紀要 29巻 pp.40-52 2022/02/28

著書　子育ての常識から自由になるレッスンーおかあさんのミカタ 世界思想社 2021/06/30

MISC　本田論文へのコメントー「見られる」存在から「見る」存在への変容を可能にしたものは何か 天理大学カウンセリングルーム紀要 18号 pp.105-108 2022/01/11

MISC　本田論文へのコメントー母親面接という奥深い世界 神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室紀要「心理相談研究」 23号 pp.49-52 2022/03/31

MISC　田中論文へのコメントー母親担当者に求められる複眼のまなざし 帝塚山学院大学大学院心理教育相談センター紀要 18号 pp.43-47 2022/03/01

MISC　人生100年時代の「臨床」を考える 臨床心理士報 32巻2号 pp.44-45 2021/08/31

MISC　コロナ禍における大学生のメンタルヘルス 神戸女学院大学カウンセリングルーム紀要 27号 pp.5-19 2022/03/31

MISC　コロナ禍が大学生の心に及ぼす影響と学生相談にできること—育ちの支援という視点から 子育て支援と心理臨床 21巻 pp.82-87 2021/12/20

MISC　大澤論文へのコメントー「渡されたものを受け取る」夢が教えてくれること 京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要「臨床心理事例研究」 48巻 pp.25-28 2021/10/29

MISC　連携と協働を力に　一人ひとりに寄り添う学生支援を 国立大学 63巻 pp.6-9 2022/03

講演発表　対面と遠隔の融和領域としての描画 2021/10/10 日本箱庭療法学会第34回大会 日本箱庭療法学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　私たちは何に直面し、どんな工夫をして、そして何を学んだのか〜1年3か月を振り返って、明日を考える 2021/05/15 日本学生相談学会第39回大会シンポジウム 日本学生相談学会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　実行委員会企画　構造化ディスカッショングループ 2021/09/04 日本心理臨床学会第40回大会 日本心理臨床学会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

池上　知子

研究課題　社会に偏見や差別、格差や不平等をもたらす心理学的要因の解明

論文　量刑判断における心理的距離の影響を抑制する要因の検討 法と心理 21巻1号 pp.109-122 2021/12/25 ISSN1346-8669

論文　Influence of psychological distance on people's willingness to help accident victims: Discrepancies between implicit and explicit inferences. SAGE Open 2021/07/20

論文　援助行動が自己呈示とみられるとき：観察者の有無と性別が動機推測に及ぼす影響 実験社会心理学研究 61巻1号 pp.1-9 2021/10/15 ISSN0387-7973

講演発表　援助規範の顕現化は利己的動機の推測を抑制するか（２）「小さな親切」行動を対象とした検討 2021/09/01 日本心理学会第85回大会 日本心理学会 ポスター発表 国内会議

講演発表　「誰一人取り残さない」社会の実現のために：　格差の解消について考える 2022/03/27 日本心理学会2021年度第2回公開シンポジウム　多様性と包摂について考える 日本心理学会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　How do beliefs in reproduction justify homophobia expression. 2021/07/18 The 32nd International Congress of Psychology ポスター発表 国際会議

講演発表　When and why people decide to help people with disabilities: Role of distributive justice principles. 2021/07/18 The 32nd International Congress of Psychology ポスター発表 国際会議

講演発表　援助規範の顕現化は利己的動機の推測を抑制するか（１）人命救助場面での検討 2021/08/26 日本社会心理学会第62回大会 日本社会心理学会 ポスター発表 国内会議

富樫　公一

研究課題　精神分析・臨床心理学 トラウマや差別、人間的苦悩が精神分析臨床にどのように現れ、それがどのように患者の人生に組み込まれていくのかについての研究

論文　From a Cohesive Self to a Relational Being: The Evolution of the Psychology of the Self to the Psychology of Being Human. Psychoanalytic Inquiry 41巻3号 pp.187-198 2021/04

論文　The Other in Clinical Practice Psychoanalytic Inquiry 42巻2号 pp.147-157 2022/03

著書　当事者としての治療者—差別と支配への恐れと欲望 岩崎学術出版社 2021/04 ISBN4753311791

MISC　医療安全を心理的視座からとらえること 病院安全教育 6.7月号 pp.3-5 2021/06 単著

MISC　医療安全問題を組織の中に位置づけるための視座 病院安全教育 6.7月号 pp.18-24 2021/06 単著

MISC　小林論文に関するコメント〜分裂と間主観的タブー 上智大学臨床心理研究 44巻 pp.101-105 2021/12

MISC　精神療法家のメンタルヘルス—オンライングループの試み 金剛出版 精神療法 47巻2号 pp.216-218 2021/04/05 単著

講演発表　間主観的な事例の記述 2021/12/12 2021臺灣自體心理學検討會 臺灣自體心理學検討會 口頭発表（招待・特別） 国内会議

講演発表　精神分析の訓練と文化の問題 2021/12/20 東京大学職域・地域架橋型TICPOC第4回公開シンポジウム　当事者中心の時代の専門性 文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム事業 口頭発表（招待・特別） 国内会議

理工学部

物理学科

井上　剛志

研究課題　物理学、宇宙物理学

論文　Cloud–cloud collisions and triggered star formation Publications of the Astronomical Society of Japan 2021

論文　Formation of Massive Star Clusters by Fast H i Gas Collision The Astrophysical Journal 2021

論文　Rapid and efficient mass collection by a supersonic cloud–cloud collision as a major mechanism of high-mass star formation Publications of the Astronomical Society of Japan 2021

山本　常夏

研究課題　高エネルギー宇宙観測

山﨑　篤志

研究課題　電子物性　電子構造から新奇量子相や相転移の起源を解明

MISC　直線偏光制御硬X線光電子分光によるホイスラー合金の価電子帯電子構造研究 日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム(Web) 34th巻 2021

MISC　YbRh₂Si₂の内殻光電子線二色性による4f電荷分布の4回対称性観測 日本物理学会講演概要集(CD-ROM) 76巻2号 2021 ISSN2189-079X

MISC　Au-Ga-Ce1/1近似結晶に対する温度可変光電子分光 日本物理学会講演概要集(CD-ROM) 76巻2号 2021 ISSN2189-079X

MISC　Au-Ga-Ce1/1近似結晶の硬X線内殻・価電子帯光電子分光 日本物理学会講演概要集(CD-ROM) 76巻1号 2021 ISSN2189-079X

講演発表　Au-Ga-Ce 1/1 近似結晶に対する温度可変光電子分光 2021/09/20 日本物理学会　秋季大会 国内会議

講演発表　Au-Ga-CeおよびCd-Ce近似結晶に対する硬X線内殻・軟X線3d-4f共鳴光電子分光 2022/03/17 日本物理学会 第77回年次大会 国内会議

講演発表　YbRh2Si2の内殻光電子線二色性による 4f 電荷分布の 4 回対称性観測 2021/09/20 日本物理学会　秋季大会 国内会議

講演発表　YbRh2Si2の内殻光電子線二色性による近藤一重項形成の直接的観測 2022/03/17 日本物理学会 第77回年次大会 国内会議

講演発表　温度依存 HAXPESにより調べたRuddlesden-Popper系Ir酸化物の絶縁化機構 2022/01/08 放射光学会　第35回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム 国内会議

講演発表　硬X線光電子分光によって明らかにするLaO0.5F0.5Bi1-xPbxS2のバルク電子構造 2022/03/17 日本物理学会　第77回年次大会 国内会議

講演発表　硬X線内殻・価電子帯光電子分光によるAu-Ga-Ce 1/1 近似結晶の電子状態研究 2022/01/08 放射光学会　第35回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウム 国内会議

講演発表　高分解能X線吸収分光で見たLaO0.5F0.5Bi1-xPbxS2の構造相転移に伴う電子構造変化 2022/03/17 日本物理学会　第77回年次大会 国内会議

市田　正夫

研究課題　酸化グラフェンにおける非線形光学応答

論文　Simple and Downsized Amplification System of a Femtosecond Laser Pulse using Dye Gain Media Memoirs of Konan University. Science and Engineering Series 68巻2号 pp.3-7 2022/02

論文　リアルタイムオンライン指導により学生自身が自宅で行う実験・実習 物理教育 69巻 pp.257-264 2021

論文　オンラインによる自宅での学生実験・実習の試み 近畿の物理教育 27巻 pp.7-13 2021

秋宗　秀俊

研究課題　軽い核から中重核のアルファクラスター構造

論文　Candidates for the 5α condensed state in 20Ne Physics Letters B 819巻 pp.136411-136411 2021/08 ISSN0370-2693

論文　First experimental determination of the radiative-decay probability of the 31− state in 12C for estimating the triple alpha reaction rate in high temperature environments Physics Letters B 817巻 pp.136283-136283 2021/06 ISSN0370-2693

小堀　裕己

研究課題　スピンエレクトロニクス　スピンエレクトロニクスに関連した多機能デバイス材料の物性探索

論文　Magneto-Transport Properties and Hole Self-Doping due to Excess Oxygen Addition in Polycrystalline LaMnO3 Materials Science Forum 1053巻 pp.55-60 2022/02/17 ISSN1662-9752

松田　洋平

研究課題　エキゾチック原子核に関する研究

論文　Candidates for the 5α condensed state in 20Ne Physics Letters B 819巻 pp.136411-136411 2021/05 ISSN0370-2693

論文　First experimental determination of the radiative-decay probability of the 31− state in 12C for estimating the triple alpha reaction rate in high temperature environments Physics Letters B 817巻 pp.136283-136283 2021/04 ISSN0370-2693

須佐　元

研究課題　初代星の形成・ブラックホール連星の前駆体としての初代星連星の形成

論文　Amplification of Turbulence in Contracting Prestellar Cores in Primordial Minihalos The Astrophysical Journal 915巻2号 pp.107-107 2021/07/01 ISSN0004-637X

論文　Ionization degree and magnetic diffusivity in star-forming clouds with different metallicities Monthly Notices of the Royal Astronomical Society 502巻3号 pp.3394-3416 2021/04 ISSN0035-8711

論文　Merger Rate Density of Binary Black Holes through Isolated Population I, II, III and Extremely Metal-poor Binary Star Evolution The Astrophysical Journal 926巻1号 pp.83-83 2022/02/01 ISSN0004-637X

青木　珠緒

研究課題　芳香族分子性結晶薄膜における励起子の研究

論文　リアルタイムオンライン指導により学生自身が自宅で行う実験・実習 物理教育 69巻 pp.257-264 2021

論文　オンラインによる自宅での学生実験・実習の試み 近畿の物理教育 27巻 pp.7-13 2021

講演発表　パルスレーザーアブレーション過程で形成された球状サブミクロン粒子の慣性インパクターを用いた収集 2021/11/30 電子材料研究会 電気学会　電子材料研究会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　テトラセン凝集体における励起子発光 2021/09/22 日本物理学会　2021年　秋季大会 日本物理学会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Heガス中でのパルスレーザーアブレーション過程で形成された球状サブミクロン粒子の粒径分布制御 2022/03/23 応用物理学会春季学術講演会 応用物理学会 国内会議

講演発表　ダブルパルスレーザーアブレーションでの球状サブミクロン粒子複合体の形成 2021/09/10 第82回　応用物理学会秋季学術講演会 応用物理学会 口頭発表（一般） 国内会議

田中　孝明

研究課題　宇宙線加速源と加速機構の解明

論文　Discovery of a Highly Neutronized Ejecta Clump in the Type Ia Supernova Remnant 3C 397 The Astrophysical Journal Letters 913巻2号 pp.L34- 2021

論文　Investigation of the Physical Origin of Overionized Recombining Plasma in the Supernova Remnant IC 443 with XMM-Newton The Astrophysical Journal 921巻2号 pp.99- 2021

論文　Low-energy X-ray performance of SOI pixel sensors for astronomy, “XRPIX” Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A 986巻 pp.164745- 2021

論文　Proton radiation hardness of x-ray SOI pixel sensors with pinned depleted diode structure Journal of Astronomical Telescopes, Instruments, and Systems 7巻3号 pp.036001- 2021/07/01 ISSN2329-4124

論文　Rapid Deceleration of Blast Waves Witnessed in Tycho’s Supernova Remnant The Astrophysical Journal Letters 906巻1号 pp.L3- 2021

論文　Screening and selection of XRISM/Xtend flight model CCD Nuclear Instruments and Methods in Physics Research A 985巻 pp.164676- 2021

梅津　郁朗

研究課題　半導体　ナノ構造半導体の創成と再生可能エネルギー材料への応用

論文　リアルタイムオンライン指導により学生自身が自宅で行う実験・実習 物理教育 69巻4号 pp.257-264 2021

髙吉　慎太郎

研究課題　強相関物質におけるダイナミクスの理論

論文　Nonadiabatic nonlinear optics and quantum geometry - Application to the twisted Schwinger effect SCIPOST PHYSICS 11巻4号 2021/10/12 ISSN2542-4653

論文　Solitonic excitations in the Ising anisotropic chain BaCo2V2O8 under large transverse magnetic field PHYSICAL REVIEW RESEARCH 3巻 pp.043227- 2021/12/29

論文　Exploring nonequilibrium phases of photo-doped Mott insulators with generalized Gibbs ensembles Communications Physics 5巻1号 2022/01/13

生物学科

久原　篤

研究課題　線虫C. elegansにおける全身周回性の神経回路による低温順化の制御

MISC　Imaging and manipulation of temperature response of nerve cells in brain-gut interaction underlying cold tolerance Agribio 5巻6号 pp.55-61 2021/06

MISC　Neural Circuit Model for Sensory Information Integration in C. elegans Biophys 61巻3号 pp.192-193 2021/06 共著

後藤　彩子

研究課題　女王アリの長期間にわたる精子貯蔵メカニズムとその進化

論文　Caste differentiation of spermatheca and organs related to sperm use and oviposition in the honeybee, Apis mellifera Apidologie 52巻1号 pp.262-271 2021 ISSN0044-8435

向　正則

研究課題　分子遺伝学　ショウジョウバエの突然変異体を使って、生殖細胞の形成分化に必要な遺伝子の機能を解析する

今井　博之

研究課題　植物細胞工学　植物でのスフィンゴ脂質の生理機能を解明し、スフィンゴ脂質代謝に関わる物質生産技術の開発

上田　晴子

研究課題　細胞内膜系や細胞骨格の動態解析から植物が環境変化に適応するしくみを探る

論文　In vitro assembly of nuclear envelope in tobacco cultured cells Nucleus 12巻 pp.82-89 2021

渡辺　洋平

研究課題　タンパク質の生成・成熟・再生における翻訳マシナリーと分子シャペロンの役割

日下部　岳広

研究課題　脳内ニューロン集団の細胞系譜と発生機構の解析

論文　A single motor neuron determines the rhythm of early motor behavior in Ciona Science Advances 7巻50号 2021/12/10

論文　Evolution of developmental programs for the midline structures in chordates: insights from gene regulation in the floor plate and hypochord homologues of Ciona embryos Frontiers in Cell and Developmental Biology 9巻 704367号 pp.704367- 2021/05/25

論文　Neuronal identities derived by misexpression of the POU IV sensory determinant in a protovertebrate Proceedings of the National Academy of Sciences 119巻4号 pp.e2118817119-e2118817119 2022/01/25 ISSN0027-8424

論文　The complete cell lineage and MAPK- and Otx-dependent specification of the dopaminergic cells in the Ciona brain Development dev.198754巻12号 pp.dev198754- 2021/05/24 ISSN0950-1991

武田　鋼二郎

研究課題　微生物学　細胞の栄養応答、特にリン酸、ポリリン酸の代謝と制御機構析

論文　Regulation of inorganic polyphosphate is required for proper vacuolar proteolysis in fission yeast. The Journal of biological chemistry 297巻1号 pp.100891-100891 2021/07

講演発表　分裂酵母SPX-RING型E3リガーゼPqr1によるリン酸取り込み制限の必須性 2021/08 酵母遺伝学フォーラム第５４回研究報告会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　分裂酵母におけるリン酸源枯渇時のポリリン酸関連因子の働き 2021/08 酵母遺伝学フォーラム第５４回研究報告会 ポスター発表 国内会議

本多　大輔

研究課題　原生生物ラビリンチュラ類の海洋生態系における役割の解明

論文　Draft Genome Sequence of Sicyoidochytrium minutum DNA Virus Strain 001 Microbiology Resource Announcements 10巻23号 2021/06/10

論文　PUFA synthase-independent DHA synthesis pathway in Parietichytrium sp. and its modification to produce EPA and n-3DPA Communications Biology 4巻1号 2021/12

機能分子化学科

岩月　聡史

研究課題　新しい分離・分析手法の開拓

論文　Colorimetric and fluorometric determination of boron using β-diketone–BF2 compounds containing catechol moiety Talanta Open 4巻 pp.100076- 2021/12

論文　Preparation of Tricationic Tris(pyridylpalladium(II)) Metallacyclophane as an Anion Receptor Chemical Communications 58巻 pp.2196-2199 2022/02

論文　Solid State Characterization of One- and Two-Electron Oxidized CuII-salen Complexes with para-Substituents: Geometric Structure-Magnetic Property Relationship European Journal of Inorganic Chemistry 2021巻 pp.4133-4145 2021/10

山本　雅博

研究課題　第一原理計算による電気二重層の理論

論文　The use of the reference electrode equipped with an ionic liquid salt bridge in electrochemistry of ionic liquids: A convenient way to align the formal potentials of redox reactions in ionic liquids based on the standard hydrogen electrode scale ELECTROCH

村上　良

研究課題　微粒子の流体界面吸着に関する研究

論文　Mechanism of multilayer formation on liquid marbles Colloid and Interface Science Communications 47巻 pp.100607- 2022/03

檀上　博史

研究課題　有機合成化学　有機合成化学、超分子化学、分子認識化学

池田　茂

研究課題　光エネルギー変換材料化学 無機材料化学、光電気化学、触媒化学

論文　Enhancement of the photoelectrochemical properties of a CuGaSe2-based photocathode for water reduction induced by loading of a Cu-deficient layer at the p–n heterointerface Applied Physics Letters 119巻8号 pp.083902-083902 2021/08/23 ISSN0003-6951

論文　Effect of radio-frequency power on the composition of BiVO4 thin-film photoanodes sputtered from a single target Energies 14巻8号 pp.2122-1-2122-10 2021/04/10 ISSN1996-1073

論文　Effects of incorporation of Ag into a kesterite Cu2ZnSnS4 thin film on its photoelectrochemical properties for water reduction Phys. Chem. Chem. Phys. 24巻1号 pp.468-476 2021/11 ISSN1463-9076

著書　Yolk-shell and Core-shell Nanocatalysts Springer 367-378 2021/05 ISBN978-981-16-0462-1

MISC　Copper-based kesterite thin films for photoelectrochemical water splitting Walter de Gruyter GmbH High Temp. Mater. Process. 40巻1号 pp.446-460 2021/12

MISC　水分解光触媒研究の50年 ニューセラミックスレター 74巻 pp.27-28 2021/11

茶山　健二

研究課題　環境分析・計測化学　分析化学、環境化学、分離分析

論文　Structural Chemistry and Stimuli-Responsive Phase Transition of N,N'-Dialkylimidazolium Nonafluorobutanesulfonate Ionic Liquids Cryst.Growth Des. 2021巻21号 pp.617-624 2021

町田　信也

研究課題　全固体リチウム電池用材料の開発とその特性

著書　Next Generation Batteries Springer 107-118 2021/04/22 ISBN978-981-33-6667-1

MISC　シリコン溶射膜の硫化物系全固体電池用負極への適用 溶射技術 40巻4号 pp.2-5 2021/04/29 ISBN978-4883186624 共著

講演発表　シリコン溶射膜の全固体電池用負極材料としての特性 2021/06/02 粉体粉末冶金協会 2021年度春季大会(第127回講演大会) 日本粉体粉末冶金協会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　湿式法により合成したLi#D10+x#DRGe#D1+x#DRP#D2-x#DRS#D12#DR固体電解質の電気化学的特性 2021/06/02 粉体粉末冶金協会 2021年度春季大会(第127回講演大会) 日本粉体粉末冶金協会 口頭発表（一般） 国内会議

渡邉　順司

研究課題　ポリマー材料への充填剤の分散性と物性改善に関する研究

内藤　宗幸

研究課題　ナノポア材料の細孔密度制御に関する研究

片桐　幸輔

研究課題　構造有機化学　有機化学、有機金属化学、有機結晶化学

木本　篤志

研究課題　有機材料化学　高分子化学、有機化学、材料化学

理工学部共通

堀内　清光

研究課題　数学基礎・応用数学

林　慶一

研究課題　地質学・古生物学　白亜紀の非海生の貝形虫化石による地層の年代論や古環境の研究

論文　紀伊半島の白亜系日高川層群地帯おける斜面崩壊と土石流の特徴 甲南大学紀要 理工学部編 68巻1号 pp.1-17 2021/10

論文　研究者の研究過程を考慮した理科の探究活動とその指導の在り方 科学教育研究 45巻3号 pp.316-330 2021/10/05

講演発表　Web地質図の3D地形模型への投影と彩色による地域地質教材の開発 2021/08/21 日本地学教育学会第75回全国大会・2021年度全国地学教育研究大会 日本地学教育学会 国内会議

経済学部

経済学科

永廣　顕

研究課題　財政金融論、財政金融史

講演発表　戦前期日本の国債発行・流通市場 2022/03/08 日本銀行金融研究所セミナー 日本銀行金融研究所 国内会議

奥田　敬

研究課題　経済学史　社会思想史　近代南イタリア史

論文　【資料紹介】 ジェノヴェージ『商業講義』序言と ディ・ステーファノ『牧人の権利』の抜粋 ―〈経済的理性〉あるいは〈生政治〉の系譜学のために― 甲南経済学論集 61巻3・4号 pp.155-182 2021/04 ISSN0452-4187

岡田　元浩

研究課題　経済学説史

論文　Friedrich von Wieser on labour The European Journal of the History of Economic Thought 29巻1号 pp.21-39 2022/02

論文　Maffeo Pantaleoni on labour exchange: bridge between neoclassicism and Fascism The European Journal of the History of Economic Thought 28巻2号 pp.179-200 2021/04

宮川　敏治

研究課題　ゲーム理論、ミクロ経済学、メカニズム・デザイン

寺尾　建

研究課題　経済理論／マクロ経済学

春日　教測

研究課題　産業組織論／企業の経済学

講演発表　個人のサステイナブル投資への選好 モラルとリテラシーの効果 2021/09/08 関西大学RISSワークショップ 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　How Do Durable Goods Firm Combine Online and Mass Media Advertisement to Promote Sales? 2021/06/21 International Telecommunications Society 2021, 23rd Biennial Conference 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　ネット動画配信の参入による視聴環境変化が公共放送に与える影響 2021/06/26 情報通信学会春季大会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　個人のサステイナブル投資への選好 モラルとリテラシーの効果 2021/06/06 第29回 日本ファイナンス学会 口頭発表（一般） 国内会議

小佐野　広

研究課題　情報の経済学とコーポレート・ファイナンス

小山　直樹

研究課題　計量経済学　経済統計学

上島　康弘

研究課題　労働経済学

森　剛志

研究課題　家計の経済学　資源分配　医療経済

森本　裕

研究課題　交通経済学　空港、港湾の効率的な利用を実現する政策

青木　浩治

研究課題　国際経済学

石原　忍

研究課題　租税法（特に所得課税法）

石川　路子

研究課題　都市経済学　地域経済学　医療経済学

石田　功

研究課題　金融経済学、計量ファイナンス、実証ファイナンス

足立　泰美

研究課題　財政学　社会保障財政学 研究タイトル　社会保障の財源と給付の検証

講演発表　健康経営施策と雇用環境における実証的検証：全国健康保険協会加入者を対象とした事業所・従業者アンケートによる検証 2021/05/15 日本経済学会2021年度春大会（於：関西学院大学） 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　退職給付制度による賃金水準と高齢者雇用との関係"Wage Levels and Employment of Middle-Aged Workers by Corporate Retirement Benefits" 2021/06/05 日本地方財政学会第29回大会（於：ソニックシティ国際会議室） 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　高齢者雇用政策の効果"Employment of Middle-Aged Workers by Corporate Retirement Benefits" 2021/06/19 生活経済学会第37回研究大会（於：オンライン） 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　経済ショックと財政問題 2021/10/19 日本租税協会　税制基本問題研究会 「社会・経済環境の変化と税制」 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Discussant"Mortgage Prepayment, Race, and Monetary Policy"(001)Applications and Household Decisions 2021/06/27 96th Annual Conference in Western Economic Association International,Virtual 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　Consumption Behaviors after the Increase of the Normal Retirement Age in Japan 2021/06/27 96th Annual Conference in Western Economic Association International 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　水道事業における料金体系の検証 2021/09/03 地方分権に関する基本問題についての調査研究会 口頭発表（一般） 国内会議

村澤　康友

研究課題　経済学教育の実証研究

竹内　綱敏

研究課題　租税法

論文　租税法における行為計算否認規定の淵源（Ⅱ） 甲南経済学論集 62巻1・2号 pp.1-34 2021/09/20

中川　真太郎

研究課題　公共経済学

藤原　健剛

研究課題　社会科　地理歴史科　公民科教育法　特別活動指導法　教職実践　市民性教育　古ゲルマン社会　他

平井　健介

研究課題　学術研究成果の成果の社会への発信

論文　日本植民地期台湾における旅人宿 千住一・老川慶喜編『帝国日本の観光：政策・鉄道・外地』 pp.187-214 2022/02

著書　ハンドブック日本経済史：徳川期から安定成長期まで ミネルヴァ書房 2021/12 ISBN9784623091942

著書　帝国日本の観光：政策・鉄道・外地 日本経済評論社 187-214 2022/02 ISBN9784818826069

MISC　（解説）産業化の発展と「帝国」化 平井健介・島西智輝・岸田真編著『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房 pp.102-105 2021/12

MISC　（研究展望）涂照彦『日本帝国主義下の台湾』 （特集 戦後歴史学の著作を読む（6）） 日本史研究 708号 pp.112-125 2021/08

MISC　（解説）日本の食糧需給：植民地農業の影響 平井健介・島西智輝・岸田真編著『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房 pp.168-171 2021/12

MISC　（解説）台湾領有への道：一九世紀日本の南進政策 平井健介・島西智輝・岸田真編著『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房 pp.64-67 2021/12

MISC　（解説）「移民の世紀」と日本：移民の送出と受入 平井健介・島西智輝・岸田真編著『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房 pp.106-109 2021/12

MISC　（解説）自由貿易体制への参入と近代化への模索 平井健介・島西智輝・岸田真編著『ハンドブック日本経済史』ミネルヴァ書房 pp.52-55 2021/12

林　健太

研究課題　情報通信経済学　余暇の経済学

論文　新型コロナ禍中における余暇消費動向に関する一考察　～2019年から2020年にかけて～ 甲南経済学論集 62巻3・4号 pp.281-297 2022/03

林　亮輔

研究課題　財政学、公共経済学

法学部

法学科

益澤　彩

研究課題　他人の行為についての不法行為責任

岡森　識晃

研究課題　行政法

論文　フランス行政訴訟における客観的全面審判訴訟の形成と展開－コランによる歴史分析の検討－（研究ノート） 成城法学 89号 pp.199-253 2022/03/18

著書　公法入門（第3版） 110-119 2021/08/15

橋口　祐介

研究課題　契約法・不法行為法をめぐる民法の現代化―法のデジタル化の観点から

論文　不法行為に基づく損害賠償と賠償者代位　―物の毀損をめぐる当事者関係を中心に― 甲南法学 62巻1-4号 pp.169-183 2022/03

金　ムンスク

研究課題　国際私法

MISC　Zainichi no Sozokuho:Sono Riron to Jitsumu [Succession Law for the Korean in Japan:Theories and Practice], written by CHO Kyong-Jeo, Nihonkajoshuppan, 2019. Pp.xxⅱ, 672 Japanese Yearbook of International Law 64巻 pp.255-257 2021 ISSN1883-9959

MISC　渉外家事事件判例評釈(97) 戸籍時報 820号 pp.31-37 2022/01 ISSN0912-1579

金丸　義衡

研究課題　損害賠償制度における支出・費用の横断的考察

MISC　民法学のあゆみ：手嶋豊『医師患者関係と法規範』 日本評論社 法律時報 93巻9号 pp.143-147 2021/09 ISSN0387-3420 単著

MISC　民法学のあゆみ：藤村和夫『交通賠償理論研究の道程』 日本評論社 法律時報 93巻11号 pp.143-147 2021/11 ISSN0387-3420 単著

桑岡　和久

研究課題　消費者法

論文　定型約款規定と消費者契約法 ジュリスト 1558巻 pp.22-27 2021/05

著書　Before/After民法改正第2版 弘文堂 6-7 2021/10/15

著書　判例プラクティス民法Ⅰ第2版 信山社 2022/03/31

阪上　眞千子

研究課題　ヨーロッパ前近代における事実婚・内縁の法理

論文　ヨーロッパ中世における内縁・事実婚の法的処遇－イタリアの例－ 阪大法学 71巻3・4号 pp.223-243 2021/11/30 ISSN0438-4997

講演発表　イタリア中世における女性の財産権－ローマ法学説と地域特有法－ 2022/02/11 女性の財産権・相続をめぐる比較ジェンダー史 科研費基盤研究（B）「『アジア・ジェンダー史』の構築と『歴史総合』教材の開発」科研費基盤研究（A）「イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究」 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

笹倉　香奈

研究課題　誤判・冤罪に関わる諸問題の総合的研究

論文　連載・冤罪を考える③ アメリカの誤判・冤罪とイノセンス運動(1) 時の法令 2121号 pp.64-68 2021/05/15

論文　冤罪を考える(8) 児童虐待と冤罪(1) 時の法令 2135号 pp.71-75 2021/12

論文　冤罪を考える(10)児童虐待と冤罪(えんざい)(3) 時の法令 2141号 2022/03

論文　連載・冤罪を考える⑤ 冤罪と死刑① 時の法令 2129号 2021/09

論文　冤罪を考える(9)児童虐待と冤罪(えんざい)(2) 時の法令 2139号 pp.72-77 2022/02

論文　連載・冤罪を考える④ アメリカの誤判・冤罪とイノセンス運動(2) 時の法令 2123号 pp.34-38 2021/06

論文　連載・冤罪を考える(7) 冤罪と死刑② 時の法令 2133号 2021/11

論文　証人尋問、当事者主義と心理学 (特集 心理学と法学の止揚の可能性) 法と心理 21巻1号 pp.12-20 2021/12

論文　刑事訴訟におけるDNA情報の証拠取扱い (特集 交錯する手続法の世界) 法学セミナー 67巻2号 pp.36-42 2021/12

論文　供述の心理学的評価方法：その到達点と課題 冤罪白書2021 3号 pp.196-203 2021/11

論文　SBS/AHTと刑事裁判：乳幼児揺さぶられ症候群と虐待による頭部外傷をめぐる議論の現状 犯罪と刑罰 31号 pp.157-182 2022/03

論文　連載・冤罪を考える④ アメリカの誤判・冤罪とイノセンス運動(3) 時の法令 2125号 2021/08

論文　連載・冤罪を考える② 日本の誤判・冤罪（2） 時の法令 2119号 pp.43-48 2021/04

著書　NBS 刑事訴訟法 日本評論社 2022/03 ISBN9784535806979

著書　裁判員時代の刑事証拠法 日本評論社 2021/07

著書　判例学習 刑事訴訟法 第3版 法律文化社 2021/06

講演発表　コメント：2つのSBS/AHT事件について 2021/12/18 刑事司法研究会 刑事司法研究会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　死刑事件と適正手続：アメリカの状況をみる 2022/01/22 兵庫県弁護士会 第4回「死刑制度を考える」 兵庫県弁護士会 口頭発表（基調） 国内会議

講演発表　死刑事件と適正手続：アメリカの現状を中心に 2021/12/01 福島県弁護士会・勉強会 福島県弁護士会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　SBS/AHTをめぐる議論の現状 2022/03/30 法科学研究会 法科学研究会（龍谷大学） 国内会議

講演発表　協議・合意制度の現状 2022/03/26 中国人民大学・一橋大学 刑事法 合同シンポジウム 中国人民大学・一橋大学 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　終身刑の問題点 2021/09/03 長野県弁護士会・勉強会 長野県弁護士会 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　アメリカの死刑制度の今後 2021/04/12 シンポジウム・刑罰制度改革の一環として死刑廃止を考える 日本弁護士連合会 口頭発表（招待・特別） 国内会議

講演発表　The Problem of Value-based Child Abuse Research and Prevention: Shaken Baby Syndrome Paradigm and its Consequences 2021/06/19 Asian Criminological Society 2020 (2020年未開催のため、2021年に開催） その他 国際会議

講演発表　SBS/AHTとえん罪 2022/02/26 第45回 日本脳神経外傷学会・特別企画「虐待による小児頭部外傷（AHT)に関する諸問題」 日本脳神経外傷学会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　Post-Conviction Reviews: Cross-Jurisdictional Perspectives 2021/06/16 Post-Conviction Reviews: Cross-Jurisdictional Perspectives, by Courthouse Library BC, UBC Innocence Project, Innocence Canada and the International Centre for the Reform of Criminal Law

講演発表　アメリカにおける誤判救済の動向 2021/05/30 日本刑法学会 第99回大会 その他 国際会議

三谷　宗一郎

研究課題　行政学

山田　純子

研究課題　小規模閉鎖会社における株主の確定および事業承継について

MISC　招集手続の瑕疵と取締役会決議の効力 神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』 pp.128-129 2021/09/15

山本　真知子

研究課題　商法（商法、会社法、金融商品取引法、商品先物取引法、保険法、手形小切手法等）、各種法人ガバナンス、法と経済学、法教育

論文　COVID-19流行下における遠隔授業とアクティブ・ラーニング－大学設置基準、メディア授業告示、文部科学省通知を前提に－ 甲南大学総合研究所叢書 146号 pp.4-31 2022/03/15

論文　学校法人の資金調達・資金運用とガバナンス（学校法人ガバナンスをめぐる法的課題　２）（連載） 法律時報 93巻10号 pp.108-112 2021/09/01

MISC　全部取得条項付種類株式の取得価格決定の申立適格と取得価格 日本評論社 新・判例解説Watch（法学セミナー増刊） 29巻 pp.143-146 2021/10/25 単著

篠原　永明

研究課題　家族法の制度形成と憲法24条

論文　夫婦同氏制と憲法24条 法学セミナー 799号 pp.45-52 2021/07

論文　消費者法におけるデュアルエンフォースメントとダブルトラック 法律時報 94巻2号 pp.110-116 2022/01

住田　英穂

研究課題　契約法における多元主義

MISC　債務の履行の請求における弁護士費用の賠償 日本評論社 新・判例解説Watch 29号 pp.83-86 2021/10 単著

小舟　賢

研究課題　行政法　環境法

小畑　俊太郎

研究課題　ベンサムの政治思想と古典的功利主義の伝統

著書　『よくわかる政治思想』 ミネルヴァ書房 2021/04

森永　真綱

研究課題　刑法（法哲学、法社会学の観点からの分析も含む）
環境法、温泉研究

西田　英一

研究課題　・紛争プロセスの法社会学的研究　・ＡＤＲ・リーガルカウンセリング技法研究

著書　語りから学ぶ法社会学 北大路書房 2021/10 ISBN978-4-7628-3171-3

著書　新ブリッジブック法社会学―臨床的アプローチ 2022/03/28 ISBN9784797229424

前田　忠弘

研究課題　刑事政策学　司法福祉論　少年法

早瀬　勝明

研究課題　法学（憲法）　哲学（分析哲学）　憲法学専攻で博士号（法学）（2003年大阪大学）哲学専攻で博士号（文学）（2019年大阪大学）を取得しているため研究分野は法学に限定されない。

池田　佳隆

研究課題　新型コロナ感染症対策のパフォーマンスが地域主義に及ぼす影響に関する研究

中井　伊都子

研究課題　人権の国際的保障における国連人権理事会の役割と限界

田中　誠人

研究課題　釈明権の行使

八木　眞由美

研究課題　教育学（教育方法、カリキュラム論、学習指導）
教職教育（教員養成、教員の資質向上）

尾原　宏之

研究課題　日本政治思想史

著書　よくわかる政治思想 ミネルヴァ書房 182-183 2021/04/30 ISBN9784623090990

MISC　他所者の神戸 岩波書店 図書 870号 pp.16-19 2021/06 単著

MISC　日本思想史学から見る近現代の天皇 日本思想史学 53号 pp.1-3 2021/09

講演発表　統治エリートと「民情」世界の間 2021/05/22 政治思想学会 研究大会 政治思想学会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

平野　淳一

研究課題　政治学　地方政治論

櫻井　智章

研究課題　憲法学

著書　憲法秩序の新構想（大石眞先生古稀記念論文集） 2021/09

著書　公法入門〔第３版〕 2021/08

MISC　平成29年選挙における東京都議会選挙区の適法性・合憲性 判例評論 743号 2021 単著

MISC　医薬品のネット販売規制の合憲性 法学教室 490号 2021/07

MISC　映画『宮本から君へ』助成金不交付事件 法学教室 294巻 2021/11

MISC　死刑確定者の信書発出制限の適法性 法学教室 498号 2022/03

濱谷　和生

研究課題　サスティナビリティと独禁法・競争政策の相互関係

論文　米国におけるGAFA規制 公正取引 850号 pp.12-18 2021/08/15

論文　確約手続の評価と課題―EUとの比較の視点から 公正取引 846号 pp.36-42 2021/04/15

論文　〔特集　経済法は楽しい〕１　不当な取引制限　AIはカルテルをすることができるのか 法学教室 493号 pp.44-47 2021/10/01

論文　〔研究ノート〕持続可能性と競争法・競争政策 甲南法学 62巻1-4合併号 pp.115-167 2022/03/15

講演発表　EU確約制度の解説と 日本との制度比較に ついて 2021/07/30 外国競争法研究会 公正取引協会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Introductory Remarks ：確約手続の評価と今後の課題 2021/12/01 競争法フォーラム　2021年度研究大会シンポジウム 競争法フォーラム シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国際会議

講演発表　デジタル・カルテルについて 2021/06/19 【第21回】甲南大学知的財産法研究会報告 甲南大学知的財産法研究会 口頭発表（一般） 国内会議

経営学部

経営学科

SHRESTHA Manoj L.

研究課題　経営戦略論

伊藤　公一

研究課題　監査・保証業務論　　拡張外部報告の保証、監査人交代理由と監査報酬額

論文　ESG情報における社会課題情報開示 甲南大学経営学部６０周年記念論集　新時代の経営学 pp.241-262 2022/03/20

論文　IAASBによるEER保証業務指針の意義と特徴 現代監査　（日本監査研究学会） 32巻 pp.65-75 2022/03

奥野　明子

研究課題　経営管理論、人的資源論

論文　「産休・育休からの復職者の人事評価の法学的側面と経営学的側面」 『甲南大学経営学部開設60周年記念論集　新時代の経営学』千倉書房 pp.41-63 2022/03/20 ISBN978-4-8051-1244-1

論文　「仕事配分と人事評価が産休・育休からの復職者の 仕事意欲に与える影響」 日本労務学会全国大会研究報告集 2021/07

論文　「仕事配分と人事評価が産休・育休からの復職者の仕事意欲に与える影響」 甲南経営研究 62巻3・4号 pp.71-92 2022/02 ISSN0452-4152

著書　『利他の構造』 ミネルヴァ書房 41-75頁 2021/10 ISBN9784623092291

講演発表　「仕事配分と人事評価が産休・育休からの復職者の仕事意欲に与える影響」 2021/07/17 日本労務学会第51回全国大会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　人事評価のアンコンシャスバイアス研究 2021/10/29 「人事評価のアンコンシャスバイアス研究」第２回研究会(オンライン) 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国際会議

加茂　祐子

研究課題　流通システム論　食料経済学　生活経済学　応用統計学

久保田　秀樹

研究課題　日独の会計制度の比較研究

古田　美保

研究課題　税務会計論 財務会計論 法人税課税の企業行動へのタックス・インセンティブに関する研究

論文　無形資産の価値評価と税務 税務会計研究 32号 pp.35-51 2021/07

佐藤　圭

研究課題　非構造化データと機械学習を利用した消費者心理の理解

論文　流行現象に関する消費者視点のテキスト分析 －映画レビューデータによる探索的調査－ 甲南経営研究 62巻1・2号 pp.61-94 2021

講演発表　教育サービスにおける便益遅延現象に関する探索的考察 2021/06 日本商業学会関西部会例会 口頭発表（一般） 国内会議

三上　和彦

研究課題　社会的選好が加法性を有する条件について

著書　集計定理における個人間の効用比較 千倉書房 2022/03/28

山口　聖

研究課題　日本企業の現金保有に関する実証的研究

論文　自社株買いの内外の実態、理論の整理 証券アナリストジャーナル 59巻6号 pp.7-18 2021/06

若林　公美

研究課題　財務情報の比較可能性に関する研究

論文　財務情報の比較可能性と企業の現金保有 甲南経営学会編『新時代の経営学：甲南大学経営学部開設60周年記念論集』千倉書房 pp.349-376 2022/03/20 ISBN978-4-8051-1244-1

論文　財務報告の比較可能性と経営者報酬契約における相対業績評価 會計 199巻5号 pp.57-70 2021/05/01 ISSN0387-2963

講演発表　財務報告の比較可能性に関する実証研究 2021/10/09 国際会計研究学会第38回研究大会 口頭発表（一般） 国内会議

杉山　善浩

研究課題　管理会計と戦略の関係性に関する研究

論文　戦略管理会計の発展に向けて 甲南大学経営学会編『新時代の経営学』（千倉書房） 2022/03

杉田　俊明

研究課題　グローバル経営とアジア

論文　レジリエンス・ポートフォリオと戦略としてのM&A&A 『甲南経営研究』 62巻3/4号 2022/02

西村　順二

研究課題　マーケティング論、流通システム論、消費者行動論、中小企業論、地域経済論、産業集積論

大塚　晴之

研究課題　資本市場・経済格差および経済成長

鷹尾　和彦

研究課題　自動車業界および、各インターンシップ先企業の経営分析を中心とし、それらの企業の成長性を探求する。

池田　公司

研究課題　記述情報（非財務情報）の開示と企業報告の在り方

論文　Reporting 4.0と事業性評価 新時代の経営学（甲南大学経営学部開設60周年記念論集） pp.149-165 2022/03/20 ISBN978-4-8051-1244-1

藤田　順也

研究課題　企業の海外現地経営に関する歴史研究

論文　「経営学部創設期の「落書き」による学生たちの心性史試論-神戸大学附属図書館蔵書を一例として-」 『日本経営学会誌』 48号 pp.72-85 2021/12/15

論文　「神戸大学経営学部卒業生の就職動向についての考察 -就職先企業上位50社を中心に-」 『甲南経営研究』 62巻1・2号 pp.33-60 2021/09

著書　『経営学の開拓者たち　神戸大学経営学部の軌跡と挑戦』 中央経済社 担当：第8章「学部生・大学院生の入学と進路」 2021/04/15

著書　『新時代の経営学』 千倉書房 129-146 2022/03/20

講演発表　大学図書館蔵書の落書きから迫る学生たちの心性史：神戸大学経営学部の創設期を事例として 2021/11/13 日本経営学会関西部会第663回例会(オンライン例会) 口頭発表（一般） 国際会議

内藤　文雄

研究課題　会計学（企業会計および監査）に関する理論的および実態的研究

論文　コーポレート・ガバナンスの強化と指名委員会等設置会社における仕組みの実効性 週刊 経営財務 3515号 2021/07/19

論文　ワイヤーカード不正会計事件と企業会計・会計監査に対する公的規制改革 甲南大学経営学部60周年記念論文集 pp.167-183 2022/03/20

論文　ドイツ・フッガー社における内部監査の構図 甲南経営研究 62巻3・4号 pp.40-71 2022/02/25

論文　ドイツにおける監査人の誕生と専門家監査の確立 甲南経営研究 62巻1・2号 pp.1-32 2021/09/25

著書　会計学エッセンス（第５版） 中央経済社 2022/03/01

馬場　大治

研究課題　経営学

尾形　真実哉

研究課題　中途採用者の組織再適応に関する研究

望月　徹

研究課題　都市・地域の経済・社会的変容と地域への価値付与

論文　「豊穣化の経済」の分析枠組による「地域への価値付与」考察の有用性―広島県尾道市の事例を用いて― 甲南大学経営学部60周年記念論文 2022/03/31

論文　博士論文「都市・地域再生の萌芽と地域への価値付与」 大阪市立大学（大学院経営学研究科） 2022/03/24

北居　明

研究課題　組織における対話型組織開発や解決志向コミュニケーションの研究

論文　「働きがい」をめぐるジレンマとアイロニー：「働きマン」たちそれぞれの事情 Discussion Paper New Series 2021巻3号 pp.1-22 2021/07/01

論文　アプレシエィティブ・インクイリ―とポジティブ・メンタルヘルスの関係 甲南経営研究 62巻3・4号 pp.93-114 2022/02/25

論文　社内報にみる稲盛経営哲学－「敬天愛人」の内容分析を通じて－ 稲盛経営研究 1巻1号 pp.93-110 2022/03/25

著書　新時代の経営学 千倉書房 83-98 2022/03/20

著書　職場の経営学―ミドル・マネジメントのための実践的ヒント 中央経済社 2022/02/24

廣山　謙介

研究課題　日本経営史の実証的研究

櫻田　涼子

研究課題　人的資源管理論・キャリア論・組織構造論：働き方をめぐる現状と課題の検証

論文　「日本におけるテレワークの現状と課題」 甲南大学経営学会編『新時代の経営学』千倉書房所収 pp.99-128 2022/03/20

髙室　裕史

研究課題　流通・マーケティングの現代的課題に関する研究

論文　サービス・マーケティング研究の特徴と現代的意義－サービス・ドミナント・ロジックとの相対的検討を通して－ 甲南大学経営学会『新時代の経営学』 pp.297-312 2022/03/20

講演発表　医療におけるサービス・マネジメントの可能性～便益遅延性とナラティブ・アプローチの視点から～ 2021/06/19 日本商業学会関西部会2021年6月例会 口頭発表（一般） 国内会議

知能情報学部

知能情報学科

永田　亮

研究課題　AI（人工知能）、計算言語学　自然言語処理

岳　五一

研究課題　情報通信ネットワーク 情報通信ネットワーク

論文　Web 情報自動抽出・発信機能を備えた地域融合型キャンパス見学サポートシステムの構築と実証実験 コンピュータ&エデュケーション研究論文 Vol.51 pp.52-57 2021

論文　基于離散時間的混合式接入网絡中移動用戸的閾値策略研究 系統工程理論与実践 Vol.41 No.11 pp.2937-2946 2021

論文　観光者の嗜好性を考慮した観光経路構成アルゴリズムの実装と実証実験 パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌 Vol.15 No.1 pp.13-20 2021

論文　Web 動画情報の自動抽出及び AR 技術を活用した地域 情報の動画発信システムの構築と実証実験 パーソナルコンピュータ利用技術学会 論文誌 Vol.16 No.1 pp.11-19 2021

論文　Spectrum Allocation Strategy with a Probabilistic Preemption Scheme in Cognitive Radio Networks: Analysis and Optimization Annals of Operations Research doi:10.1007 2021.

論文　Performance Optimization of Cloud Data Centers with a Dynamic Energy-Efficient Resource Management Scheme Journal: Complexity Vol.2021 doi:10.1155 2021

論文　Performance Analysis and Optimization Research of Multi-Channel Cognitive Radio Networks with a Dynamic Channel Vacation Scheme Journal of Industrial and Management Optimization doi:10.3934 2021

論文　Comparison of a Probabilistic Returning Scheme for Preemptive and Non-Preemptive Schemes in Cognitive Radio Networks with Two Classes of Secondary Users IEICE TRANSACTIONS on Communications Vol.E105-B No.3 pp.338-346 ISSN:1745-1345 20220301

論文　Buffer Analysis of a Power Saving Scheme in Cloud Computing Systems IEICE 2021 International Conference on Emerging Technologies for Communications (ICETC 2021) p4-5 pp.1-2 2021

論文　A Stochastic Model and Social Optimization of a Blockchain System based on a General Limited Batch Service Queue Journal of Industrial and Management Optimization Vol.17 No.4 pp.1845-1861 2021

論文　SNS 投稿写真から算出した観光スポットの知名度と満足度に基づくピクトリアルマップの生成手法の提案と評価 パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌 Vol.16 No.1 pp.1-10 2021

論文　リアルタイムな Web 情報発信機能と避難所経路案内を備えた知的観光サポートシステムの構築と実証実験 パーソナルコンピュータ利用技術学会論文誌 Vol.15 No.1 pp.54-63 2021

著書　Resource Management and Performance Analysis of Wireless Communication Networks Springer 2021 ISBN 978-981-15-7756-7

MISC　情報抽出機能を備えた地域融合型キャンパス見学サポートシステムの構築と実証実験 2021 PC Conference pp.256-259 2021

MISC　観光ニーズを考慮した宿泊施設のスコアリング手法 第16 回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会講演論文集 採択

MISC　音声認識技術と自然言語処理を用いた動画説明タグの自動生成アルゴリズムの提案 甲南大学紀要知能情報学編 Vol.14 No.2 pp.139-148 2021

MISC　オンライン情報基礎学習コースの受講と「学びのスタイル」 2021 PC Conference pp.62-63 2021

MISC　Web 動画情報の自動抽出及び AR 技術を活用した地域情報の動画発信システムの構築と実証実験 甲南大学紀要知能情報学編 Vol.14 No.1 pp.41-54 2021

MISC　Analysis of a Queueing-Inventory System with Lost Sales and a General Vacation Policy Memoirs of Konan University Intelligence and Informatics Series Vol.14 No.2 pp.125-137 2021

MISC　口コミ情報を利用したホテルの特性分析に基づく観光地におけるホテルのランキング手法の提案 甲南大学紀要知能情報学編 Vol.14 No.2 pp.139-148 2021

MISC　Performance Analysis of Information Asymmetric Peer-to-Peer Networks Memoirs of Konan University Intelligence and Informatics Series Vol.14 No.1 pp.29-40 2021

関　和広

研究課題　機械学習による知的情報処理

論文　経済ニュースによる景況感指数の足元予測 情報処理学会論文誌 62巻5号 pp.1288-1297 2021/05

論文　Cross-lingual text similarity exploiting neural machine translation models Journal of Information Science 47巻3号 pp.404-418 2021/06

高橋　正

研究課題　学習モデルを用いた数理認識的分析に関する研究

論文　Euclid's Elements Theorem Proving Using Isabelle Proceedings of the Universal Academic Cluster International Online Conference in Bangkok, 2021 2021/05/27

講演発表　社会的決定理論への数式処理の応用 2022/03/20 Risa/Asir Conference 2022 Risa/Asir Conference 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　On the analysis of singularity structure in learning 2021/12/14 The 26th Asian Technology Conference in Mathematics ATCM 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　The Effect of the Theorem Prover Isabelle 2021/11/24 The 5th Innovation and Analytics Conference & Exhibition 2021 University Utara Malaysia 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　ニューラルネットワークを用いた学習状況における過剰汎化現象 2022/01/30 日本数式処理学会2021年度合同分科会 日本数式処理学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　幾何学基礎論をIsabelle/HOLで実証する 2022/01/29 日本数式処理学会2021年度合同分科会 日本数式処理学会 口頭発表（一般） 国内会議

阪本　邦夫

研究課題　一方向指向性ディスプレイ・サイネージ

山中　仁寛

研究課題　認知人間工学　ヒューマンインタフェース

若谷　彰良

研究課題　Webツールを用いたプログラミング学習向け演習問題の自動生成と、GPUを用いたハイブリッド並列の研究

論文　EduPar Virtual Poster Session 2021 IEEE International Parallel and Distributed Processing Symposium Workshops (IPDPSW) pp.336-341 2021/06

小出　武

研究課題　最適化手法の実用化に関する研究

論文　数理最適化を利用した大学生協食堂における食品組合せシステムの検討 甲南大学教育学習支援センター紀要 7巻 pp.1-13 2022/03

論文　多台持ちスケジュール問題に対する最適化手法の適用に関する基礎研究 甲南大学紀要知能情報学編 14巻1号 pp.55-63 2021/07

論文　複数研究室割当問題に対する実用性を重視した組合せ最適化による解法 日本経営システム学会誌 38巻2号 pp.117-123 2021/11

松本　茂樹

研究課題　学習スタイル調査に関する独自手法である「学びのスタイル」の研究開発

新田　直也

研究課題　ソフトウェア工学、ソフトウェア解析　ソフトウェア基礎理論、ソフトウェア工学

論文　A Method to Comprehend Feature Dependencies Based on Semi-Static Structures Proceedings of IEEE 37th International Conference on Software Maintenance and Evolution (ICSME 2021) 2021/10

論文　Towards a Dynamic Visualization of Complex Reverse-Engineered Object Collaboration Proceedings of the 28th Asia-Pacific Software Engineering Conference (APSEC 2021) 2021/12

講演発表　シーケンス図とオブジェクト図を統合した動的グラフに基づく可視化手法 2022/03 ソフトウェアサイエンス研究会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　代数に基づくデータ転送アーキテクチャモデルからのCCSプロセスの導出手法 2022/03 ソフトウェアサイエンス研究会 電子情報通信学会 口頭発表（一般） 国内会議

森元　勘治

研究課題　結び目と3次元多様体

論文　On torus knots obtained by self-fusions on the torus Memoirs of Konan University, Intelligence & Informatics Series 14巻1号 pp.1-8 2021/07 ISSN1883-0161

前田　多章

研究課題　記憶・注意、睡眠科学　認知神経心理学、脳科学

講演発表　両側性タッピングの速度が自律神経系に与える影響 2021/09/23 日本EMDR学会第16回学術大会 口頭発表（一般） 国内会議

田村　祐一

研究課題　バーチャルリアリティー、可視化　バーチャルリアリティー

論文　Continuous collision avoidance model between pedestrians The 40th JSST Annual International Conference on Simulation Technology 2021

論文　Electrical Muscle Stimulation to Develop and Implement Menstrual Simulator System Journal of Robotics and Mechatronics 33巻5号 pp.1051-1062 2021/10/20 ISSN0915-3942

論文　A Study for Recognizing and Simulating Deliberate Emotional Expressions in Japanese Speech The 40th JSST Annual International Conference on Simulation Technology 2021

論文　A sharing system for the annoyance of menstrual symptoms using electrical muscle stimulation and thermal stimulations Proceedings of the 27th ACM Symposium on Virtual Reality Software and Technology 2021/12/08

論文　Image processing method for automatic measurement of number of DNA breaks Journal of Advanced Simulation in Science and Engineering 8巻2号 pp.173-193 2021

田中　雅博

研究課題　人工知能、3Dデータ処理　知能情報処理

論文　Behavior Recognition of OfficeWorkers by YOLO for Surveillance Camera Images RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing 2022 2022巻1号 pp.101-104 2022/02/28

論文　YOLOと顔認証を用いた挙手者の検出及びPTZカメラを用いた授業等における指名の自動化 Mem, Konan Univ., Intelli. & Inform. Ser. 14巻1号 pp.9-28 2021/06

講演発表　再帰型ニューラルネットワークによる筆記具と指の筆跡における筆者識別 2021/05/27 第65回 システム制御情報学会研究発表講演会 システム制御情報学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　物体検出を用いた授業中における学生の動作認識 2021/12/15 計測自動制御学会システムインテグレーション部門　講演会　SI2021 計測自動制御学会システムインテグレーション部門 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　超解像のためのAttention 機構を用いたモデルの構築 2021/05/27 第65回 システム制御情報学会研究発表講演会 システム制御情報学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　再帰型ニューラルネットワークを用いた筆者識別におけるモデルの改善 2021/12/15 計測自動制御学会システムインテグレーション部門　講演会　SI2021 計測自動制御学会システムインテグレーション部門 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Real-Time Application for Detection of Raised Hands and Personal Identification by Deep Learning Algorithms for Camera Images 2021/10/30 The 53rd ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications システム制御情報学会 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　PTZカメラを用いたインタラクティブなイベントや授業における挙手者検出と特定 2021/05/27 第65回 システム制御情報学会研究発表講演会 システム制御情報学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　A deep convolutional neural network for super resolution via soft-attention mechanism 2021/09/15 2021年 電気学会 電子・情報・システム部門大会 電気学会 電子・情報・システム部門 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　横断歩道を認識するセマンティックセグメンテーションモデルの提案 2021/12/15 計測自動制御学会システムインテグレーション部門　講演会　SI2021 計測自動制御学会システムインテグレーション部門 口頭発表（一般） 国内会議

渡邊　栄治

研究課題　オンライン講義における学習動作の分析に関する研究

灘本　明代

研究課題　深層学習を用いた商品説明文自動生成

論文　Analysis of Behavioral Facilitation Tweets for Large-Scale Natural Disasters Dataset Using Machine Learning Proc. of the 32rh International Conference on Database and Expert Systems Applications(DEXA2021), pp.161-169 2021

論文　Comparison of Deep Learning Models for Automatic Generation of Product Description on E-commerce site Proc. of the 22th International Conference on Information Integration and Web-based Applications & Services(iiWAS2021) pp.223-231 2021

論文　Extraction and Analysis of Regionally Specific Behavioral Facilitation Information in the Event of a Large-scale Disaster Proc. of the 20th IEE/WIC/ACM International Conference on Web Intelligence and Intelligent Agent Technology(WI/IAT 2021) 2021

論文　GPT-2を用いた商品属性データ構造に基づく家具説明文の自動生成 ・ 電子情報通信学会データ工学研究会, 信学技報, 121巻125号 pp.34-39 2021/07

論文　音素類似関係を用いた単語変形によるおかしみのある文の生成 日本音響学会 音声研究会 2021

論文　情報発信元地域と行動促進対象者に着目した災害時地域特有行動促進情報の分類 電子情報通信学会データ工学研究会, 信学技報, 121巻125号 pp.40-45 2021/07

梅谷　智弘

研究課題　アンビエントセンサとウェアラブル端末を用いた知的センサネットワークシステムの構築

論文　Change Detection of Sleeping Condition based on IoT Distributed Sensing for Bedclothes Proceedings of 2021 IEEE International Conference on Advanced Robotics and Its Social Impacts (ARSO), pp.120-122 2021/07/08

論文　IoTシステムのプロトタイピングを用いたロボット技術PBLの試み 甲南大学紀要知能情報学編 14巻2号 pp.181-190 2022/02/10

MISC　柔軟素材を用いたIoTシステムの基礎と応用－I－柔軟素材を用いたIoTシステムの現在と展望 システム／制御／情報 66巻2号 pp.70-77 2022/02/15 ISSN0916-1600

講演発表　オープンソースハードウェアを用いた屋外情報収集ロボットのラピッド開発 2021/11/13 第64回自動制御連合講演会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　位置情報履歴を用いた人間とコミュニケーションロボットによる対話生成手法の検討 2021/09/23 日本音響学会音声研究会 日本音響学会音声研究会 ポスター発表 国内会議

講演発表　音素類似関係を用いた聞き間違えによるボケの自動生成 2022/02/28 第14回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM 2022) 日本データベース学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　行動履歴情報を用いたユーザとコミュニケーションロボットによる対話制御の一検討 2021/11/13 第64回自動制御連合講演会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　中之島ロボットチャレンジ2021における甲南大学ロボティクス研究室の取り組み 2021/12/17 第22回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 計測自動制御学会システムインテグレーション部門 口頭発表（一般） 国内会議

北村　達也

研究課題　発声・発話訓練法の開発と評価

論文　機械学習ライブラリを利用した超音波画像の舌輪郭抽出の試み 日本音響学会音声研究会資料 1巻1号 pp.155-160 2021/09

論文　EMAによる日本語長母音の観察 日本音響学会音声研究会資料 1巻2号 pp.167-172 2021/09

論文　躍度による調音運動の流暢性評価の試み 日本音響学会音声研究会資料 2巻2号 pp.35-38 2022/03

論文　発話のしにくさの自覚と音読潜時，音節反復との関連の予備検討 日本音響学会音声研究会資料 1巻1号 pp.149-154 2021/09

論文　日本語の破裂音/g/と/k/の調音的と音声的差異: MRIによるケーススタディ 甲南大学紀要知能情報学編 14巻2号 pp.103-113 2021/12

論文　日本語の破裂音/g/と/k/の調音の差異: MRIを用いたケーススタディー Sophia Linguistica 70巻 pp.17-28 2021/12

論文　位置情報履歴を用いた人間とコミュニケーションロボットによる対話の生成手法の検討 日本音響学会音声研究会資料 1巻1号 pp.145-147 2021/09

論文　Straw fighter: A gamification-based system for supporting vocal exercise by tube phonation Proceedings of 2021 IEEE 3rd Global Conference on Life Sciences and Technologies 2021/04/08

論文　音素類似関係を用いた単語変形によるおかしみのある文の生成 日本音響学会音声研究会資料 1巻2号 pp.177-180 2021/09

論文　Objective measurement of pitch extractors' responses to frequency modulated sounds and two reference pitch extraction methods for analyzing voice pitch responses to auditory stimulation. CoRR abs/2111.03629巻 2021

論文　SNSによる声かけ機能を有する発声練習支援システムの試作 日本音響学会音声研究会資料 2巻2号 pp.39-42 2022/03

和田　昌浩

研究課題　カオス、複雑系、認証、セキュリティ　カオス、非線形力学

論文　A Study on Human Detection Method using LiDAR Sensor for a Mobile Robot Proc. of 2022 RISP International Workshop on Nonlinear Circuits, Communications and Signal Processing pp.229-232 2022/03/01

マネジメント創造学部

マネジメント創造学科

PALMER Roger W.

研究課題　Tailoring ESP instruction to the overseas study needs and career aims of undergraduates

ジョーンズ　ブレント

研究課題　Instructional Design,Instructional Technology,Language education

論文　The influence of instructional practices on learner engagement Hirao School of Management Review 12巻 pp.21-48 2022/03/31 ISSN2186-0165

講演発表　Balancing Language and Content in Business English Courses 2021/10/30 Teachers Helping Teachers - Bangladesh English Language Teachers Association 2021 Japan Association for Language Teaching - THT SIG 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　CALLing for Team-Based Learning (TBL) Approaches CLIL Courses 2021/08/26 EUROCALL 2021 EUROCALL 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　Engaging Learners in Global Topics via Oral Histories 2021/11/13 JALT GILE SIG Forum 2021 Japan Association for Language Teaching - GILE SIG 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　Fostering Engagement with Team-Based Learning (TBL) in Larger Japanese University Classrooms 2021/05/16 JALT PanSIG 2021 Japan Association for Language Teaching 口頭発表（一般） 国内会議

伊藤　健顕

研究課題　テキストマイニングの手法を用いた企業ディスクロージャーに関する実証研究

論文　テキストマイニングを用いた MD&A、 リスク、ガバナンス情報の分析 青山経営論集 56巻1号 2021/07 ISSN0587-1654

論文　有報の60年 企業会計 74巻2号 2022/02

講演発表　有価証券報告書は何を語るのか－テキスト解析で辿る60年間の変遷 2021/10/24 日本IR学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　経営者交代が有価証券報告書の記述情報に与える影響について 2021/09/10 日本会計研究学会第80回大会 口頭発表（一般） 国内会議

金坂　成通

研究課題　地方財政論、財政学、公共経済学

講演発表　汚職発覚による歳出への影響の検証－都道府県別データによる実証分析－ 2021/08/30 科研セミナー 国内会議

講演発表　汚職発覚による歳出への影響の検証－都道府県別データによる実証分析－ 2021/09/16 『フィナンシャル・レビュー』論文計画報告会 財務総合研究所 国内会議

広渡　潔

研究課題　Brexitに関わる歴史的視点からの研究

高砂　孝緒

研究課題　公共財の所有権構造が投資インセンティブに及ぼす影響に関する理論研究

MISC　Optimal ownership of public good under ideological conflict SSRN Working papers series 2022/03

寺内　衛

研究課題　“科学リテラシー”“技術リテラシー”“情報リテラシー”の統合に関する研究

論文　サイエンス・ギルド－知の分断についての一考察－ Hirao School of Management Review 12巻 pp.1-19 2022/03/31 ISSN2186-0165

上村　一樹

研究課題　健康増進に関する計量経済分析

論文　Daily steps and healthcare costs in Japanese communities Scientific Reports 11巻1号 2021/07/23 ISSN2045-2322

MISC　Vaccination or restriction?: COVID-19 vaccine hesitancy and vaccine passports Cold Spring Harbor Laboratory medRxiv 2021/09/22

講演発表　A Cost-effectiveness Analysis of Incentivised Exercise Program 2021/11/06 The 20th International Conference of the Japan Economic Policy Association The Japan Economic Policy Association 口頭発表（一般） 国際会議

真崎　克彦

研究課題　オルタナティブ発展・開発論

論文　Exploring the origins of Bhutan’s Gross National Happiness Journal of South Asian Development 16巻2号 pp.273-292 2021

論文　Do pluriversal arguments lead to a ‘world of many worlds’? Beyond the confines of (anti-)modern certainties GDI Working Paper 2021-56号 2021

論文　A critical analysis of degrowth debates through the lens of Gross National Happiness (GNH): Refraining from the conventional view of plurality Journal of Bhutan Studies 45巻 pp.36-69 2021

論文　Community economies in support of people’s livelihoods: A case of a dairy cooperative of a mountain village in Bhutan Journal of Asia-Pacific Studies（『アジア太平洋討究』、早稲田大学） 42号 pp.161-178 2021

講演発表　"A critical analysis of degrowth through the lens of Gross National Happiness (GNH)" 2021/04/15 Workshop 7 on Gross National Happiness (GNH) 口頭発表（招待・特別） 国際会議

講演発表　"Community Economies in Support of People’s Livelihoods: A Case of a Dairy Cooperative of a Mountain Village in Bhutan" (oral presentation) 2022/01/27 3rd Sustainability and Development Conference 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　"Community Economies in Support of People’s Livelihoods: A Case of a Dairy Cooperative of a Mountain Village in Bhutan" (poster presentation) 2021/09/20 9th International Conference on Sustainable Development ポスター発表 国際会議

講演発表　"What is the Significance of Gross National Happiness (GNH)?" 2022/03/29 Social Innovation Forum: New Society & New Economy 口頭発表（招待・特別） 国際会議

講演発表　「多遍性（pluriversality）研究の背景と意義」 2021/06/12 第22回　国際開発学会　春季大会 口頭発表（一般） 国内会議

杉本　喜美子

研究課題　1) アフリカにおける金融深化と金融統合の関係　2) 新型コロナ感染症蔓延以降におけるアジアとアフリカの株式市場の変化

論文　Macro-Financial Linkages in East Asia in Global Perspectives Discussion Paper Series, Faculty of Economics and Management, Kanazawa University 60巻 pp.1-30 2022/03/30

講演発表　Policy-mix and reaction to shocks in the future eco: will one size fit all? 2021/05/27 Colloque international [Du Franc CFA à L'ECO: Quelle monnaie pour quel developpement en Afrique de L'Ouest?] Université de Lomé, Togo 口頭発表（招待・特別） 国際会議

青木　慶

研究課題　企業と消費者の価値共創

論文　The Relationship between Well-Being and Knowledge Sharing Sustainability 13巻9号 pp.4978- 2021/04/29

講演発表　The relationship between well-being and the diffusion of user innovations 2021/07/18 32nd International Congress of Psychology 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　統合型ブランド・コミュニケーションを成功させるにはー組織的要因からの考察ー 2021/11/20 日本広告学会第52回全国大会 日本広告学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Why Knowledge Sharing Increases Well-being -the case of AFOL- 2022/02/10 2022 AMA Winter Academic Conference American Marketing Association ポスター発表 国際会議

講演発表　なぜ知の共有が持続的幸福度を高めるのか -AFOLの事例より- 2021/10/17 日本マーケティング学会　マーケティングカンファレンス2021 口頭発表（一般） 国内会議

前田　正子

研究課題　少子化対策・保育行政・コロナ下の女性就労への影響

論文　2020年の緊急事態下での保育に自治体はどう対応したか 都市問題 112巻7号 pp.86-92 2021/07

論文　出産後の女性のキャリア継続の諸要因 ： 女性の就 労環境,「保活」, 夫の家事育児に注目して 心の危機と臨床の知 23巻 pp.23-46 2022/03

著書　少子化と女性のライフコース 原書房 121-144 2021/08 ISBN4562092203

MISC　教育・保育施設における事故報告制度と事故検証制度の導入とその課題について（第６回） 保育界 563号 2021/07 単著

MISC　保育事故の視点から保育のガバナンスとマネジメントを考える 後藤・安田記念東京都市研究所 都市問題 112号 pp.4-9 2021/04 ISSN0387-3382 単著

MISC　保育園・家事育児分担・ワークライフバランスを巡る母親の苦悩ー保育所入所申請世帯調査の自由記述から 立教大学経済学部 立教経済学研究 75巻1号 pp.113-151 2021/07 共著

MISC　2020年の緊急事態下での保育に自治体はどう対応したか 都市問題 112巻7号 pp.86-92 2021/07 単著

MISC　教育・保育施設における事故報告制度と事故検証制度の導入とその課題について（第７回） 保育界 564号 pp.45-47 2021/08 単著

MISC　教育・保育施設における事故報告制度と事故検証制度の導入とその課題について（第４回） 保育界 561号 pp.40-41 2021/05 単著

MISC　教育・保育施設における事故報告制度と事故検証制度の導入とその課題について（第３回） 保育界 560号 pp.32-33 2021/04 単著

MISC　コロナ禍で加速する少子化 月刊福祉 104巻7号 pp.46-49 2021/06 単著

MISC　コロナ禍の「女性不況」、“学歴による格差”の影響が深刻化している 講談社 講談社現代ビジネスオンライン 2021/06 単著

MISC　教育・保育施設における事故報告制度と事故検証制度の導入とその課題について（第５回） 保育界 562号 pp.44-45 2021/06 単著

講演発表　在宅時間帯のパターンと推移・その要因ー24時間社会で夜間働く人々 2021/09/11 日本キャリアデザイン学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　子育てに不寛容な社会 2021/09/11 甲南大学人間科学研究所 次世代育成研究会特別講演会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

谷口　るり子

研究課題　授業改善アンケート結果の分析（各種特徴分析）、大阪城公園の現状（収支面）

中村　聡一

研究課題　国際ビジネス領域

著書　教養としてのギリシャ・ローマ（韓国版） 2022/01

著書　教養としてのギリシャ・ローマ～名門コロンビア大学で学んだリベラルアーツの真髄（東洋経済新報社） 東洋経済新報社 2021/05

MISC　米国エリート教育と第1次世界大戦の深い関係 GAFAがリベラルアーツ教育を重視する理由 東洋経済オンライン 2021/05/17 単著

MISC　「余暇」の重要性を説いたアリストテレスの慧眼 古代ギリシャの「治乱興亡の歴史」に学ぶ教訓 東洋経済オンライン 2021/05/21 単著

MISC　リベラルアーツ教育の最後に「進化論」を学ぶ意味 コロンビア大学教養講座が伝える「学びの核心」 東洋経済オンライン 2021/06/02 単著

猪股　優史

研究課題　イノベーションの普及プロセスにおける企業間の競争と協調の制度論的メカニズムの探究

木成　勇介

研究課題　意思決定における感情・ホルモンが与える影響に関する基礎的研究

論文　Oxytocin-Trust Link in Oxytocin-Sensitive Participants and Those Without Autistic Traits Frontiers in Neuroscience 15巻 2021/05/25

林　美玉

研究課題　オンライン買い物における触覚情報の影響

論文　オンライン店舗における触覚情報の必要性と購買決定プロセス 商品開発・管理研究 18巻2号 pp.21-43 2022/03 ISSN1880-0297

フロンティアサイエンス学部

生命化学科

臼井　健二

研究課題　生体分子工学、生体機能関連化学、タンパク質・ペプチド工学　ペプチド-DNAのハイブリッド四重鎖構造の構築とその応用

論文　De novo design of a nanopore for single-molecule detection that incorporates a β-hairpin peptide. Nature nanotechnology 17巻1号 pp.67-75 2022/01

論文　Elemental composition control of gold-titania nanocomposites by site-specific mineralization using artificial peptides and DNA Communications Chemistry 4巻1号 2021 ISSN2399-3669

論文　Intracellular mineralization of gold nanoparticles using gold ion-binding peptides with cell-penetrating ability Chemical Communications 57巻6号 2021 ISSN1364-548X

論文　ウォッシャーディスインフェクターのすすぎ排水中に含まれる洗浄剤残留量の測定によるすすぎ性能評価 医療機器学 91巻 pp.315-332 2021/08

MISC　マイクロ波照射による細胞への影響とその応用 日本電磁波エネルギー応用学会論文誌 5巻 pp.38-48 2021/12

講演発表　金還元ペプチドビーズを用いた長期保存や再利用が可能な固定化金ナノ粒子の作製 2022/03/23 日本化学会第102春季年会 ポスター発表 国内会議

講演発表　様々な電界強度の直線偏波マイクロ波照射によるペプチドを用いた炭酸カルシウムの凝集沈殿 2022/03/24 日本化学会第102春季年会 ポスター発表 国内会議

講演発表　種々の短鎖ペプチドによる線維化配列探索に向けた予測システムの構築 2021/07 日本化学会 生体機能関連化学部会若手の会　第32回サマースクール 国内会議

講演発表　固定化ペプチドの応用展開 2021/12 第4回ナノバイオ交流会 国内会議

講演発表　金還元ペプチド固定化ビーズを用いた金イオンの濃縮・還元手法の構築 2021/08 第53回若手ペプチド夏の勉強会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Synthesis of Immobilized Gold Nanoparticles with Catalytic Activity Using Resin Conjugated with Gold Mineralizing Peptide 2021/10/21 第58回ペプチド討論会 ポスター発表 国内会議

講演発表　ペプチド固定化樹脂を用いた希薄溶液中での金イオン濃縮・還元手法 2021/07/16 日本化学会 生体機能関連化学部会 第32回サマースクール ポスター発表 国内会議

講演発表　アルギニンの残基数が異なる３種類のペプチドの細胞膜透過における電磁波の影響を調べる 2021/08 第53回若手ペプチド夏の勉強会 ポスター発表 国内会議

講演発表　アルギニンリッチペプチドの細胞膜透過におけるマイクロ波の影響 2021/07/16 日本化学会 生体機能関連化学部会 第32回サマースクール ポスター発表 国内会議

講演発表　N末端を様々に変化させた短鎖ペプチドによる線維化配列の解析、予測法の構築 2021/08 第53回若手ペプチド夏の勉強会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Effect of Microwave Irradiation on Cellular Uptake Using Arginine-Rich Peptides 2021/10/21 第58回ペプチド討論会 国内会議

講演発表　マイクロ波照射によるペプチドの細胞膜透過能の向上 2021/10/14 第15回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム ポスター発表 国内会議

甲元　一也

研究課題　有機化学、生体機能関連化学、酵素工学、糖鎖工学　代謝物質の機能を模倣、利用する新しい酵素活性化システムの開発

講演発表　オキシダーゼ/ペルオキシダーゼ系に及ぼすベタイン型添加剤の混合効果の解析 2021/06/26 第18回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム 高分子学会関西支部 ポスター発表 国内会議

講演発表　オリゴ糖、多糖を基体とするホストに包接された抗酸化物質の抗酸化活性の比較 2021/07/09 第６７回高分子研究発表会（神戸） 高分子学会関西支部 ポスター発表 国内会議

講演発表　ベタイン誘導体の引き起こす多様な機能に及ぼす水和の影響 2021/06/26 第18回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム 高分子学会関西支部 ポスター発表 国内会議

講演発表　食品粉末からの水性二相系を用いた有効成分の抽出に及ぼすベタイン誘導体の効果 2021/06/26 第18回ホスト-ゲスト・超分子化学シンポジウム 高分子学会関西支部 ポスター発表 国内会議

三好　大輔

研究課題　生体機能関連化学、核酸化学、生物物理化学　生体分子や合成高分子を用いた細胞内環境の精密化学模倣

論文　Detection of Intracellular Reactive Oxidative Species Using the Fluorescent Probe Hydroxyphenyl Fluorescein Methods Mol Biol (Live Cell Imaging) 2274巻 pp.207-215 2021/05

論文　Intramolecular G-quadruplex-hairpin loop structure competition of a GC-rich exon region in the TMPRSS2 gene Chem. Commun. 58巻 pp.48-51 2022/01

論文　がん関連RNAを破壊する分子標的型光線力学療法 BIO Clinica 36巻5号 pp.65-67 2021/05

著書　がん関連mRNAと光線力学療法 CSJカレントレビュー「生体分子と疾患」（化学同人） 9 39, 75-83 2021/05

松井　淳

研究課題　高分子化学、生体機能関連化学、バイオセンサー、ポリフェノール化合物を認識して選択的に吸着する高分子材料の設計合成

講演発表　金属ポルフィリン残基をもつケルセチンインプリント高分子における分離モードの切替 2021/06/11 第28回クロマトグラフィーシンポジウム クロマトグラフィー科学会 ポスター発表 国内会議

西方　敬人

研究課題　発生学、自然免疫、ガン治療、皮膚科学、再生医療　マクロファージ活性化メカニズムの解明とヒトの健康への応用

論文　Actin Filament in the First Cell Cycle Contributes to the Determination of the Anteroposterior Axis in Ascidian Development Journal of Developmental Biology 10巻1号 pp.10-23 2022/02

論文　Dynamic Changes in the Aassociation between Maternal mRNAs and Endoplasmic Reticulum during Ascidian Early Embryogenesis Development Genes and Evolution 232巻1号 pp.1-14 2022/02

論文　Intramolecular G-Quadruplex-Hairpin Loop Structure Competition of a GC-Rich Exon Region in the TMPRSS2 Gene Chem Commun (Camb) 58巻1号 pp.48-51 2021/12

論文　Involvement of Annexin A2 in Serum-MAF Dependent Phagocytic Activation of Macrophages Anticancer Research 41巻8号 pp.4089-4092 2021/08

講演発表　serum-MAFによるマクロファージの迅速な貪食活性化機構の新規性 2021/12/01 第44回日本分子生物学会年会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Verification of translational activity in unfertilized eggs of Ciona intestinalis using antisense nucleic acid. 2021/12/01 第44回日本分子生物学会年会 ポスター発表 国内会議

講演発表　マクロファージの細胞表層に見られる特徴的な微小管構造と貪食活性化 2021/12/11 第25回バイオ治療法研究会学術集会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Innovative imaging system using fiber bundle-based micro-endoscope for the investigation of tumor environments and evolution of cancer therapies 2021/12/01 第44回日本分子生物学会年会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Analysis of direct interactions between macrophages and keratinocytes in the early stage of wound healing 2021/12/01 第44回日本分子生物学会年会 ポスター発表 国内会議

講演発表　The phagocytic-activation mechanism through the rapid translocation of lipid raft-associated proteins in serum-MAF treated macrophage 2021/06/24 34th Annual conference of European macrophage and dendritic cell society ポスター発表 国際会議

講演発表　Spatio-temporal analysis of ER and maternal mRNAs in the ascidian egg 2021/12/01 第44回日本分子生物学会年会 ポスター発表 国内会議

赤松　謙祐

研究課題　ナノ材料化学、無機化学、電気化学　無機ナノ粒子集積体の精密合成と機能制御

論文　Controlling Interfacial Ion-Transport Kinetics Using Polyelectrolyte Membranes for Additive- and Effluent-free, High-Performance Electrodeposition ACS Applied Materials&Interfaces 2021

論文　Exploration of structural transition phenomenon in flexible metal-organic framework formed on polymer substrate CrystEngComm 23巻 pp.8498-8505 2021

論文　Precisely Controlled Reproducible Synthesis of Palladium Nanoparticles inside Metal-Organic Frameworks with H2 Gas as Reductant: Effects of Framework Crystallinity and H2 Gas Chem. Lett 50巻 pp.244-247 2021

講演発表　Kinetic control of copper electrodeposition using polyelectrolyte membranes 2021/09 INTERFINISH2020 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　固体電解質を介したイオン輸送による新規電析プロセスの開発」 2022/03 電気化学会第89回大会 口頭発表（招待・特別） 国内会議

講演発表　高分子電解質膜を用いた固相電析法における反応速度解析 2021/09 表面技術協会第144回講演大会 口頭発表（一般） 国内会議

川上　純司

研究課題　核酸医薬、RNA工学、遺伝子工学　アンチセンス核酸医薬の薬効予測法の開発

論文　Actin Filament in the First Cell Cycle Contributes to the Determination of the Anteroposterior Axis in Ascidian Development Journal of Developmental Biology 10巻1号 pp.10-10 2022/02/04

著書　実験医学 (Experimental Medicine) 実験医学 2021/11/01

川内　敬子

研究課題　がん細胞における細胞融合メカニズムの解明

論文　Anti-Malignant Effect of Tensile Loading to Adherens Junctions in Cutaneous Squamous Cell Carcinoma Cells. Frontiers in cell and developmental biology 9巻 pp.728383-728383 2021

MISC　rDNA由来のDNA G4とRGGペプチドの相互作用による液-液相分離現象の解析 日本分子生物学会年会プログラム・要旨集(Web) 44th巻 2021

MISC　オリゴ核酸を用いた神経変性疾患関連の液液相分離現象の制御 日本核酸医薬学会年会講演要旨集(CD-ROM) 6th巻 2021

MISC　がん関連RNAを破壊する分子標的型光線力学療法 Bio Clinica 36巻5号 2021 ISSN0919-8237

MISC　がん細胞死を優先的に誘導するビタミンE-単糖共重合体 日本バイオマテリアル学会大会予稿集(Web) 43rd巻 2021

MISC　マイクロ波照射による細胞への影響とその応用 日本電磁波エネルギー応用学会論文誌(Web) 5巻 2021 ISSN2435-3450

MISC　液液相分離現象を引き起こすペプチドのアミノ酸配列選択性の探索 日本化学会春季年会講演予稿集(Web) 101st巻 2021

MISC　液-液相分離現象を制御する小分子の発見に向けたスクリーニングシステムの構築 日本化学会春季年会講演予稿集(Web) 101st巻 2021

MISC　核酸の化学修飾と構造や相分離能の相関 月刊細胞 53巻14号 2021 ISSN1346-7557

MISC　核小体ストレスにより形成するrDNA G-quadruplex集合体とその機能 日本薬学会年会要旨集(Web) 141st巻 2021 ISSN0918-9823

MISC　rDNAの四重らせん構造形成の分子機構の解明 日本分子生物学会年会プログラム・要旨集(Web) 44th巻 2021

村嶋　貴之

研究課題　有機合成化学、生体機能関連化学、機能性色素化学、病気の診断に利用できる分子センサーの開発

講演発表　Pyridine N-Oxide 構造に着目した新規水溶性 AIE 色素の開発 2021/08/04 第41回有機合成若手セミナー 有機合成化学協会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Pyridine N-Oxide構造に着目した新規水溶性AIE色素の開発 2021/10/21 第11回CSJ化学フェスタ(2021) 日本化学会 国内会議

中野　修一

研究課題　物理化学、核酸化学、生体機能関連化学、分子生物学　細胞環境がDNAとRNAに与える影響に対する物理化学的評価とその生物学的意義の解明

論文　Enhancement of the Catalytic Activity of Hammerhead Ribozymes by Organic Cations. Chembiochem : a European journal of chemical biology 2021/07/09

MISC　核酸医薬の配列設計のためのin vitro評価：細胞内物質との弱い相互作用の影響 Bio Clinica 12巻36号 pp.1426-1428 2021/12/10 ISSN09198237

講演発表　What effects does intracellular environment have on nucleic acid structures? 2021/12/21 Pacifichem 2021 Pacifichem 2020 Administration 口頭発表（招待・特別） 国際会議

講演発表　塩基性タンパク質を含む分子クラウディング環境におけるDNA四重鎖構造の安定化 2021/12/02 第43回分子生物学会年会 日本分子生物学会 ポスター発表 国内会議

長濱　宏治

研究課題　高分子科学、生体材料学、細胞工学、医科学　細胞移植用スマートゲルの開発と再生医療への応用展開

論文　Angiogenesis Promotion by Combined Administration of DFO and Vein Endothelial Cells Using Injectable, Biodegradable, Nanocomposite Hydrogel Scaffolds ACS Applied Bio Materials 5巻2号 pp.471-482 2022/02/21

論文　Biological Tissue-Inspired Living Self-Healing Hydrogels Based on Cadherin-Mediated Specific Cell–Cell Adhesion ACS Macro Letters 10巻8号 pp.1073-1079 2021/08/04

論文　Injectable Biocatalytic Nanocomposite Hydrogel Factories for Focal Enzyme-Prodrug Cancer Therapy Biomacromolecules 22巻10号 pp.4217-4227 2021/10/11

鶴岡　孝章

研究課題　光化学、ナノ複合化学　無機ナノ結晶・多孔性有機金属錯体複合材料の開発

論文　Intracellular mineralization of gold nanoparticles using gold ion-binding peptides with cell-penetrating ability Chemical Communications 2021

論文　Precisely Controlled Reproducible Synthesis of Palladium Nanoparticles inside Metal-Organic Frameworks with H2 Gas as Reductant: Effects of Framework Crystallinity and H2 Gas Chem. Lett 50巻 pp.244-247 2021

論文　Exploration of structural transition phenomenon in flexible metal-organic framework formed on polymer substrate CrystEngComm 23巻48号 pp.8498-8505 2021

論文　Elemental composition control of gold-titania nanocomposites by site-specific mineralization using artificial peptides and DNA Communications Chemistry 2021/12

論文　Chemical synthesis of single nanometer-sized Bi2－xSbxTe3.0 nanocrystals via direct precipitation process Results in Chemistry 4巻 pp.100485-100485 2022/01 ISSN2211-7156

著書　固液界面での金属有機構造体作製 ナノ学会 8498-8505 2021

講演発表　Preparation of highly-luminescent [Au(SPh)]n coordination polymer using metal ion-doped substrate 2021/09 INTERFINISH2020 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　金属イオンドープ高分子基板上での銅-チオラート配位高分子の作製およびパターン形成 2022/03 日本化学会第102春季年会（2022） 口頭発表（一般） 国内会議

藤井　敏司

研究課題　生物無機化学、錯体化学、ペプチド、生体機能関連化学　アルツハイマー型認知症の早期診断システムの開発

講演発表　血液検査からアルツハイマー病の兆候を検出する電気化学センサの開発 2022/03/01 JST　ライフサイエンス系新技術説明会 国立研究開発法人　日本科学技術振興機構 口頭発表（招待・特別） 国内会議

髙嶋　洋平

研究課題　構造変換反応によるサブナノメートル錯体細孔の合理的合成とガスふるい材料への応用

論文　Controlling Interfacial Ion-Transport Kinetics Using Polyelectrolyte Membranes for Additive- and Effluent-free, High-Performance Electrodeposition ACS Appl. Mater. Interfaces 13巻 pp.13896-13906 2021

論文　Exploration of structural transition phenomenon in flexible metal-organic framework formed on polymer substrate CrystEngComm 23巻 pp.8498-8505 2021

論文　Precisely Controlled Reproducible Synthesis of Palladium Nanoparticles inside Metal-Organic Frameworks with H2 Gas as Reductant: Effects of Framework Crystallinity and H2 Gas Chem. Lett 50巻 pp.244-247 2021

講演発表　Syntheses and Catalytic Properties of Pd Nanoparticles/Organic Polymers inside a MOF 2021/09 錯体化学会第71回討論会 錯体化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　金属ナノ粒子―MOF 複合体の新規合成法の開発 2022/03 日本化学会第 102 春季年会(2021) 口頭発表（招待・特別） 国内会議

法学研究科

法務専攻

岩谷　敏昭

研究課題　弁護士倫理，企業支援の実践及び法律家によるイノベーション支援

宮川　聡

研究課題　補助参加における参加の利益と民訴法46条の定める判決の効力について

論文　相殺の抗弁と重複起訴の禁止 甲南法務研究 18号 pp.77-93 2022/03

論文　［判例評釈］　仮差押債務者が債権の仮差押えを受けた後に第三債務者との間で自残をした場合に当該債権に対する転付命令を得た仮差押債権者が第三債務者に対して示談金額を超える額の請求をすることができないとした原審の判断に違法があるとされた事例 甲南法務研究 18号 pp.95-105 2022/03

石井　昇

研究課題　・行政法と私法　・行政訴訟　・行政手続

論文　医師免許取消処分をめぐる諸問題ー特に「罰金以上の刑に処せられた者」について 行政法研究 39号 pp.41-54 2021/05 ISSN2188-7071

渡辺　顕修

研究課題　刑事手続の現代的諸課題

論文　医療観察法審判事件の概要と弁護人・ 付添人活動　　共同研究　「心の病」と韓日刑事法比較研究 甲南法務研究 18号 pp.132-139 2022/03/01

板倉　集一

研究課題　知的財産法における民事上の責任に関する研究

論文　著作権契約における表明保証の機能と法的責任 甲南法務研究 18号 pp.1-15 2022/03

国際言語文化センター

CHICHE Didier

研究課題　フランス文学　比較文学　フランス文明　フランス語教育

論文　Comment devenir un intellectuel à la française ? Voyage en France et tentation de l'exil dans le monde littéraire japonais des xixe et xxe siècles Trans - revue de littérature générale et comparée 26号 2021

KIRK Stanley Arthur

研究課題　Japanese Canadian Migration History

MACH Thomas Michael

研究課題　English Language Education, Cross Cultural Education

論文　Remote SALC practices in a pandemic: One university's initial approach and subsequent revisions JASAL Journal 2巻1号 pp.71-81 2021/06 ISSN2435-3884

WANG Marian

研究課題　e-ラーニング、英語教育、異文化理解

論文　Fostering critical thinking skills through cross-border collaborative discussions 言語と文化 25号 pp.121-132 2021 ISSN1347-6610

論文　Fostering the development of global human resources through collaborative projects in higher education and business THT Journal 9巻 pp.61-85 2021 ISSN2188-0603

講演発表　Fostering critical thinking skills in the EFL classroom 2021/10/29 BELTA-THT 2021 Virtual Teacher Development Seminar, Language Teaching in a Time of Change BELTA, THT 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　Fostering critical thinking skills through cross-border collaborative discussion 2022/02/18 18th Annual CamTESOL Conference on English Language Teaching IDP Education (Cambodia) Ltd 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　The emergency remote learning process of students in a global course 2021/11/12 JALT2021 第47回年次国際大会教材展示会 全国語学教育学会 口頭発表（一般） 国際会議

伊庭　緑

研究課題　Applied Linguistics(応用言語学) English Phonetics/Phonology(英語音声学・音韻論) Teaching English as a foreign language(外国語としての英語教育)

吉田　桂子

研究課題　①英語発音指導　②英語教育の現状と効果の国際比較

論文　英語発音授業における大学生の学習ニーズと指導法への反応 ― リズム指導ストラテジー ― 言語と文化 26号 pp.39-55 2022/03

金　泰虎

研究課題　韓日中の社会におけるワカメの果たす役割と機能

論文　韓日中におけるワカメの果たす役割と機能―前近代の資料を踏まえての多義性を中心に― 『韓国文化研究』（韓国文化学会） 第11号 pp.1-26 2021/08/31 ISSN2186-9626

論文　諺及び慣用句の成立と誕生―日韓の事例を中心に― 『東アジア社会における諺と慣用句の研究』（甲南大学総合研究所叢書） 145号 pp.1-26 2022/03/15 ISSN2433-5851

講演発表　正倉院所蔵の統一新羅文書－その機能と伝来論を中心に－ 2021/10/16 国際日本文化研究センター共同研究会 口頭発表（一般） 国内会議

胡　金定

研究課題　日中比較文学　中国語学

石井　康一

研究課題　中国語教授法　中国現代文学研究（演劇・古典芸能含む）　日中文化比較

谷守　正寛

研究課題　日本語の主題，教授法，教材開発

論文　学部正規留学生の日本語教育をめぐって 甲南大学教育学習支援センター紀要 7巻 pp.45-58 2022/03/23

論文　主題文のさまざまなタイプに共通する「は」の本質の考察 言語と文化 26号 pp.99-137 2022/03

著書　新視野日本語精通 華東理工大学出版社（上海） 2021/08

中村　典子

研究課題　フランス語教育　フランス語圏の文学　多文化共生

論文　アクティブ・ラーニングの実践とその射程 ー外国語教育と言語文化教育の２つの側面からー 甲南大学総合研究所　叢書 146号 pp.68-96 2022/03/15 ISSN2433-5851

藤原　三枝子

研究課題　ドイツ語教育、外国語教育研究

論文　外国語教育の目的から考えるプロジェクト授業 『言語と文化』 26号 pp.77-97 2022/03

野村　幸宏

研究課題　ドイツ語教授法、コミュニカティブアプローチ、教員養成

野村　和宏

研究課題　パブリック・スピーキング、スピーチ・コミュニケーション研究

論文　学生の意欲を高める対面、オンライン、ハイブリッド授業 ― What, How, and Why 『言語と文化』 26号 pp.19-38 2022/03/15 ISSN1347-6610

講演発表　Oral Communication Festival via ZOOM: Transmitted Passion and Unity 2021/08/27 大学英語教育学会第60回国際大会 Japan Association for College English Teachers 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　双方向型コミュニケーション活動を実現する対面・オンライン併用ハイブリッド授業の試み 2021/08/21 外国語教育メディア学会(LET)第60回全国研究大会 外国語教育メディア学会(LET)第60回全国研究大会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　テクノロジーを利用して学びを深める～ハイブリッド授業の試み 2021/12/27 第24回神戸英語教育学会研究大会 KELTセミナー 神戸英語教育学会 口頭発表（基調） 国際会議

共通教育センター

伊東　浩司

研究課題　ジュニアスプリンターのトレーニング方法の研究

岡村　こず恵

研究課題　NPOにおけるボランティアの活動環境に関する基礎研究

講演発表　ボランティアの社会化を促すものは何か？ ―当事者との相互作用に着目して― 2021/06/19 日本NPO学会第23回研究大会 日本NPO学会 口頭発表（一般） 国内会議

吉川　歩

研究課題　主観情報処理に関する研究

吉本　忠弘

研究課題　スポーツにおける技術指導に関する発生運動学的研究

論文　課外活動におけるスポーツコーチングに関する研究　-不測の事態におけるトレーニング施設の整備に注目して- 甲南大学教育学習支援センター紀要 7号 pp.15-29 2022/03/23

講演発表　発生運動学的立場から見たスキーにおける初心者指導　ー優勢化の身体発生に注目してー 2021/09/07 第71回　日本体育・スポーツ健康学会　大会 日本体育・スポーツ健康学会 ポスター発表 国内会議

久保　はるか

研究課題　環境保全のための行政機関と政策過程の研究, 日本の漁業資源管理の現状と課題, 地域コミュニティによるまちづくり、震災復興のまちづくりの研究

論文　オゾン層保護条約の国内実施とHFC規制 環境管理 58巻2号 pp.20-24 2022/02

講演発表　評価制度としての環境影響評価の可能性と限界 2021/06/19 環境法政策学会 環境法政策学会 口頭発表（一般） 国内会議

宮川　貴美子

研究課題　不登校児童生徒の心の研究ならびに保護者支援の調査研究

桂　豊

研究課題　生きる力について　サッカーの指導法　ゴルフの指導法　スキーの指導法　動作分析

古田　清和

研究課題　財務会計　会計監査　会計教育

高　龍秀

研究課題　韓国・東アジアの企業研究

山崎　俊輔

研究課題　世界の柔道人の「柔道観」についての調査

MISC　令和の指導者のあり方について 令和の指導者 2022/02/25

山本　シャーリ

研究課題　グローバル教育　セルフアクセスラーニング　アクティブラーニング

論文　Remote SALC Practices in a Pandemic: One University's Approach and Subsequent Revisions JASAL Journal 2巻1号 pp.71-81 2021/06 ISSN2435-3884

講演発表　Creating Global Cities of the Future: An Experiment in Virtual Student Exchange between the University of Pittsburgh and Konan University 2022/03/26 Association for Asian Studies Annual Conference 2022 Association for Asian Studies Annual Conference 2022

講演発表　甲南大学におけるCOIL活用授業の実践: 「COIL型エリアスタディーズ」 ピッツバーグ大学 2021/12/11 第51回言語教授法・カリキュラム開発研究会 全体研究会 口頭発表（一般） 国内会議

山本　貴揚

研究課題　民法（財産法）

篠田　有史

研究課題　個人の特性に着目した学習者分析手法の研究開発とそれを活用したeラーニングシステムに関する研究開発 ほか

小西　幸男

研究課題　思春期・青年期男子のセクシュアリティ教育の課題を克服する研究

水澤　克子

研究課題　自体重トレーニングが体力・健康に及ぼす影響について明らかにする。大学生の体力の現状と課題を明らかにする。

西浦　太郎

研究課題　学生相談領域における学生・教職員への包括的支援に関する研究

論文　危機状況・パンデミック下での留学生とのカウンセリング・コミュニケーションに関する一考察 甲南大学　学生相談室紀要 28号 2021

論文　語られない戦争体験をめぐって　欧州の第一次・第二次世界大戦の生き残り者との断片的記憶と体験から 甲南大学　人間科学研究所　心の危機と臨床の知 23号 pp.9-25 2022/03

論文　人の語りを聴くということ―体験を知ることへの試み― 甲南大学　学生相談室紀要 29号 pp.28-39 2022/02

著書　「甲南大学学生相談室　新型コロナウイルス特設サイト」報告書　その2（2021年1月-12月） 2022/02

著書　学生の主体性を育む大学教育実践の試み 甲南大学人間科学研究所 心の危機と臨床の知 143-150 2022/03

講演発表　現代学生の主体性と体験の可能性について―少人数ワークショップ型授業の実践から― 2021/08/26 甲南大学人間科学研究所　公開研究会 甲南大学人間科学研究所 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　Supporting students with disabilities on study abroad programs in Japan and beyond 2021/10/07 NACADA 2021 Annual Conference NACADA (National Academic Advising Association) 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　危機状況・パンデミック下における非対面での学生・教職員支援の可能性の検討　-『新型コロナウイルス　特設サイト』の制作・運営の実践から- 2021/05/15 第39回日本学生相談学会 日本学生相談学会 口頭発表（一般） 国内会議

西川　耕平

研究課題　経営学　人材開発　組織開発

論文　Transforming Adolescents into Social Entrepreneurs: A Time When Adolescents Become Reflexive Social Entrepreneurs South Asian Journal of Business and Management Cases 10巻2号 pp.1-9 2021/06/03 ISSN2277-9779

著書　Case Studies on Perspectives on Management and Digital Business Bloomsbury Publishing India Pvt. Ltd 30-40 2021 ISBN978-93-54352-77-5

講演発表　ＳＤＧｓ時代における企業財務管理の諸課題; 個人と企業のサスティナビリティを理解する関係性という視点 2021/11/06 日本財務管理学会第53回秋季全国大会開催 釧路公立大学 濱田弘樹 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　Session 28: Case Studies in Ethics II When do we come to be philosophers through work? a woman as a lead change agent in a Japanese manufacturing company 2021/10/21 28th Annual International Vincentian Business Ethics Conference 2021Theme: Economic Jus

講演発表　Title Case: The Foundation That Leadership Nurtures People Makes The Ideals Possible. 2021/12/03 11th ICMC 2021, International Conference on Management Cases at BIMTECH International Conference on Management Cases at BIMTECH BIRLA Institute 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　変わることの思想と実践体系としての組織開発 (Organization Development) 2021/08/21 日本看護評価学会学術集会 日本看護評価学会学術集会 口頭発表（一般） 国内会議

千葉　美保子

研究課題　アクティブラーニング型授業の実践と効果検証

研究課題　大学における学習環境デザインおよび学習支援に関する研究

曽我部　晋哉

研究課題　武道の教育的効果について

MISC　第17回自他共栄CUP－国際柔道シンポジウムー 柔道 92巻6号 pp.90-93 2021/06/01

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第40回「内側側副靭帯損傷のためのテーピングは？―内側側副靭帯損傷に対するテーピング―　」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻12号 pp.54-55 2021/11/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第41回「膝内側側副靭帯損傷から復帰するための方法は？―中等症（Ⅱ度）の損傷の場合―　」 ベースボールマガジン社 近代柔道 44巻1号 pp.50-51 2021/12/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第38回「なぜ、膝は内側に入りやすいの？―ダイナミック・アライメントの矯正―」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻10号 pp.64-65 2021/09/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第37回「なぜ、膝はケガをしやすいの？―膝の外傷―」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻9号 pp.52-53 2021/08/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第36回「成長期に注意しなければならない腰のケガは？―腰椎分離症―」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻8号 pp.58-59 2021/07/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第35回「腰のヘルニアってよく聞くけど、どのようなケガなの？―腰椎椎間板ヘルニア―」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻7号 pp.46-47 2021/06/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第34回「ケガをしたわけでもないのに、腰がいつも痛いのはなぜ？―腰痛につながる姿勢と動き―」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻6号 pp.54-55 2021/05/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第44回「前十字靭帯損傷の予防のトレーニングは？―前十字靭帯損傷予防トレーニング―」 近代柔道 44巻4号 pp.60-61 2022/03/22

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第39回「膝のケガで最も多い内側側副靭帯損傷はどれぐらいの期間で治るの？―内側側副靭帯損傷―　」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻11号 pp.54-55 2021/10/22 単著

MISC　第17回KOBE自他共栄CUP国際柔道シンポジウムならびに自他共栄賞、第4回自他共栄標語コンクールの報告 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻5号 pp.55-55 2021/04/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第33回「親指を動かすと痛い。どのように固定すればいいの？―スキーヤーズ・サム―」 ベースボールマガジン社 近代柔道 43巻5号 pp.46-47 2021/04/22 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第42回「膝のケガでよく聞く前十字靭帯損傷とは？―前十字靭帯損傷―　」 ベースボールマガジン社 近代柔道 44巻2号 pp.60-61 2022/01/22 単著

MISC　海外の「JUDO」ホントのところ 第18回「コロナで大打撃の柔道登録者数。我々はここから何を導き出すべきか。」 全日本柔道連盟 まいんど 28巻 pp.37- 2021/07/20 単著

MISC　海外の「JUDO」ホントのところ 第19回「柔道は『器用』なスポーツだと世界が注目！日本では？」 全日本柔道連盟 まいんど 29巻 pp.36- 2021/09/30 単著

MISC　海外の「JUDO」ホントのところ 第20回「組み合うことを知らない子どもたちを救うには？」 全日本柔道連盟 まいんど 30巻 pp.24- 2021/12/20 単著

MISC　海外の「JUDO」ホントのところ　第21回「隣の芝は本当に青いのか？」 まいんど 31巻 pp.28-28 2022/02/20

MISC　次世代を担う子どもたちへの最高の贈り物。それが「受身」です。 全日本柔道連盟 まいんど 30巻 pp.15- 2021/12/20 単著

MISC　中・高生のためのやさしいスポーツ医学　第43回「前十字靭帯損傷の再発を予防するためのテーピングは？―前十字靭帯損傷に対するテーピング―」 近代柔道 44巻3号 pp.74-75 2022/02/22

講演発表　「選手の能力を１％でも高めるためのチームマネジメント」井上康生×曽我部晋哉（対談形式） 2021/12/18 第10回トレーニング指導学会 日本トレーニング指導学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　「転び方」の学習メカニズム 2022/03/05 安全な転び方プロジェクト （公財）全日本柔道連盟 公開講演，セミナー，チュートリアル，講習，講義等 国内会議

講演発表　コロナ禍における身体活動量調査・心理的ストレス反応尺度の結果・考察 2022/03/05 2021年度スポーツ・健康教育研究会 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　コロナ禍における大学生の身体活動量及び心理的ストレス反応について 2022/03/14 第36回日本体力医学会近畿地方会 日本体力医学会近畿地方会 シンポジウム・ワークショップ パネル（指名） 国内会議

講演発表　間違ったプログラム作成５つの共通点～トレーニングをしても結果を導けないのは何故～ 2021/12/18 第16回日本トレーニング指導者研修会 日本トレーニング指導者協会 口頭発表（一般） 国内会議

長谷川　雄彦

研究課題　図書館の組織と管理運営、および図書館サービスの研究

梅本　剛正

研究課題　市場における不正取引と規制

論文　引受証券会社のゲートキーパー責任―エフオーアイ事件最高裁判決 ジュリスト 1560号 pp.62-67 2021/07

論文　ゴーン氏の役員報酬は「重要な事項につき虚偽の記載のあるもの」か？ 証券レポート 1725号 pp.36-49 2021/04

鳩貝　耕一

研究課題　アクティブラーニングなどを含む授業手法，数理・データサイエンス・AI・量子教育，情報リテラシー

著書　KUKINDSガイドブック 学術図書出版社 2022/03 ISBN978-4-7806-0021-6

武田　佳久

研究課題　キャリアデザイン

冷水　登紀代

研究課題　民法（家族法）扶養と特別寄付の関係について

著書　新・コンメンタール民法（家族法） 13－86、208－285 2021/04/20

著書　新ハイブリッド民法5　家族法 法律文化社 171－210，211－237 2021/11/20

MISC　離婚後養育費を負担していた申立人が、相手方の再婚およびその親権に服する子が再婚相手と養子縁組をした場合、当該子の扶養義務は、第１次的には、親権者および養親となった再婚相手が負うべきであるとしつつ、申立人の養育費の支払義務が免除される始期を養子縁組時ではなく調停申立月とした事例 TKCローライブラリー　新・判例解説Watch 2022/02/04

鵜木　千加子

研究課題　スポーツ指導及び体育授業における指導に関する研究

教職教育センター

定金　浩一

研究課題　臨床教育（いじめ・不登校・生徒指導・教育相談・特別支援教育）教職教育（教員養成・教員の資質向上）

著書　コンパス　教育相談 株式会社　建帛社 1 2022/03/15 ISBN978-4-7679-5134-8

先端生命工学研究所

遠藤　玉樹

研究課題　細胞内で機能するRNA構造スイッチの最適化および合理的設計技術の構築

論文　Correction to 'Improved nearest-neighbor parameters for the stability of RNA/DNA hybrids under a physiological condition'. Nucleic acids research 49巻18号 pp.10796-10799 2021/10/11

論文　Transcriptome screening followed by integrated physicochemical and structural analyses for investigating RNA-mediated berberine activity. Nucleic acids research 49巻15号 pp.8449-8461 2021/09/07

論文　Triple-Helical Binding of Peptide Nucleic Acid Inhibits Maturation of Endogenous MicroRNA-197. ACS chemical biology 16巻7号 pp.1147-1151 2021/07/16

論文　Chemical Biology of Double Helical and Non-Double Helical Nucleic Acids: “To B or Not To B, That Is the Question” Bulletin of the Chemical Society of Japan 94巻7号 pp.1970-1998 2021/07/15 ISSN0009-2673

MISC　Nucleic Acids Chemistry and Engineering: Special Issue on Nucleic Acid Conjugates for Biotechnological Applications MDPI APPLIED SCIENCES-BASEL 11巻8号 2021/04

講演発表　Structure-based derivatization of berberine to improve the potency for targeting RNA structures 2021/12/09 第21回東北大学多元物質科学研究所研究発表会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Triplex-forming peptide nucleic acid inhibits maturation of endogenous miRNA 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム ポスター発表 国際会議

講演発表　非天然塩基含有PNAによる三重らせん構造を介したmiRNAの成熟阻害 2021/09/08 第15回バイオ関連化学シンポジウム 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (80) : Validation of the nearest-neighbor model for Watson-Crick RNA duplexes under molecular crowding condition 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (75): Development of RNA-ligand pairs for multicolor RNA imaging in cells 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (76) : Structure-based Derivatization of Berberine to Improve the Potency for Targeting RNA Structures 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Structure-based derivatization of berberine to improve its RNA binding affinity 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム ポスター発表 国際会議

建石　寿枝

研究課題　細胞内の核酸構造の定量的解析を目指した疾患細胞モデル系の構築とその活用

論文　Chemical Biology of Double Helical and Non-Double Helical Nucleic Acids: “To B or Not To B, That Is the Question” Bulletin of the Chemical Society of Japan 94巻7号 pp.1970-1998 2021/07/15 ISSN0009-2673

論文　Chemical Modulation of DNA Replication along G-Quadruplex Based on Topology-Dependent Ligand Binding. Journal of the American Chemical Society 143巻40号 pp.16458-16469 2021/10/13

論文　Effect of DNA modifications on the transition between canonical and non-canonical DNA structures in CpG islands during senescence RSC Advances 11巻59号 pp.37205-37217 2021/11

論文　Intramolecular G-quadruplex-hairpin loop structure competition of a GC-rich exon region in the TMPRSS2 gene Chemical Communications 58巻1号 pp.48-51 2022/01 ISSN1359-7345

論文　Roles of non-canonical structures of nucleic acids in cancer and neurodegenerative diseases. Nucleic acids research 49巻14号 pp.7839-7855 2021/08/20

著書　CSJカレントレビュー「進化を続ける核酸化学―ゲノム編集，非二重らせん，核酸医薬」 2-13 2021/10

著書　月刊化学「化学者が思い描く未来の社会」 23-24 2021/12

MISC　脱ワトソン・クリックの核酸化学(69):神経変性疾患に関連するRNA四重鎖とジペプチドリピートの分子シミュレーションによる相互作用の解析 日本化学会春季年会講演予稿集(Web) 101st巻 2021 共著

講演発表　Liquid-liquid phase separation of G-quadruplexes derived from neurodegenerative disease RNAs 2021/12/16 Pacifichem2021 国際会議

講演発表　Roles of non-canonical DNA structures in cancer cells on mechanism of dimensional response genome 2021/12/17 International Conference on Chemical and Environmental Sciences 2021 国際会議

講演発表　Regulation transcription by DNA structures responsive chemical stimulus in cells 2021/12/16 Pacifichem2021 国際会議

講演発表　Changes in the atomic-level behavior of G-quadruplex under high pressure conditions 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 国際会議

講演発表　Effect of DNA modifications on the changes of DNA structure in CpG islands 2021/12/17 International Conference on Chemical and Environmental Sciences 2021 国際会議

講演発表　Chemical modulation of DNA replication by topology-dependent ligand binding on guanine quadruplexes 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 国際会議

講演発表　G-quadruplex formation in cancer cells with different expression level of ion channels 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 国際会議

講演発表　Roles of G-quadruplexes in cancer cells on multi-dimensional response genome 2021/11/10 G4 webinar series Round VI 国際会議

松本　咲

研究課題　核酸の高次構造による老化促進メカニズムの解明

論文　Effect of DNA modifications on the transition between canonical and non-canonical DNA structures in CpG islands during senescence RSC Advances 11巻59号 pp.37205-37217 2021

論文　New Insights into the Functions of Nucleic Acids Controlled by Cellular Microenvironments Topics in Current Chemistry 379巻3号 2021/06 ISSN2365-0869

MISC　14章　遺伝子発現における核酸の新機能 CSJカレントレビュー「進化を続ける核酸化学―ゲノム編集、非二重らせん、核酸医薬―」 41号 pp.146-154 2021/10

講演発表　Effect of DNA modifications on the changes of DNA structure in CpG islands 2021/12 International Conference on Chemical and Environmental Sciences 2021 (ICCAES 2021)（オンライン）国際会議

講演発表　Structure-based derivatization of berberine to improve the potency for targeting RNA structures 2021/12 第21回東北大学多元物質科学研究所研究発表会（東北大学片平さくらホール ＆ Zoomミーティング）東北大学 多元物質科学研究所 研究発表会実行委員会 国内会議

講演発表　Structure-based derivatization of berberine to improve its RNA binding affinity 2021/11 第48回国際核酸化学シンポジウム（オンライン）日本核酸化学会 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (74): Effect of DNA modifications on the transition between canonical and non-canonical DNA structures in CpG island 2022/03 第102回春季年会（オンライン）日本化学会 国内会議

講演発表　高圧力を用いたRNAグアニン四重らせん構造の水和特性の解析 2021/10 第62回高圧討論会（オンライン）日本高圧力学会 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (76) : Structure-based Derivatization of Berberine to Improve the Potency for Targeting RNA Structures 2022/03 第102回春季年会（オンライン）日本化学会 国内会議

杉本　直己

研究課題　いつ、どこで、どのように、核酸の高次構造は形成し機能するのかを予測する、非二重らせん核酸を活用した遺伝子発現の制御法を開発する核酸化学研究拠点

論文　Intramolecular G-quadruplex-hairpin loop structure competition of a GC-rich exon region in the TMPRSS2 gen Chem. Commun. 58巻 pp.48-51 2021/11/15

論文　細胞内での核酸の挙動を明らかにする熱力学的解析 熱測定 49巻 pp.14-19 2022/01/25

論文　Triple-Helical Binding of Peptide Nucleic Acid Inhibits Maturation of Endogenous MicroRNA-197 ACS Chemical biology 16巻 pp.1147-1151 2021/07/16

論文　Transcriptome screening followed by integrated physicochemical and structural analyses for investigating RNA-mediated berberine activity Nucleic acids research 49巻 pp.8449-8461 2021/07/16

論文　New Insights into the Functions of Nucleic Acids Controlled by Cellular Microenvironments Topics in Current Chemistry Topics in Current Chemistry 379巻 2021/06 ISSN2365-0869

論文　Dielectricity of a molecularly crowded solution accelerates NTP misincorporation during RNA-dependent RNA polymerization by T7 RNA polymerase Scientific reports 12巻 pp.1149- 2022/01/21

論文　Correction to ‘Improved nearest-neighbor parameters for the stability of RNA/DNA hybrids under a physiological condition’ Nucleic acids research 49巻 pp.10796-10799 2021/09/14

論文　Chemical Modulation of DNA Replication along G-Quadruplex Based on Topology-Dependent Ligand Binding Journal of the American Chemical Society 143巻 pp.16458-16469 2021/09/23

論文　Chemical Biology of Double Helical and Non-Double Helical Nucleic Acids: “To B or Not To B, That Is the Question” Bulletin of the Chemical Society of Japan 94巻 pp.1970-1998 2021/07/15

論文　Effect of DNA modifications on the transition bet and non-canoncial DNA stransures in CpG islands during senescence RSC Advances 11巻 pp.37205-37217 2021/12/20

著書　Chemistry and Biology of Non-canonical Nucleic Acids WILEY 2021/04

MISC　がん関連mRNAと光線力学療法 化学同人 CSJカレントレビュー「生体分子と疾患」 39巻 pp.75-83 2021/08 共著

MISC　遺伝子発現における核酸の新機能 CSJカレントレビュー「進化を続ける核酸化学―ゲノム編集、非二重らせん、核酸医薬―」 41巻 pp.146-154 2021/10/15 共著

MISC　分子夾雑によって制御される核酸機能と疾患発症 ニューサイエンス社 月刊細胞 53巻6号 pp.4-7 2021/04/30 共著

MISC　Watson-Crick versus Hoogsteen Base Pairs: Chemical Strategy to Encode and Express Genetic Information in Life Accounts of Chemical Research 54巻 pp.2110-2120 2021 共著

MISC　Roles of non-canonical structures of nucleic acids in cancer and neurodegenerative diseases Nucleic Acids Res., 49巻 pp.7839-7855 2021/07/09 共著

MISC　細胞内の核酸物理化学 CSJカレントレビュー「進化を続ける核酸化学―ゲノム編集、非二重らせん、核酸医薬―」 41巻 pp.14-21 2021/10/15 共著

講演発表　トポロジー依存的なリガンド結合でグアニン四重鎖のDNA複製を制御する 2021/09/08 第15回バイオ関連化学シンポジウム 日本化学会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Roles of non-canonical DNA structures in cancer cells on mechanism of dimensional response genome 2021/12/17 International Conference on Chemical and Environmental Sciences 2021 (ICCAES 2021) 口頭発表（招待・特別） 国際会議

講演発表　Regulation transcription by DNA structures responsive chemical stimulus in cells 2021/12/16 Pacifichem2021 口頭発表（招待・特別） 国際会議

講演発表　Structure-based derivatization of berberine to improve its RNA binding affinity 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　Structure-based Derivatization of Berberine to Improve the Potency for Targeting RNA Structures 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Triplex-forming peptide nucleic acid inhibits maturation of endogenous miRNA 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 ポスター発表 国際会議

講演発表　高圧力を用いたRNAグアニン四重らせん構造の水和特性の解析 2021/10/18 第62回高圧討論会 日本高圧力学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　非天然塩基含有PNAによる三重らせん構造を介したmiRNAの成熟阻害 2021/09/08 第15回バイオ関連化学シンポジウム 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　細胞夾雑模倣系の構築と細胞内活性分子設計指針の構築（4） 2021/04/15 分子夾雑の生命科学　第5回領域会議 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Changes in the atomic-level behavior of G-quadruplex under high pressure conditions 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 ポスター発表 国際会議

講演発表　脱ワトソン・クリックの核酸化学 (77):高圧環境がDNA非二重らせん構造に与える影響 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (80) : Validation of the nearest-neighbor model for Watson-Crick RNA duplexes under molecular crowding condition 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　神経変性疾患に係るリピートRNAとペプチドの相互作用解析 2021/09/08 第15回バイオ関連化学シンポジウム 日本化学会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Application of nearest-neighbor model to the stability prediction of i-motif DNAs 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 ポスター発表 国際会議

講演発表　Effect of DNA modifications on the changes of DNA structure in CpG islands 2021/12/17 International Conference on Chemical and Environmental Sciences 2021 (ICCAES 2021) 口頭発表（招待・特別） 国際会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (79) : Application of the nearest-neighbor model for the stability prediction of intramolecular i-motif DNAs 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Structure-based derivatization of berberine to improve the potency for targeting RNA structures 2021/12/09 第21回東北大学多元物質科学研究所研究発表会 東北大学 多元物質科学研究所 研究発表会実行委員会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Chemical modulation of DNA replication by topology-dependent ligand binding on guanine quadruplexes 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 口頭発表（一般） 国際会議

講演発表　G-quadruplex formation in cancer cells with different expression level of ion channels 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 ポスター発表 国際会議

講演発表　Hydration parameters in nearest-neighbor model enables stability prediction for compositionally biased DNA duplexes in molecular crowding conditions 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 日本核酸化学会 ポスター発表 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (73):Effect of G-quadruplex stability change on transcriptional repression in cancer cells 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (74): Effect of DNA modifications on the transition between canonical and non-canonical DNA structures in CpG island 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (78) : Analysis of structural dynamics of c-Myc G-quadruplex DNA using high pressure 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (75): Development of RNA-ligand pairs for multicolor RNA imaging in cells 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (76) : Structure-based Derivatization of Berberine to Improve the Potency for Targeting RNA Structures 2022/03/23 第102回春季年会 日本化学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Mg^{2+}イオンによるグアニン四重鎖DNAの構造ダイナミクス制御 2021/09/06 第70回高分子討論会 高分子学会 国内会議

髙橋　俊太郎

研究課題　高圧力による核酸の構造解析

論文　Chemical Modulation of DNA Replication along G-Quadruplex Based on Topology-Dependent Ligand Binding. Journal of the American Chemical Society 143巻40号 pp.16458-16469 2021/09/23

論文　Correction to 'Improved nearest-neighbor parameters for the stability of RNA/DNA hybrids under a physiological condition'. Nucleic acids research 49巻18号 pp.10796-10799 2021/10/11

論文　Chemical Biology of Double Helical and Non-Double Helical Nucleic Acids: “To B or Not To B, That Is the Question” Bulletin of the Chemical Society of Japan 94巻7号 pp.1970-1998 2021/07/15 ISSN0009-2673

論文　Dielectricity of a molecularly crowded solution accelerates NTP misincorporation during RNA-dependent RNA polymerization by T7 RNA polymerase. Scientific reports 12巻1号 pp.1149-1149 2022/01/21

講演発表　脱ワトソン・クリックの核酸化学 (77):高圧環境がDNA非二重らせん構造に与える影響 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　細胞内での核酸の挙動を明らかにする熱力学的解析 2021/10/27 第57回熱測定討論会 口頭発表（招待・特別） 国内会議

講演発表　高圧力を用いたRNAグアニン四重らせん構造の水和特性の解析 2021/10/18 第62回高圧討論会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (80) : Validation of the nearest-neighbor model for Watson-Crick RNA duplexes under molecular crowding condition 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　トポロジー依存的なリガンド結合でグアニン四重鎖のDNA複製を制御する 2021/09/08 第15回バイオ関連化学シンポジウム ポスター発表 国内会議

講演発表　Chemical modulation of DNA replication by topology-dependent ligand binding on guanine quadruplexes 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (78) : Analysis of structural dynamics of c-Myc G-quadruplex DNA using high pressure 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Hydration parameters in nearest-neighbor model enables stability prediction for compositionally biased DNA duplexes in molecular crowding conditions 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム ポスター発表 国内会議

講演発表　Changes in the atomic-level behavior of G-quadruplex under high pressure conditions 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム ポスター発表 国内会議

講演発表　Application of nearest-neighbor model to the stability prediction of i-motif DNAs 2021/11/10 第48回国際核酸化学シンポジウム8回国際核酸化学シンポジウム ポスター発表 国内会議

講演発表　Mg2+イオンによるグアニン四重鎖DNAの構造ダイナミクス制御 2021/09/06 第70回高分子討論会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　Nucleic Acids Chemistry beyond the Watson-Crick Double Helix (79) : Application of the nearest-neighbor model for the stability prediction of intramolecular i-motif DNAs 2022/03/23 日本化学会第102回春季年会 口頭発表（一般） 国内会議

国際交流センター

森川　結花

研究課題　地域リソースを活用した文化体験活動プログラムの開発

論文　将来につなげるオンラインイベントの試み:その意義と成果報告 CAJLE2021 大会Proceedings pp.127-134 2021/08

論文　文化の担い手が日本語学習者に伝えたい”思い”に関する分析と考察：能楽師へのインタビュー調査より 甲南大学教育学習支援センター紀要 7号 pp.67-86 2022/03/23

論文　オンライン日本文化学習の限界と可能性 日本語プロフィシェンシー研究学会 10周年記念シンポジウム pp.70-71 2021/06/26

講演発表　将来につなげるオンラインイベントの試み：その意義と成果報告 2021/08/19 CAJLE 2021 年次大会 カナダ日本語教育振興会 ポスター発表 国際会議

講演発表　日本語学校での文化体験活動の実践と省察 ：ある日本語教師へのインタビュー調査より 2022/03/26 日本語プロフィシエンシー研究学会2021年度研究例会 日本語プロフィシエンシー研究学会 口頭発表（一般） 国内会議

講演発表　オンライン日本文化学習の限界と可能性 2021/06/27 日本語プロフィシエンシー研究学会10周年記念シンポジウム 日本語プロフィシエンシー研究学会 口頭発表（一般） 国内会議

平井　一樹

研究課題　動画教材研究、文法教材研究、外国人労働者の言語習得支援研究

論文　ことわざ、故事成語、慣用句・表現、 四字・三字熟語について、均衡コーパスと日経テレコン を使用した分析、および理解表現として日本語学習で扱うための提案 甲南大学総合研究所叢書 145巻 2022/03

著書　「技能実習生と日本語教育」 大阪大学出版会 （2020年度岸本忠三出版助成金） 第11章 2021/10/01 ISBN978-4872597387

学長直属（特別客員教授）

田中　修

研究課題　植物生理学

著書　植物のいのち 中公新書（中央公論新社） 2021/05/25 ISBN978-4-12-102644-6

著書　すごい植物最強図鑑 中央公論新社 2021/07/25 ISBN978-4-12-005451-8

著書　植物ないしょの超能力 小学館 2021/07/20 ISBN978-4-09-227361-0

研究推進　組織体制

フロンティア研究推進機構

大学と社会をつなぐ総合窓口

Konan University

***F**rontier **R**esearch **O**rganization for **N**ew **T**hemes*

フロンティア研究推進機構(FRONT)は、研究支援や産学連携の推進、知的財産等の管理を行う「大学と社会をつなぐ総合窓口」として2004年に設立されました。

本学の優れた研究成果を社会実装することなどを通じて、社会に貢献することをミッションとしています。

附置研究所

本学には４つの附置研究所が設置されています。（役職者は2021年度）

総合研究所
所長（フロンティアサイエンス学部　教授）　村嶋　貴之

先端生命工学研究所（FIBER）
所長（先端生命工学研究所　教授）　杉本　直己

人間科学研究所
所長（文学部　教授）森　茂起

ビジネス・イノベーション研究所
所長（経営学部　教授）　西村　順二

特定プロジェクト研究所

プロジェクト研究所は、本学の専任教員(特任教授を含む。)が企業・官公庁・公的機関等から獲得した研究資金によって、一定期間、研究活動を推進するにあたり、本学の研究活動の強化及び新研究教育分野の展開に役立つことを目的として、当該の研究プロジェクト名を冠して設置されています。

非電離放射線生体環境総合研究所（RINNIR）
所長（フロンティアサイエンス学部　准教授）　臼井　健二

ヒトの健康科学研究所
所長（フロンティアサイエンス学部　教授）　西方　敬人

統合ニューロバイオロジー研究所
所長（理工学部　教授）　日下部　岳広

歴史文化研究センター
所長（文学部　教授）　東谷　智

エネルギー変換材料研究所
所長（理工学部　教授）　町田　信也

総合研究所

活動報告

前年度からの継続チーム（№.147）が加わり、学部の枠を超えた共同研究に取り組みました。

No.147

【代表幹事研究者】

森　　茂起

【研究課題】

「子ども・子育て」の現状と未来に関する領域横断的研究―次世代育成を含むライフプラン形成を目指して

森　　茂起　文学部・教授
足立　泰美　経済学部・教授
奥野　明子　経営学部・教授
前田　正子　マネジメント創造学部・教授
中里　英樹　文学部・教授
北川　　恵　文学部・教授
野崎　優樹　文学部・講師
木下　雅博　人間科学研究所・博士研究員

公開講演会の開催

2021 年度の公開講演会は以下の通り開催しました。

第 73 回甲南大学総合研究所公開講演会

甲南大学開学 70 周年を記念して以下の講演会を開催しました。

甲南大学開学 70 周年記念シンポジウム
「ポスト・コロナの博物館運営」
日時：2021 年 10 月 2 日（土）
　　14：00～16：00
場所：甲南大学岡本キャンパス
　　5 号館 511 教室

講演者
神戸市立博物館学芸課長・学芸員
　小野田　一幸　氏
滋賀県立琵琶湖博物館上席統括学芸員
　亀田　佳代子　氏
国立国際美術館館長
　島　　敦彦　氏

第 74 回甲南大学総合研究所公開講演会
（ｵﾝﾗｲﾝ開催）

「甲南の教員が解説する Nobel Prize2021
～ノーベル医学生理学賞～」

期　間：2021 年 11 月 16 日（火）
　　12：20～12：55

講演者：理工学部教授　久原　　篤　氏

第 75 回甲南大学総合研究所公開講演会
（ｵﾝﾗｲﾝ開催）

「甲南の教員が解説する Nobel Prize2021
～ノーベル物理学賞～」

期　間：2021 年 12 月 10 日（金）
　　12：20～12：55

講演者：理工学部准教授　髙吉慎太郎　氏

第 76 回甲南大学総合研究所公開講演会
（ｵﾝﾗｲﾝ開催）

「甲南の教員が解説する Nobel Prize2021
～ノーベル化学賞～」

期　間：2021 年 12 月 13 日（月）
　　12：20～12：55

講演者：理工学部准教授　片桐　幸輔　氏

詳細は研究所HPをご覧ください。

（https://www.konan-u.ac.jp/souken/）

先端生命工学研究所（FIBER）

FIBER では、2014 年度より FIBER 第 II 期計画に基づく研究プロジェクトを開始し、2021 年度でプロジェクト後半となる 8 年目を迎えています。特に、2014 年度から 2018 年度にかけて遂行した文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「核酸の非標準構造を標的とした細胞応答の化学的制御技術の構築と先制核酸医工学への展開」では、疾患に関連する核酸の非標準構造を、疾患発症に至る前に制する「先制核酸医工学」という新たな医工連携研究を展開して来ました。その中で、

① 細胞内外の化学環境変化に対する非標準核酸構造の分子応答機構を明確に定量化する（Analyze）。

② 非標準核酸構造の制御を可能にする人工分子を化学合成する（Build）。

③ 合成分子を細胞内で作用させ、非標準核酸構造への摂動を介して細胞機能の制御を行う（Control）。

という 3 つのステップにより、ABC 核酸統合化学と名付けた研究展開を進めてきました。

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究期間終了後、2019 年度からの FIBER 第 II 期計画の後半では、「生命の基盤的現象に関わる核酸機能の解明、およびその機能の化学的制御技術の確立と活用」を主幹に研究課題を設定し、研究を推進しています。従前の ABC 核酸統合化学の充実の他、先制核酸医工学に活用できる検出・診断（Detection/Diagnosis）および創薬（Drug Design）に関わる研究に取り組むことで、これまでの研究を ABC-D 核酸統合化学として発展させています（図 F-1）。

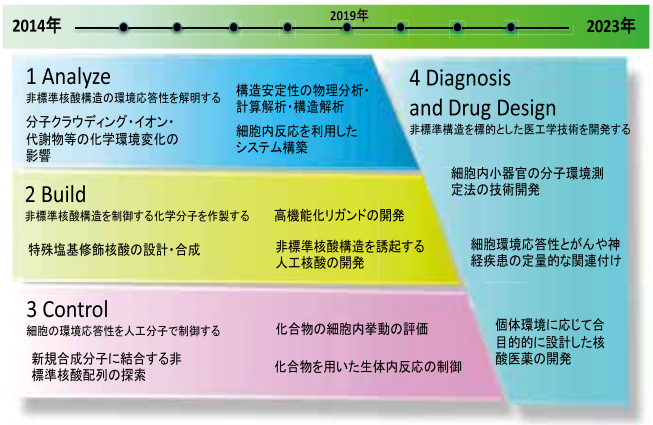


図 F-1　FIBER 第 II 期計画における研究プロジェクトの年次計画

2021 年度は、研究所内の複数の教員が参加する研究課題として、文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究・分子夾雑の生命化学」(2017 年度から 5 年間)、同事業「国際共同研究加速基金・国際共同研究強化（B)」(2018 年度から 3 年間)、同事業「基盤研究(A)」(2019 年度から 3 年間)、同事業「挑戦的研究（萌芽)」(2020 年度から 2 年間）などに継続採択されている研究課題を遂行しました。新型コロナウイルス感染症の影響で 2021 年度まで延長していた「国際共同研究加速基金・国際共同研究強化(B)」については、共同研究先を訪問しての研究の遂行が難しい状況が続いていることから、研究期間を再延長し、2022 年度まで共同研究を遂行することを予定してい

ます。これらの継続課題に加え、2021 年度は、若手研究者（45 歳以下）の複数のグループにより行う大型研究への補助金である文部科学省科学研究費助成事業「学術変革領域研究（B)」に研究課題が新規採択されました。本研究課題では、FIBER の教員が学内外の複数の共同研究グループを統括して研究を進めました。

2021 年度における FIBER の研究成果として、**I 学術論文、II 総説・解説・展望等として計 20 報、III 学会発表・講演会等における成果発表 30 件を報告しました。**以下に、特に学術的、社会的に価値のある具体的な研究成果の概要について記します。

- 植物由来天然化合物と核酸構造の相互作用解析

ヒトは、様々な化学物質を食物から摂取しています。その中でも、ファイトケミカルと呼ばれる植物に由来する化合物群には、ヒトの健康状態などにも影響を与える生物活性を有するものが存在しています。近年、一部のファイトケミカルが示す生物活性が、細胞内の核酸分子である RNA に直接的に結合することで引き起こされている可能性が議論され始めています。そのため、どのようなファイトケミカルがどのような RNA 分子と相互作用する可能性があるのかを解析していくことは、ファイトケミカルが示す生物活性の分子機構を解明し、将来的に RNA を標的とした薬剤化合物を開発していくうえで重要な課題となってきます。

FIBER では、抗菌活性、抗炎症作用などを示すことが知られるベルベリンと名付けられたファイトケミカルに着目し、ベルベリンが相互作用する RNA をヒト由来の RNA の中から選別することを行いました。さらに、スロベニア国立 NMR センターの研究グループとの国際共同研究として、選別された RNA とベルベリンが結合した状態の構造解析を行いました。その結果、ベルベリンが「UCG」という配列と「UA」という配列が向き合って形成されるシンプルな RNA の二次構造領域に選択的に結合することを見出しました。本研究成果により、ベルベリンが RNA に直接相互作用することで生物活性を発現している可能性を示すことが出来ました。また、複合体としての構造が明らかとなったことから、より強く RNA に結合できる化合物を人工的に設計することもでき、疾患に関連する RNA 構造を標的とした創薬研究の発展につながることが期待されます。**本研究成果は、核酸科学分野のトップジャーナルである英国核酸科学誌 Nucleic Acids Research（インパクトファクター19.16）に掲載され（*Nucleic Acids Res.*, 49, 8449–8461 (2021)）、掲載号の表紙としても採択されました（図 F-2）。**

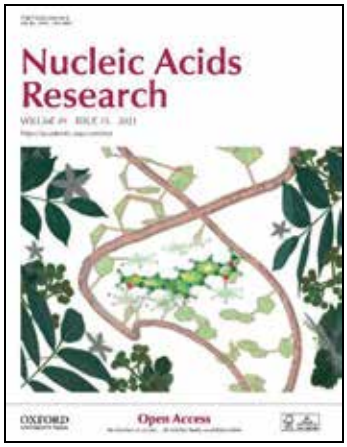


図 F-2　研究成果が掲載された Nucleic Acids Research の表紙

● 疾患の原因となる核酸構造を標的とした創薬研究

がん細胞では寿命を司る染色体 DNA 末端のテロメア領域が異常に伸長されることで、不死化状態にあります。そのため、テロメアの伸長を抑える化合物の開発が、がんの薬剤開発として注目されています。

FIBER では、がん治療のターゲットであるヒトテロメア由来のグアニン四重鎖構造に着目し、その四重鎖構造を安定化する化合物（リガンド分子）の合理的な開発に取り組みました。そのために、FIBER 独自の研究手法として、様々なリガンド分子存在下でのグアニン四重鎖の構造安定性を解析し、DNA ポリメラーゼによる複製反応の進行度を相関させて解析することで、各リガンド分子の機能（DNA 複製反応を抑制する機能）を定量的に分類しました。その結果として、グアニン四重鎖構造の形態（トポロジー）の違いを認識しつつ強く結合する分子を合理的に設計・開発することができました。新たに開発した化合物は、初期に開発されたテロメア結合性の化合物と比較して、100 倍以上の効率でテロメア DNA の複製を阻害できることが示されました。以上の成果は、グアニン四重鎖構造が関わる疾患の治療薬を開発するための新しい指針を与えます。そのため、核酸構造を標的とした創薬研究において重要な報告であり、**各研究分野におけるトップレベルの学術雑誌として Nature Index にも選定されている、米国化学会誌 Journal of the American Chemical Society に掲載され（*J. Am. Chem. Soc.*, 143, 16458-16469 (2021)）、掲載号の Supplementary Cover の論文としても採択されました（図 F-3）。**

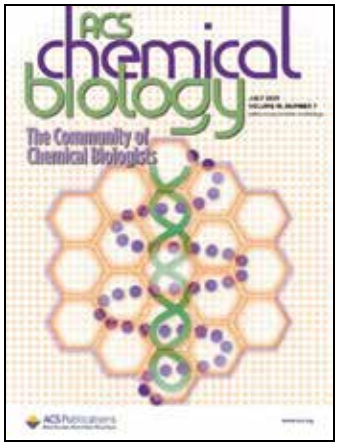
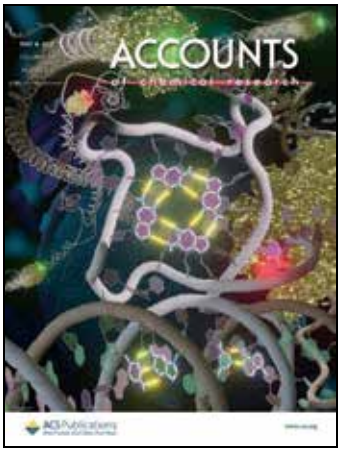


図 F-3　研究成果が掲載された Journal of the American Chemical Society および ACS Chemical Biology の表紙

2021 年度は、マイクロ RNA（miRNA）と呼ばれる機能性 RNA を標的とした創薬研究でも成果を得ました。miRNA は、生物としての機能（個体の発生など）に重要な役割を果たしているだけでなく、がんなどの疾患の発症と進行にも関連していることが示されています。そのため、miRNA は新たな創薬標的として注目を集めています。miRNA の構造的な特徴として、miRNA 前駆体（pre-miRNA）のほとんどがステムループ型の二次構造を形成するということが挙げられ、個々の pre-miRNA のステム領域には特徴的な塩基対の並びが存在していま

す。そのため、この塩基対の並びを特異的に認識して強く結合できる分子を構築できれば、特定の pre-miRNA から miRNA への成熟とその機能を阻害することができると想定されます。FIBER では、米国ニューヨーク州立大学ビングハムトン校のグループとの国際共同研究を行い、miRNA のステム領域を特異的に認識して三重鎖構造の形成を誘起する人工核酸（Peptide Nucleic Acid (PNA)）を開発しました。具体的には、がん細胞の増殖や炎症性の皮膚疾患などとの関連性が報告されている miRNA（miR-197）を標的に PNA の設計、合成を行いました。そして、細胞内で pre-miR-197 から miR-197 への成熟を抑制できることを実証しました。上述のように、ほとんどの pre-miRNA は特徴的なステム領域を有しています。そのため、miRNA ごとに PNA を設計することで、任意の miRNA の成熟と機能を特異的に阻害する汎用性の高い創薬技術への研究展開が期待されます。**この研究成果は、その汎用性の高さが注目され、米国化学会が発刊する ACS Chemical Biology 誌に掲載され（*ACS Chem. Biol.*, 16, 1147-1151 (2021)）、掲載号の Supplementary Cover に採択されました（図 F-3）。**

以上のように、2021 年度は第 II 期研究プロジェクトの後半での研究の中心に据える、先制核酸医工学に活用できる検出・診断（Detection/Diagnosis）および創薬（Drug Design）のうち、創薬研究で目覚ましい研究成果を得ました。加えて **2021 年度は、これまでの第 II 期研究プロジェクトで得られた基礎学術的な知見を含め、核酸構造の安定性と機能の予測に関する研究と今後の展望をまとめた総説を、米国化学会が発刊する Accounts of Chemical Research 誌に発表しました（*Acc. Chem. Res.*, 54, 2110–2120 (2021)）。本総説は、その内容が高く評価され、掲載号の表紙として取り上げられました（図 F-4）。さらに、日本化学会が刊行する Bulletin of Chemical Society of Japan 誌から FIBER 所長の杉本教授（第 72 回「日本化学会賞」受賞）に Award Account として執筆依頼があり、FIBER 教員との共著で総説を発表し（*Bull. Chem. Soc. Jpn.*, 94, 1970-1998, (2021)）、掲載号の裏表紙に採択されました（図 F-4）。**



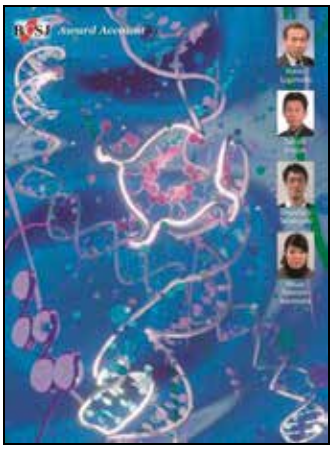


図 F-4　総説が掲載された Accounts of Chemical Research の表紙および Bulletin of Chemical Society of Japan の裏表紙

<多国籍研究活動>

FIBER では、欧米やアジアの複数の大学、研究所との間で、国際的かつ分野融合的な「多国籍研究活動」を展開し、学術交易の拠点となることで「KONAN FIBER」の国際的プレゼンスを向上させることを目指しています。この「多国籍研究活動」においては、単に役割を分担して研究を進めるだけではなく、研究者間や研究組織間での本質的な研究概念や研究哲学等の交流（学術交易）を進めています。2021 年度も新型コロナウイルス感染症の影響により研究者同士が互いを訪問できない状況の中、FIBER ではオンラインを活用した「多国籍研究活動」を進めました。特に、「FIBER 核酸化学ユニバース」として新たにシリーズ化したオンライン講演会を開催しました。2021 年度は、国際版の FIBER 核酸化学ユニバース（Webinar Universe in Nucleic Acid Chemistry）として、合計 6 回（全体として 9 回）の講演会を開催しました。学外からの招待講演者に加え、FIBER の教員も講演を行い、最新の研究成果を国際的に発信しました。また、国外の研究者に講演を依頼し、FIBER に所属する研究者を含め、国内から参加する研究者との国際交流の場として講演会を開催することも行いました。

<社会貢献活動、広報活動など>

FIBER では、日本核酸化学会との共催で、「FIBER 日本核酸化学会若手フォーラム」を開催しました。本フォーラムでは、これまでに日本核酸化学会を牽引されてきた先生や、核酸化学をはじめとした生体機能関連化学を専門とする若手研究者をお招きし、最新の研究成果についてご講演いただきました（図 F-5）。また、日本核酸化学会に所属する若手教員、博士研究員や学生から講演を募集し、優れた一般講演に対して、FIBER 核酸化学若手講演賞および FIBER 核酸化学学生優秀ポスター賞を授与しました。FIBER の博士研究員も講演賞を受賞しました（図 F-5）。2 日間にわたり開催されたフォーラムでは、両日とも 80 名を超える

図 F-5　日本核酸化学会との共催で開催した、「FIBER 日本核酸化学会若手フォーラム」の様子

参加者があり、大学、研究機関、企業に所属する研究者など、幅広い分野の方々に参加していただくことができました。ネットワークキャンパス東京で例年開催している一般向けの出張講義 Nano Bio College についても、2021 年度はオンラインで開催しました。「ウイルス感染症に立ち向かう核酸化学」と題し、学外から招待した特別講師と共に、FIBER の教員がウイルス感染症の克服を目指した最先端の研究トピックスについてFIBERで得られている研究成果も交えつつ紹介しました。

研究成果の社会還元に関して、2021 年度は、8 月に開催された国際フロンティア産業メッセ 2021（神戸市）に研究成果を出展しました。新型コロナウイルス対策のために出展ブースを無人とし、出展者プレゼンテーションのみを行いました。12 月には、第 3 回ファーマラボ EXPO（千葉市）での研究成果の出展も行いました。神戸医療産業都市と連携した共同出展により、疾患の発症に関わる核酸の高次構造に関する基礎研究の成果と共に、核酸高次構造に結合する化合物群の開発、既存医薬品が結合し得る核酸配列のスクリーニング技術などに関して研究成果を紹介しました（図 F-6）。さらに 2021 年度は、国内最大の化学ポータルサイトのケムステーションが主催する「第 23 回ケムステバーチャルシンポジウム」に FIBER 教員が出演し、「進化を続ける核酸化学」と題した YouTube でのライブ配信を行いました。

広報活動では、広報誌 NanoBioNow を継続的に発刊し、FIBER の研究内容、研究成果やFIBERでの講演会の様子などを分かりやすく伝えるように取り組みました。また、NanoBioNow 同様、年度末報告書を発行し、関係する大学、研究所、企業、公共団体などへ配布しました。

詳細は研究所 HP をご覧ください。（http://www.konan-fiber.jp/index.php）

図 F-6　産学連携を目的とした展示会（国際フロンティア産業メッセ 2021、第 3 回ファーマラボ EXPO）の様子

人間科学研究所

当研究所は、過去 10 年間にわたる研究事業（文部科学省学術フロンティア推進事業採択に 2 期連続採用・平成 10～19 年度）の成果を引き継ぎ、現代人の心の危機の見極めと、その実践的解決のためのネットワーク形成を行うことを目的としてきました。当研究所の特色は、実践の学である臨床心理学も含む心理学と、人文社会科学の各分野にまたがる専門家を抱えているところであり、またすでに長期にわたって共同研究を進めてきた経験を持つところにあります。学内の研究者が、人間科学（Human Sciences）という枠組みの中で、各自の研究主題に応じて集い、連携する場として機能しています。今後の研究活動や調査結果の分析においても、複数の専門領域から多角的に検討し、総合的にとらえ、優れた成果を得ることを目指していきます。

人間科学研究所では、2016 年度より 2019 年度まで、「現代人の心の危機に関する共同研究～Phase 5 ：過去と向き合い、未来を創る」と名付けた研究事業を行って来ました。2020 年度からは、Phase 6「過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」を 4 年間の事業として開始しています。Phase 6 の研究主題は次の 3 つに整理されています。

1）「社会による子育て ≈ソーシャルペダゴジー」の概念のもとに進める、「子ども・子育て」に関する研究・実践

2）トラウマ（戦争、災害、虐待、暴力等）、人生史、記憶を対象にした、思想、心理学、アート、歴史、社会学などによる学際的研究

3）人間科学の哲学的・思想的基盤を検討する研究。特に、甲南大学の財産である九鬼周造文庫を生かした、図書館とも連携して行う九鬼思想の研究

1）に関連して、2015 年度より甲南学園創立 100 周年記念事業である、KONAN プレミア・プロジェクト「『ひょうご子ども・子育て未来プラン』連携、研究教育プロジェクト」（H-3: Research & Education）を展開しており、2021 年度に始まった、第 2 次プレミア・プロジェクトの初年度の活動を行いました。さらにこの主題の展開を図るため、研究チームを構成して 2020 年度から開始された、甲南大学総合研究所プロジェクト「「子ども・子育て」の現状と未来に関する領域横断的研究―次世代育成を含むライフプラン形成を目指して」の 2 年目の活動を行いました。また、子ども・子育て関連研究として、科研事業「子ども - 環境相互作用に注目した社会的養護の基礎的・実践的研究」を研究所事業に組み込んでいます。以上のように、複数の予算基盤を合わせながら、3 主題の研究に取り組んでいます。

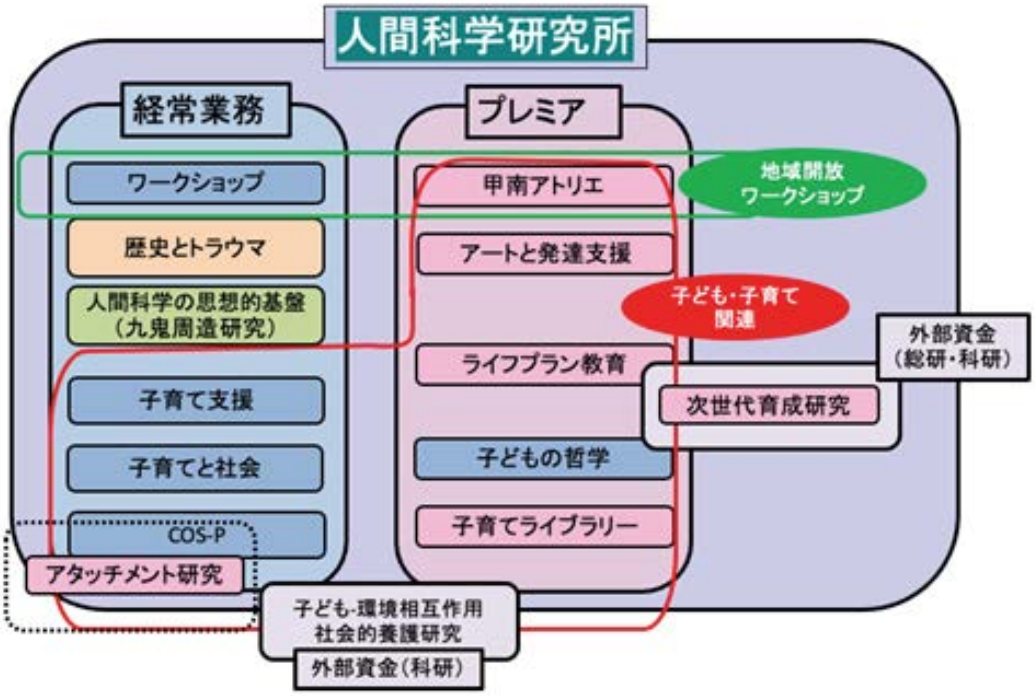


Figure 1

研究所が行っている研究事業の全体を図示すると Figure 1 のようになります。以下の報告では、予算区分に関わらず、それぞれの主題別に 2021 年度に行った活動を報告します。

2021 年度活動報告

1）「社会による子育て ≈ソーシャルペダゴジー」の概念のもとに進める、「子ども・子育て」に関する研究・実践

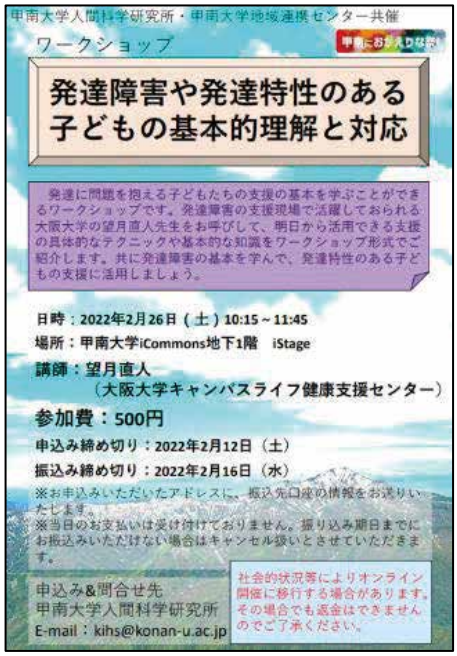
① 実践

人間科学研究所では、例年 18 号館の機能を生かしながら、地域の子ども、あるいは親子を対象とする実践活動を継続的に行っています。2021 年度は、新型コロナウィルス感染症の影響により対面での実施が困難と

なり、内容を工夫しつつオンライン開催に切り替えて実践を行いました。

心理学分野では、「親子がホッとつながるグループ」、「お父さん・お母さんのための子育て応援講座」をオンラインで開催しました。

発達障害の支援活動を行なっている実践家を対象に、ワークショップ「発達障害や発達特性のある子どもの基本的理解と対応」を開催しました。



芸術学分野では、講師にオンライン対応の内容を用意いただき、「甲南アトリエ・オンライン」（1 セット 2 回を 2 セット）を開催しました。

「子育てライブラリー」（うりぼうくらぶ）では、人形劇の映像公開を実施しました。

「子どもの哲学」は、オンライン実施が困難であるため、昨年度同様中止しました。

その他、オンラインで可能な研究・実践活動を新たに企画し、次のセミナー、公開講演会などを実施しました。

「オンラインセミナー『子育ての常識から自由になるレッスン』を読んで育てることについて考える」（2 回）

「KIHS 次世代育成研究会特別講演会「人口心理学から見た子育てと子育ち」

「公開研究会　学生の主体性を育む大学教育実践の試み」

②　研究

a）働き育てることについての実態調査

「子ども・若者の将来イメージに関わる産業・職業界の構造変化」

行政データを用いて以下のような検証を行いました。「公共事業における料金設定と適正な価格体系」（総務省「地方公営企業年鑑」）、「退職給付制度と雇用制度における企業の選択行動」（厚生労働省「就労総合統計調査」）、「高齢者雇用確保措置が家計の消費に与える影響」（総務省「全国消費実態調査」）。また、令和 3（2021）年

の高齢者法雇用安定法改正が高齢者の就業選択に与える影響を明らかにするためのアンケート調査、新型コロナウィルス感染症の影響下における認定こども園の施設経営ならびに利用者の実態を明らかにするためのヒアリング（認定こども園経営者、大阪府、兵庫県）を実施しました。

「復職者の人事評価」

現在の会社に入社後に出産した女性、ないしは現在の会社に入社後配偶者が出産した男性を対象に Web によるアンケート調査「育児勤務者に関する調査」を実施しました。男性の場合、子どもの誕生時に年齢が高く、人事評価が高く、成長につながる仕事を行っており、会社での仕事上のキャリアを確立できているかその見通しがある者が、育休（多くは短期間）を取得しており、復職後もその影響をあまり受けずに仕事を続けていることが分かりました。人事評価への影響という点では、育休取得の影響はなく、育休復職後の仕事配分が影響しました。

「保育の利用と母親の就業（保育無償化の影響含）」「家庭内の性別分業（育児分担）」

様々なライフコースを歩んでいる子育て中の母親にインタビューを実施しました。

「将来に対する児童の夢や計画性」

新型コロナウィルス感染症の影響下で可能なインタビュー調査を小学校の協力校と計画したものの、調査予定の時期に感染者数が急増したため断念しました。

b）異世代交流体験の実践的研究

親子関係支援プログラムの実践を初めてオンラインで行い、3 名の母親が参加しました。大学生による子育て中の親へのインタビューもオンラインで実施し、1 名の大学生が 4 名の母親にインタビューを行い、その逐語記録と概要報告書を作成しました。その際に、親子の自由遊び場面もオンラインで観察し、子どもからのシグナルに母親が敏感に応えていると思えた場面を学生が母親にフィードバックしました。

c）地域性を踏まえた〈子ども・子育て〉施策の検討

兵庫県内の子育て専門家へのインタビューを年度内に行うことができなかったため、今後インタビュー調査をさらに重ね、2022 年度以降に兵庫県に報告、施策提案を行うための計画を作成しました。「ライフプラン教育」は、次世代育成の担い手である大学生に対して、就職、結婚、子育て等も含め、総合的に自らのライフプランを考える機会を提供するため、研究所の研究員によって 2019 年度から開講された科目です。2021 年度は一部担当者を変更して 3 回目の開講となりました。一部オンライン授業となりましたが、57 名の学生が受講しました（2020 年度 53 名、2019 年度 56 名）。オンラインで開催した「大学生の子育て中の親へのインタビュー」には大学生 1 名が参加しました。

③ 教育

ライフプラン教育を実施している他大学と交流し、経験や知見を交換するため、文部科学省の「次世代のライフプランニング教育推進事業」に採択されている信州大学のプログラム担当スタッフ（全学教育機構教職支援センター）、および 2021 年度より新たに子育て関連共通科目が開設された甲南女子大学で科目の企画、担当を行った甲南女子大学人間科学部総合子ども学科の教員スタッフと、３大学によるオンライン研究会を開催しました。信州大学は 2020 年度からの連続参加になります。信州大学のプログラムは、キャリア教育よりは全人教育の理念に則った人生の展望を目指す点で、本学の「ライフプラン教育」と共通するものであり、甲南女子大学の科目は、より子育てに絞った内容です。他方、甲南女子大学と本学は学内の各研究者の主題によるリレー形式だが、信州大学は統一した理念のもとで全ての回の内容を構成しており、一貫性という意味で参考になるものでした。研究会の結果、今後も３大学で情報交換を続けることになりました。また、学生を対象として、「ライフプラン教育」と「大学生の子育て中の親へのインタビュー」のそれぞれの効果検証と、両者の効果比較を予定しています。2022 年度以降の結果と合わせて検討する予定ですが、2020 年度は新型コロナウィルス感染症による社会的な不安定さなどが大きな要因として加わっており、他の年度と合わせての分析、あるいは他の年度との比較が困難と予測されます。そのため、新たな効果検証の指標について検討を行っています。

２）トラウマ（戦争、災害、虐待、暴力等）、人生史、記憶を対象にした、思想、心理学、アート、歴史、社会学などによる学際的研究

本研究課題では、「戦争」「災害」「虐待」を中心に扱ってきました。戦争の主題に関しては、日本のアニメ作品に注目し、戦争経験がアニメにもたらした作用を検討する研究会を 2020 年度に引き続き開催しました（オンライン研究会「アニメとトラウマ」）。虐待に関しては、社会的養護のもとで暮らす子どもの、トラウマ治療、成長促進対策をより根拠に基づいたものにするための評価ツールの導入、普及の試みを続けています。子ども成育環境評価技法、HOME、および、虐待を受けた子どものアタッチメントを評価する技法、MCAST の導入および普及の試みを、それぞれ神戸市の児童養護施設、東京の子ども虐待防止センターとの連携で行っています。それらと並行して、視野を、「差別」「スティグマ」「社会的排斥」とそれらの解消による「包摂」の展望へと拡大するための検討を行ってきました。公開研究会、「アートによる地域再生再考、障害者アート、地域アートの未来」は、アート実践を通して地域社会における繋がりを考えるものです。「社会的排斥」の主題では、遊郭と地域社会の関係性に焦点を当てたオンライ

研究会「遊郭と娼妓：トラウマの視点から」

ン研究会、「遊郭と娼妓：トラウマの視点から」を開催しました。かつての遊郭が観光資源として地域の活性化につながる例があるとともに、そこに生きた女性の声が聞かれないまま忘却される恐れがあるという問題性が検討されました。

3）人間科学の哲学的・思想的基盤を検討する研究―特に、甲南大学の財産である九鬼周造文庫を生かした、図書館とも連携して行う九鬼思想の研究

「第 3 回九鬼周造記念講演会「 J 哲学の最前線」」をオンライン開催し、多数の参加者を得ました。子どもの哲学については、子どもが参加する対面式の開催ができなかったため、子どもの哲学研究会「コロナ禍下での p4c 実践の実際と課題」を実施しました。

おわりに

以上の活動は、いずれも「過去と未来をつなぐ～危機の乗り越えに向けて」のなかに位置付けられ、危機を見据えながら、過去を未来につなげていくことを目指しました。2021 年度は、前年度と同じく新型コロナウィルス感染症の影響で、対面での研究・実践活動に制限がかかりましたが、オンラインでの活動形態を工夫しながら、計画されたもののすべてを実施することが出来ました。その過程で、中期ビジョンのなかで今後展開する新たな研究主題や連携の可能性が見えてきました。Phase 6 の後半に入る 2022 年度は、外部資金によるいくつかの研究プロジェクトの最終年度にも当たることから、予定しているすべての活動を実行しながら、2023 年度以降のための研究員の組織の再検討や、活動の新たな展開の準備を行っていきます。

詳細は研究所 HP をご覧ください。
（https://www.konan-u.ac.jp/kihs/）

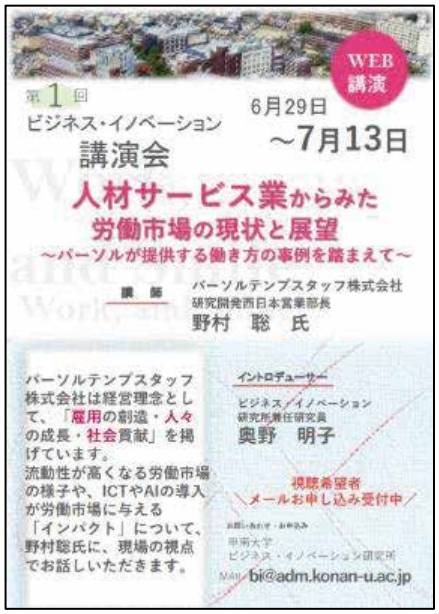
ビジネス・イノベーション研究所

2021年度は、KONANプレミア・プロジェクトでの研究推進、その他、研究会、講演会、公開講座などを展開しました。

（1）BI講演会、公開講座等の開催

2021年度第１回BI講演会

【イントロデューサー】奥野明子
（BI研究所兼任研究員・経営学部教授）
【日　時】
2021年6月29日（火）～7月13日（火）
【場　所】
YouTubeを使用したオンデマンド配信
【テーマ】
「人材サービス業からみた労働市場の現状と展望～パーソルが提供する働き方の事例を踏まえて～」
【講　師】野村聡氏
（パーソルテンプスタッフ株式会社
研究開発西日本営業部長）



2021年度第２回BI講演会

【イントロデューサー】西村順二
（BI研究所所長・経営学部教授）
【日　時】
2022年1月18日（火）14:40～16:10
【場　所】
YouTubeを使用したオンデマンド配信
【テーマ】
「攻めのインターナルブランディングを考える」
【講　師】陶山計介氏
（一般社団法人ブランド戦略経営研究所理事長　関西大学教授）
【報告論題１】
「DX&ポストコロナ時代とブランド５.０」
【講　師】伊藤佳代氏
（社会保険労務士法人ソーケム代表社員
特定社会保険労務士）
【報告論題２】
「インターナルブランディングの理論と展開」

甲南大学経営学会/BI研究所/経営学部共催
2021年度公開講座
【日　時】
2021年12月11日（土）～25日（土）
【場　所】
YouTubeを使用したオンデマンド配信
「経営学のススメ～日常生活にも深く関わる経営学～」
【第１部】「SDGｓが会計を変える－持続可能な企業成長と「統合報告」－」
【講　師】池田公司
（甲南大学 経営学部 教授）
【第２部】「日本人の株式投資の実態－賢い資産運用とは－」
【講　師】大塚晴之
（甲南大学 経営学部 教授）

（２）KONANプレミア・プロジェクト

2015年度から「KONANプレミア・プロジェクト－神戸連携：神戸スイーツの研究活性化拠点プロジェクト－」を開始しました。甲南大学が立地する神戸市東灘区は、神戸スイーツと呼ばれるスイーツ店が集積し、重要な地域資源とされており、地域連携・産学連携として地域の活性化の一助となるよう、スイーツ研究を進めています。神戸スイーツプロジェクト委員長のBI研究所長・西村順二ゼミは、研究題材の一つとして「スイーツ」のマーケティングに取り組んでいます。これまで数々のスイーツ店や企業とのコラボレーションを行ってきました。以下に、各種スイーツ店とコラボしたオリジナルスイーツを紹介します。

甲南学園は、創立100周年記念事業のひとつとして、2017年9月に新たな複合施設「KONAN INFINITY COMMONS（iCommons）」を竣工しました。iCommons竣工を記念して、モロゾフ株式会社の御協力のもと、100周年のロゴマークとINFINITYマークを入れた甲南大学のオリジナルパッケージを製作しました。コラボレートしたのはモロゾフのロングセラーである「ファヤージュ」と、ファヤージュをチョコレートでコーティングした「ファヤージュ ショコラ」の２種類。2021年度には、教育懇談会等に参加いただいた皆様に配付しました。

（３）ニューズレターの発行

最近の話題を巻頭論文に入れて、BI 研究所の活動を随時掲載するニューズレターの発行を行っています。2021年度はNo.48～49を発行しました。
【巻頭論文タイトル一覧】
・No.48　尾形真実哉
「社会全体がBeforeコロナの働き方・人材育成のあり方をアンラーニングする」
・No.49　岡田元浩
「労働交換の学説史」

詳細は研究所HPをご覧ください。
（https://www.konan-u.ac.jp/bi/index.html）

非電離放射線生体環境総合研究所（RINNIR）

当研究所は、非電離放射線（電磁波、とくにマイクロ波）がもたらす生体環境への影響、効果について、科学的基礎研究を行い、その知見から、応用開発・発明、社会制度の整備や政策提言など、様々なかたちで非電離放射線の安全・有効利用を推進する研究を行っていくことを目的としています。また、その活動や成果を学部・大学院研究科の学術教育・キャリア教育にも反映させていくことを目標に協力研究員のご助力も賜りながら活動を行っています。

2021 年度は 2020 年度から引き続き、所長臼井健二准教授のほかに協力研究員 5 氏の体制で、研究・教育に関する様々な活動を行いました。研究面では、2017 年度からの非電離放射線がもたらす生体環境への影響について研究を進めてきました。効果については、測定するための装置開発の完了後、当研究所でこれまで研究が進められてきた、ペプチドによる炭酸カルシウムの沈殿現象（ミネラリゼーション）を生命化学現象の題材例として引き続き研究を進めました。また、細胞への影響を解析するべく、テーマの立ち上げ準備を行い、一定の成果が得られたので、第 15 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウムでのポスター発表を行いました。その結果、ベストポスター賞を受賞（写真１）したほか、関連研究での論文成果も挙げることができました。細胞への影響研究においては、温度上昇の影響が少ない出力での電磁波照射によって、細胞膜を透過しにくいペプチドも透過しやすくなる現象がみられています。今後、本研究の知見は、電磁波の人体への影響研究に役立つほか、薬を細胞へと効率的に送達するような医薬分野への応用研究にも役立つことが期待できます。

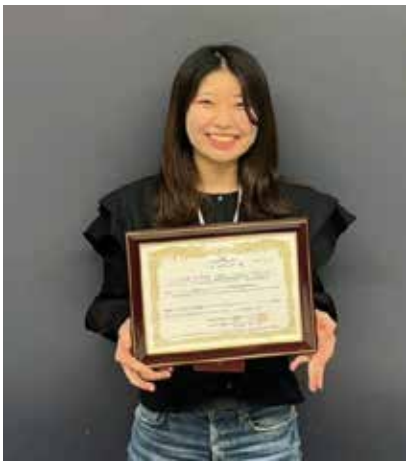


写真１　第15回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウムにてベストポスター賞を受賞

さらに、より詳細に各種研究における画像データを解析できるよう、沈殿現象における電子顕微鏡画像を題材に情報科学的解析手法も確立しました。協力研究員梅谷智弘准教授を中心に、画像のパターンや周期性に着目し、画像中のパターンの変化から反応条件での生成物の結果を分類する方法を前年度までで開発しています。2021 年度では顕微鏡画像のパターンの変化をもとにした実験結果の解釈や実際の反応生成物の画像を用いたノイズ除去手法の検討を行い、機械学習を利用した分類に関する知見を得ました。本研究は本研究所の一成果に留ま

らず、科学全般の客観的なデータ解析に基づく研究推進の一助となると考えられ、今後さらに社会に求められる概念として、広く成果を発表していきます。

教育的活動、啓発活動では、2021 年 12 月 14 日に 2 年ぶりに第 4 回ナノバイオ交流会（サイエンスライブチケット）を開催しました。コロナ後の効果的な教育的啓蒙活動として、対面とオンラインのハイブリッド形式とし、活動報告ということで、臼井准教授（対面）、梅谷准教授（オンライン）、株式会社ディーエスピーリサーチ中西伸浩社長（オンライン）らの発表を行いました（写真２）。残念ながら学生らによるポスター発表による交流は行いませんでしたが、第 5 回ナノバイオ交流会からはこのポスター発表もコロナ後の効果的な教育的啓発活動を実践するために、実施形式などを工夫します。

さらにキャリア教育への貢献として、フロンティアサイエンス学部主催のキャリアセミナーへの協賛も行い、2022 年 3 月 3 日に株式会社ダイセルの大倉裕道博士をお招きして、就職セミナーを行いました。昨年に続きオンラインセミナーにより、春休み中ではありましたが対面開催よりも参加人数は多くなったと考えられます。当研究所の扱う研究も博士課程の学生や博士研究員による高度な研究を今後、展開していく必要があります。また博士研究員としてのアカデミック研究も、企業人としての企業研究も知る、大倉博士の話は研究所共催のキャリア教育として、ふさわしい内容でした。

このように、コロナ禍の影響を受けながらも、実施形態、活動様式を変化させることで、研究面（論文著作 8 件、招待講演 3 件、学会発表 19 件など）においても教育面においてもコロナ後を見据えた充実した年となりました。2022 年度は引き続き株式会社ディーエスピーリサーチのご理解とご支援を賜りますが、喜ばしいことに、さらなるご支援を中西社長より賜り、寄付講座が設置されます。研究活動の推進はもちろんのこと、協力研究員の増員、外部資金の獲得などを目指し、さらに文理融合、キャリア教育などにも力を入れて、研究所のアクティビティを高めていきます。今後とも皆さまのご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

写真２　第 4 回ナノバイオ交流会の様子

詳細は研究所HPをご覧ください。
(https://www.konan-u.ac.jp/hp/RINNIR/index.html)

ヒトの健康科学研究所(RIH²S)

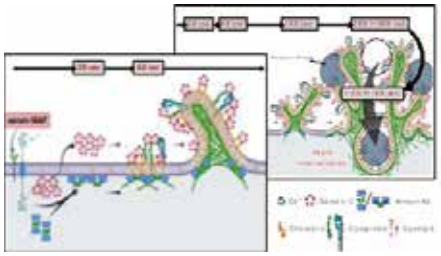
研究所の活動

ヒトの健康科学研究所では、以下の具体的目標を掲げて研究活動を行っています。

(ⅰ)マクロファージの迅速な活性化による免疫系の安定化を図ることでヒトの健康維持を目指します。

(ⅱ)皮膚細胞の状態を正確に評価し、細胞の応答を適正化することで健康でQOLの高い生活に貢献します。

(ⅲ)ホヤ卵内の細胞骨格による母性因子の輸送メカニズムを明らかにすることでヒトの健康に資する細胞応答の基本メカニズムを解明します。



マクロファージ活性化因子のひとつであるserum-MAF(serum-derived macrophage activating factor)が、添加後10分以内という迅速な活性化を示すメカニズムの全体像を示す。Serum-MAFがその受容体に結合すると、細胞外のCa^{2+}イオンが細胞内に流入し、そのシグナルがAnnexin A2の細胞膜移行からアクチン細胞骨格の再編成を引き起こすとともに、Galectin-3の細胞外転移と脂質ラフト形成を引き起こし、多数の受容体の集合を促します。それらが連携することで細胞膜が複雑に折り重なるラッフリング(Frill-like構造と命名)を生じ、効率的に異物を貪食することができるようになります。

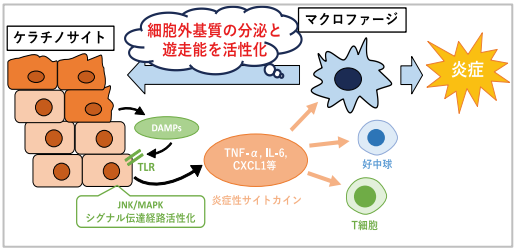
研究概要

(ⅰ)ヒトの体内に異物や病原体が侵入すると、まず自然免疫系のマクロファージや樹状細胞が異物を認識し、貪食することで異物を排除します。さらに樹状細胞はリンパ節に移動し、異物の持つ抗原情報を獲得免疫系に伝え、獲得免疫系では、抗体やキラーT 細胞が異物を攻撃します。この免疫系の応答のファーストステップとして、各組織に常在するマクロファージによる異物認識と貪食が重要です。この、異物の侵入に対して秒・分単位でマクロファージを迅速に活性化するメカニズムはあまり知られておらず、当研究所では貪食能の迅速な定量評価系を確立し、そのメカニズムの解析を行っています。

2021 年度、Ca^{2+}結合タンパク質であるAnnexin A2 や脂質ラフト形成に重要なGalectin-3 の挙動を分・秒単位で解析したところ、Annexin A2 は細胞膜の内側へ集積し、Galectin-3 は細胞膜の外側へ集積することが明らかとなりました。それらが脂質ラフトの形成やアクチン細胞骨格の再編成を引き起こすことはよく知られていることですが、これらが「マクロファージの貪食活性化」の一連のメカニズムとして関わっていることを示したのは、初めてでした(図)。今後、serum-MAFの受容体の実体や Ca2+イオンを通す細胞膜の輸送体の実体が明らかになれば、マクロファージを活性化する全く新しい経路を発見することとなり、それを利用することで免疫力を高めることができる

薬剤の開発やアレルギーなどに対する新たな治療方法の確立につなげることができると期待されています。

（ii）皮膚が損傷した際の生体防御反応として、表皮細胞から免疫系細胞への炎症性シグナルの伝達などはよく研究されてきましたが、創傷治癒過程における免疫細胞と表皮細胞との関連はあまり調べられていません。そこで RIH²S における 2021 年度の研究では、ヒト表皮細胞に対するマクロファージからの分泌因子の影響を DNA チップ解析により調べました。すると、マクロファージの培養上清は表皮を構成するケラチノサイトに対して大きな変化をもたらすことが明らかとなりました。そのひとつが Laminin-5 の発現亢進です。Laminin-5 は表皮と真皮の間にある基底膜の構成成分であり、ケラチノサイトの接着と細胞分化のコントロールに関わる重要なタンパク質です。さらに、Laminin-5 を認識して結合する細胞側の受容体が Integrin $\alpha 3\beta 1$ および Integrin $\alpha 6\beta 4$ であり、ケラチノサイトでは膜状仮足に局在し、基底膜上の細胞移動を促進していることが知られています。今回のチップ解析の結果では、マクロファージ培養上清の添加によってこれら Integrin の発現が両方ともケラチノサイトで亢進していました。そこで、細胞の運動の様子をタイムラプス観察にて解析したところ、やはりマクロファージ培養上清の添加でケラチノサイトの運動性が高まり、盛んに移動している様子が観察されました。これらの結果から、マクロファージからの分泌因子は、ケラチノサイトに働きかけて、傷口を素早く覆い、治癒促進の方向に加速させている可能性が示唆されました（図）。今後、この反応に関わるマクロファージの放出する因子の解析やケラチノサイトの変化が創傷治癒にどのように作用するかを明らかにすることで、創傷治癒の促進や褥瘡に有効な新たな治療法の開発など、ヒトの健康維持に役立つ理解が進展するものと期待しています。

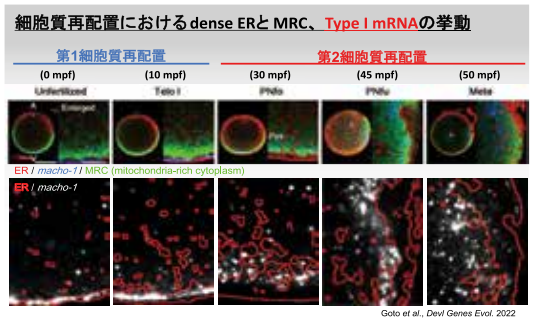


創傷治癒の初期段階でマクロファージは、表皮のケラチノサイトに対して基底膜成分の１つとして重要なLaminin-5の分泌を活性化させ、さらに遊走能を亢進して創傷部位の被覆を促進させていると考えられます。

（iii）ホヤ卵内には、幼生の身体を作り上げるための情報が詰め込まれています。その一部に母性 mRNA と小胞体（ER)があります。母性 mRNA や ER は、1 細胞期の後ろ側表層にある微小管のレール様構造（CAMP; cortical array of microtubules in posterior-vegetal region と命名）により移動して局在化し、ER では母性 mRNA の保護とその翻訳の制御が行われています。そこで 2021 年度は、ER やミトコンドリア（MRC: mitochondria-rich cytoplasm）と母性 mRNA との多重染色を行い、それらの局在の詳細な対応付けを行いました。すると、母性 mRNA の卵内での挙動が、これまで考えられていた以上に複雑なことが明らかになってきました。例えば、Type I と呼ばれる一群の母性 mRNA のひとつ、*macho-1* mRNA

は、未受精卵で卵表層にあるときはERと共局在しており、受精後 ER と一緒に卵表層を植物極へと移動して集積します。

ところが受精後30分(mpf: minute post fertilization)になると ER から離れ、卵表層からも離れるのですが、後極への移動に関しては MRC も ER も macho-1 mRNA も微小管依存的に協調して移動します（図)。



第１細胞質再配置までは先行研究と同様に *macho-1* mRNAは dense ERと共局在を示しますが、第２細胞質再配置が開始する PNfo以降において、*macho-1* mRNAはdense ERから乖離して MRC内で局在します。

このことは、微小管やアクチンなどの細胞骨格に依存した卵内での物質輸送メカニズムに関して、ER などの細胞小器官や mRNA などの個々の分子が、それぞれ独自のメカニズムを介して連関していることを示しています。これら卵内での物質の片寄りが、体軸を決定し、様々な組織分化にも影響していることから、これらの局在メカニズムの多様性が、生物の多様性につながっているとも言えます。今後、さらに卵内での物質輸送メカニズムを解析することで、動物の初期発生における形づくりの謎に迫れるものと期待しています。

(2)　細胞再生医療研究会の活動

細胞再生医療研究会は、急速に発展する再生医療分野の中で基礎研究および臨床応用に役立つ情報を発信することを目的として2011年から毎年学術セミナーを開催しており、2016年からはヒトの健康科学研究所が積極的に関わり、その運営を行っています。2021年度は、コロナ禍の影響で対面での研究会の開催を断念し、その代わり教育講演「最新再生医療概説」と題し、再生医療の現状とこれからの展望を正しく、かつ分かりやすく解説する動画コンテンツを作成し、賛助企業等への公開を行うとともに、再生医療の周知・発展に資する活動に活用しています。

(3)　理化学研究所との協働

2018年度からは、フロンティアサイエンス学部、フロンティアサイエンス研究科とともにヒトの健康科学研究所も理化学研究所生命機能科学研究センターとの研究協力協定を締結しており、生体および細胞内の複雑な現象を可視化するイメージング技術に関する共同研究を行っています。一方理化学研究所では、JRA（junior research

associate）という教育支援制度があり、共同研究を行っている大学院博士課程の学生を非常勤として採用し、理研での最先端の研究に携われる機会を提供してくれています。その JRA として甲南大学フロンティアサイエンス研究科の後藤俊志君（D3）および同じく川勝薫平君（D1）が共同研究を行いました。それぞれの研究内容は、後藤君はがん組織深部でのがん細胞の応答などを可視化する研究で、川勝君は大気圧プラズマの再生医療への応用を目指す研究です。その他にも、フロンティアサイエンス研究科の修士課程学生が複数名、理化学研究所の研究員として研究のサポートをさせて頂いています。

(4)　特別招聘研究員

正木　仁

東京工科大学応用生物学部応用生物学科教授
専門：皮膚科学、化粧品学、光生物学、細胞生物学
著書：保湿・美白・抗シワ・抗酸化評価・実験法マニュアル
フレグランスジャーナル社（2012）、他

谷口　泰造

株式会社ファルマクリエ神戸代表取締役社長
専門：薬理学、神経科学、病態検査学、実験病理学
役職：医療法人社団大有会井上病院内科医師

詳細は研究所 HP をご覧ください。
(https://www.konan-u.ac.jp/hp/rihhs/index.html)

統合ニューロバイオロジー研究所

研究所の活動

生物が環境の変化に対して応答し順応するしくみの理解は、地球環境の変化やヒトの医療・健康につながる重要な課題です。当研究所では、シンプルなモデル生物である酵母・シロイヌナズナ・線虫・ショウジョウバエ・ホヤ・メダカ等を用いて、生命科学に関連する多様な分野の研究者の連携による共同研究を推進し、生物が環境変化に応答し対処するしくみの解明を目指しています。2021 年度も活発な研究活動を行い、学術論文や学会発表等、多数の成果発表を行いました。こうした研究所の活動と研究成果は、新聞等メディアで紹介されています。また、2021 年度は新型コロナウイルス感染症対策のために実施できませんでしたが、例年、「ひらめき☆ときめきサイエンス」、公開講演会、「国際生物学オリンピック日本代表生徒の個別指導」等、地域の皆様や中高校生を対象とした講演会や講習を実施しています。

甲南大学は、2018 年 3 月に発刊された Nature の特別企画冊子「Nature Index 2018 Japan」（過去 5 年間の学術論文掲載状況を評価）において、国内大学第 3 位にランキングされました。このランキングで対象となった甲南大学発の学術論文には、Nature、Science をはじめとする国際的に評価の高い学術誌に掲載された統合ニューロバイオロジー研究所の論文が含まれています。以下に 2021 年度の代表的な研究成果を紹介します。

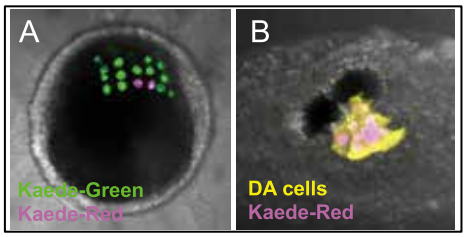
日下部岳広教授らが受精卵から脳のドーパミン神経がつくられる全過程を解明

理工学部・統合ニューロバイオロジー研究所の大沼耕平研究員と日下部岳広教授は、ヒトに最も近縁な無脊椎動物であるホヤの脳のドーパミン神経が作られる全過程を、受精卵から追跡することに成功し、ドーパミン神経が分化するしくみを明らかにしました。

ドーパミン神経は、喜びや快楽を介する報酬行動や、恋愛や恐怖、不安といった情動行動のコントロールなど様々な役割をすることが知られており、ヒトの活動にとってきわめて重要な神経の一つです。脊椎動物の脳には複数種類のドーパミン神経が存在しており、中脳、視床下部、嗅球などに分布していることが知られています。しかし、ドーパミン神経が作られるメカニズムには未だ不明な点が多く残されています。日下部教授らは以前の研究で、ホヤのドーパミン神経がヒトの視床下部のドーパミン神経に似ていること、ドーパミン神経の分化には Fer2 と Meis という 2 つの遺伝子が必須の役割をしていることを明らかにしました。さらに、Fer2 と Meis の遺伝子カクテルの導入により、ホヤの脳にある全ての細胞をドーパミン神経へと変換することに成功しました。しかし、正常な脳のなかで特定の場所に決まった数のドーパミン神経が正確に作られるしくみは不明でした。

大沼研究員と日下部教授は、1 個の細胞である受精卵が分裂して、脳の神経ができ

るまでを一つひとつの細胞レベルで追跡する方法を開発し、ドーパミン神経ができる全過程を解明しました。さらに、Otx と MAP キナーゼという 2 つのタンパク質がそれぞれ独立に作用することによって Fer2 遺伝子のスイッチが入りドーパミン神経が作られることを明らかにしました。体のつくりが単純なホヤは、脳の基本的なしくみがヒトと共通であるため、本研究結果はドーパミン細胞の再生医療などへの貢献が期待されます。なお、本研究成果は、英国の発生生物学専門誌 Development に 2021 年 6 月 14 日付で掲載されました。



上図：蛍光タンパク質 Kaede を用いた胚細胞の追跡実験
（A）脳原基の細胞核を緑色蛍光タンパク質 Kaede で標識し、a9.37 細胞だけに紫色光レーザーを照射し、赤色に変換した。
（B）脳の蛍光写真。a9.37 細胞の娘細胞の一つ a10.73 細胞がドーパミン神経細胞（DA 細胞）になる。

【論文情報】

Kouhei Oonuma and Takehiro G. Kusakabe
The complete cell lineage and MAPK- and Otx-dependent specification of the dopaminergic cells in the *Ciona* brain
Development 148, dev198754, 2021, doi : 10.1242/dev.198754

日下部教授らの共同研究グループが動物の発生初期にみられる自律運動のしくみを解明

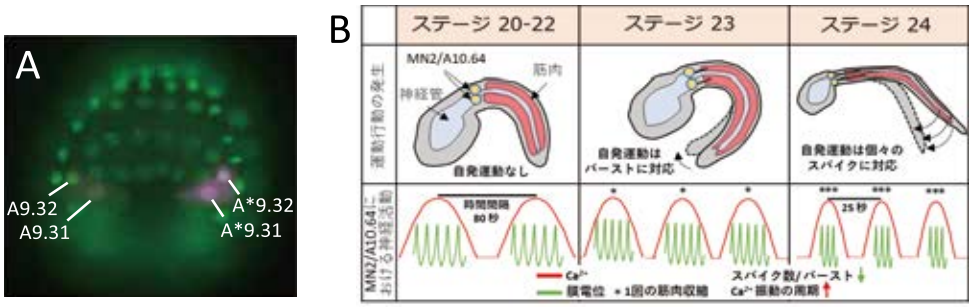
甲南大学理工学部・統合ニューロバイオロジー研究所の日下部岳広教授、大沼耕平研究員らは、慶應義塾大学および筑波大学との共同研究で、ホヤの発生初期のリズミカルな自発運動はわずか 1 対の運動神経細胞により制御されることを明らかにしました。

魚類や両生類の胚は遊泳前の発生の早い段階で自発運動がみられます。この自発運動は脊髄にある神経細胞群の周期的な活動により生じることが示唆されていますが、いつ、どのようにして獲得されるのかは謎でした。本研究では脊椎動物に最も近縁な無脊椎動物であるホヤを用いてこの謎に挑戦しました。ホヤも魚類や両生類などの脊椎動物と同じように発生初期にリズミカルな自発運動を示し、この自発運動は MN2 と名付けた 1 対の運動神経細胞の活動がうみだすことを明らかにしました。この発見は、動物が一般にもつ遊泳や歩行などの自律的でリズミカルな運動をうみだす神経回路の発生の解明につながると期待されます。

この研究成果は、2021 年 12 月 10 日（米国東部時間）に『Science Advances』にオンライン掲載されました。

【論文情報】

Akahoshi, T., Utsumi, M. K., Oonuma, K., Murakami, M., Horie, T., Kusakabe, T. G., Oka, K., and Hotta, K.
A single motor neuron determines the rhythm of early motor behavior in *Ciona*
Science Advances 7 (50), eabl6053, 2021, doi: 10.1126/sciadv.abl6053

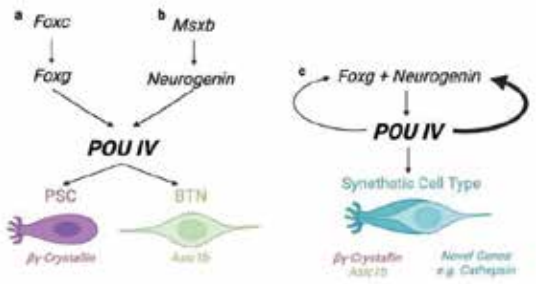


上図：（A）紫色レーザー照射により緑色から赤色に変換できる蛍光タンパク質Kaedeを用いて、神経原基の細胞の発生運命を追跡し、a10.64細胞がMN2に分化して周期的に活動することを証明した。（B）ホヤ胚における自発運動生成過程のまとめ：ステージ22まではMN2は筋肉へ司令しないが約80秒周期の神経活動はみられる。ステージ23になるとMN2膜電位（緑）の周期的なバーストごとに同側の筋収縮（*）がみられるようになる。ステージ24以降はバースト内のスパイクが筋収縮に対応するようになる。（図B：慶応義塾大学・堀田耕司准教授提供）

日下部教授らによる感覚神経の形成メカニズムに関する論文が米国科学アカデミー紀要（PNAS）に掲載

発生学研究室の日下部岳広教授と筑波大学、米国プリンストン大学との共同研究成果が、米国科学アカデミー紀要（PNAS）オンライン版に 2022 年 1 月 18 日付で掲載されました。

感覚神経細胞は、光、音、匂い、接触刺激など、外界からの環境刺激を受け取るために重要な神経細胞です。脊椎動物では、感覚神経細胞は、神経堤およびプラコードとよばれる組織から作られており、神経堤からは末梢神経系の感覚神経細胞が、プラコードからは感覚器や頭部の感覚神経細胞が作られます。ホヤにも神経堤およびプラコードに相当する組織があり、それぞれ異なる性質の感覚神経細胞を生じます。今回の研究では、ホヤの体が作られる過程で遺伝子のはたらきを調節するタンパク質（転写因子）の一つ POU IV を人工的に操作し、単一細胞レベルで遺伝子のはたらきを解析することにより、神経堤から生じる細胞とプラコードから生じる細胞の両方の性質を備えた新しいタイプの細胞が生じることを明らかにしました。この発見は、さまざまな性質の神経細胞が作られるしくみの解明や、人工的に細胞を分化させる技術の開発につながることが期待されます。



上図：プラコードから生じる細胞（PSC）、神経堤から生じる細胞（BTN）、転写因子POU IVを人工的に作用させて生じるPSCとBTNの両方の性質を備えた細胞の遺伝子ネットワーク：PSCではFoxcとFoxgという転写因子を介して、BTNではMsxbとNeurogeninという転写因子を介してPOU IVの発現が誘導される（a,b）。POU IVの発現を誘導した細胞では、フィードバックループによってFoxgとNeurogeninの発現が誘導され、PSCとBTNの両方の性質を備えた細胞が分化する（c）。（図：筑波大学・堀江健生博士提供）

【論文情報】

Chacha, P. P., Horie, R., Kusakabe, T. G., Sasakura, Y., Singh, M., Horie, T., and Levine, M.

Novel neuronal identities derived by misexpression of the POU IV sensory determinant in a protovertebrate

Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A. 119 (4), e2118817119,2022,doi:10.1073/pnas.2118817119

詳細は研究所 HP をご覧ください。

（https://www.konan-u.ac.jp/hp/neurobio/）

歴史文化研究センター

2017 年度に設置した本センターは、2021 年度も東大阪市からの受託研究を受け、５年目の活動に入りました。本年度はコロナによる影響はあったものの、ほぼコロナ前の活動に戻り、下記の活動に取り組みました。

①古文書の調査・整理

東大阪市域の古文書について目録を作成し、文書の意義や特徴をまとめた解題を執筆しました。

②調査成果の市民への公開

古文書調査で新たに得られた知見を中心に、東大阪の歴史をわかりやすく伝える歴史講座を２回行いました。このうち、９月 26 日に行われた第１回の講演会は、2021 年１月 31 日に予定されていた講演会（コロナの感染拡大により中止）の内容を一部バージョンアップして実施されたものです。２回の講演会とも、受け付け早々に定員に達するなど市民のニーズに合致した講座が準備できました。また参加者のアンケートも好評で、来年度の開催を要望する声も大きいものでした。

［第１回］講演会テーマ

「お殿様の死・・・お代官様の交代・・・そのとき、村はどうしたのか」

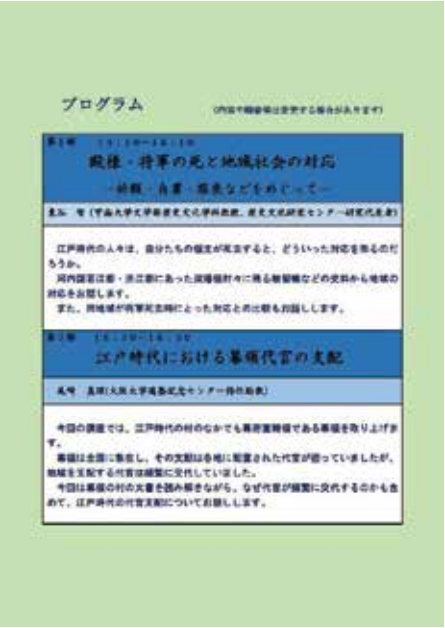
2021 年９月 26 日

東谷　智（甲南大学）

「殿様・将軍の死と地域社会の対応－祈願・自粛・服喪などをめぐって－」

尾﨑 真理（大阪大学）

「江戸時代における幕領代官の支配」



［第２回］講演会テーマ

「暗峠を再発見！－大坂の守りの場と伊勢参りの視点から－」

2022 年 3 月 5 日

藤本　仁文（京都府立大学）

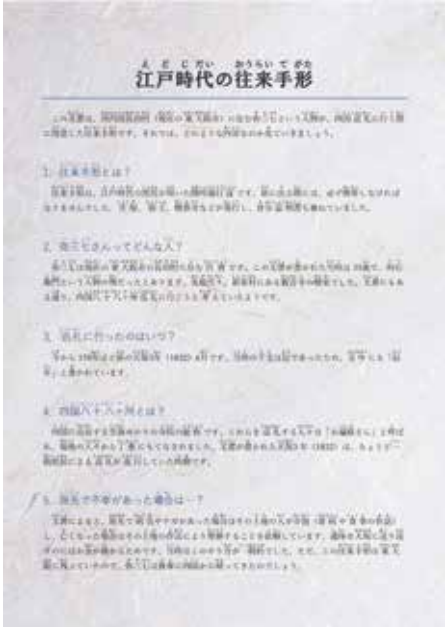
「郡山藩の軍事的役割と暗峠」

東谷　智（甲南大学）

「江戸時代の伊勢参り－ガイドブック・道中日記・伊勢講をめぐって－」

③古文書解説パネルの作成

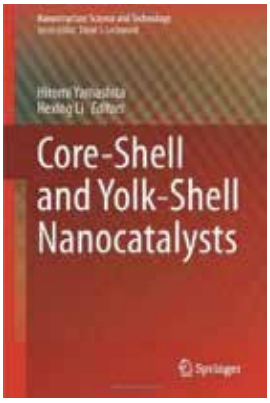
文学部歴史文化学科における学生の自主活動「歴らぼ」古文書班の協力を得て、古文書の解説パネルを作成しました（下記はその一例）。作成したパネルは、歴史講演会の会場で展示しました。本来ならば、歴らぼの学生が講演会参加者に解説をする予定でしたが、まん延防止等重点措置期間中であったことから、学生の参加は取りやめました。



エネルギー変換材料研究所

活動実績

2021 年 5 月に、Springer から「Core-Shell and Yolk-Shell Nanocatalysts」が発刊されました。この本の"Structural and Catalytic Features of Metal Nanoparticles Encapsulated in a Hollow Carbon Sphere"の章（Chapter 22）を本研究所の池田茂教授が執筆されました。



6月1日に行われた、粉体粉末冶金協会2021年春季大会（第127回公演大会）において、本研究所の活動にも参加している、修士課程2年生の東山由樹氏が『湿式法により合成した$Li_{10+x}Ge_{1+x}P_{2-x}S_{12}$固体電解質の電気化学的特性』と題する講演を行い、粉体粉末冶金協会の「優秀講演発表賞」を獲得しました。

7月30日に本研究所で行っている「全固体電池」に関する研究についてKONAN-PLANETに、記事として取り上げられました。

8月7日に芦屋市公民館において開催された「令和3年度 芦屋市 夏の公民館講座 サイエンス講座」において、町田信也教授が「次世代蓄電池として期待される全固体リチウムイオン電池」と題する、一般向けの講演を行いました。

9月28日には、自然科学研究科内および研究科間の融合を目的とした2021年度自然科学研究科の融合ランチョンセミナーが開催され、町田信也教授および修士課程2年の東山氏と橋本氏が全固体電池の現状と展望について講演しました。

10月18日に水素の製造および利活用に関する国際会議であるThe 4th Energy Future Conference (EF4)（オンライン）において招待講演を行いました。
（表題：Photoelectrochemical applications of chalcopyrite and kesterite compound thin films）
講演は、池田茂教授がこれまでおこなってきた化合物半導体薄膜光電極をもちいた水の光電気化学分解に関する特にここ数年の最新の成果を中心に行われ、好評を博しました。

11月8日には、電気化学会が主催する第49回先端科学セミナー「電気化学のための計算化学入門」において、山本雅博教授が「量子化学計算」の講師を昨年に引き続き務めました。電気化学の理論は歴史がありますが、その原理的な解析はまだ充分になされていません。最も精密な第１原理計算理論をもちいることで、新しい機能性を付与した材料の絞り込みを行うことにより、電気化学デバイスの材料開発の効率を上げることは、多方面から注目されています。

電気化学会関東支部
第49回先端科学セミナー
電気化学のための計算化学入門

開催日時：［講義のオンデマンド配信］2021年11月1日（月）～ 2021年11月14日（日）
［ラスプセッション］2021年11月8日（月）9:55～15:45頃
最新情報は開東支部HPのこのセミナー案内ページでご確認下さい。
https://www.jseprc.com/jseprc/seminar/seminar-20211108/

開催形態：オンライン
（Vimeoにての講義のオンデマンド配信とZoomにてのラスプセッションのリアルタイム配信を併用）

近年、電気化学の分野においても計算化学の重要性が高まっており、関連する論文等は日々の速度は年々増えていやすいように思えます。特に、with/after Corona と言うこの時代に、低炭素関係中心であった研究者、ドンジニヤ、学生にとっても、この言葉や問題です。計算化学の観点に対するページ〜Hは今後ますます活発なHPの公を思さクヤ。
このような背景や題材として、電気化学会関東支部では昨年度自分に「電気化学のための計算化学入門」内全員しゃ、リルタイム（ラスプ）配信形式で開催いたしました。今年度は、昨年度と同様の計算化学初心者向けのセミナー、オンデマンド配信形式で開催致します。2週間の配信期間中についてHP講義や視聴中の中ほか、リルタイム（ラスプ）配信にて、講義の先生方に講義動画の補足や質疑応答の実施の運用上の設定中、ていただけ「ラスプセッション」開催いたします。初学で受講されやすいHPなど、昨年度に受講されたHPを通ってご参加頂けたば幸いです。

□ セミナーの目標
・電気化学HP様学生や研究者・ドンジニヤが、実験と並行して、自分で計算ヨコの結果を高や場等HPを行うHPHP様の。
・論文等で見掛けやすい表的な計算手法の原理と基礎HPを学び、その効用と可能性、限界HP理解できHPるように。

□ 対象者
・計算化学の初心者、あやHP計算化学に興味のあHP方
・電気化学に関ヨコ研究分野で計算化学の導入HP検討されていやす
（化学系のHP部HP業種及び物理化学のHP専HPやHPこHPが望HPしい）

プログラム
［講義のオンデマンド配信］

1. 計算化学概論	早稲田大学	岡本 雅宏	60-60分程度
2. 量子化学計算	甲南大学	山本 雅博	60-60分程度
3. 第一原理計算	物質・材料研究機構	松山 佳尚	60-60分程度
4. 分子動力学計算	横浜国立大学	都築 誠二	60-60分程度
5. 計算ソフト紹介	ＮＥＣパンソフト(株)	西原 慧径	30分程度

※一部の内容は時間差と重複する場合がございます。時間差されたH方はご注意ください。

［ラスプセッション］

9:55～	支部長挨拶、趣旨説明	
10:00～	早稲田大学	岡本 雅宏
11:00～	甲南大学	山本 雅博
11:45頃～	昼休憩	
13:00～	物質・材料研究機構	松山 佳尚
14:00～	横浜国立大学	都築 誠二
15:00～	ＮＥＣパンソフト(株)	西原 慧径
15:45頃	閉会の挨拶	

・ラスプセッションの録画配信はHPしHPません。ご注意ください。
・質問は、ラスプセッション以外にHP、講義のHP配信期間にZoomルームにて常時受け付けHPます。ラスプセッションの参加が難しいHPH方はHPて、ご参加下さい。

主催　電気化学会関東支部

協賛　電気化学会関西支部、電池技術委員会、溶融塩委員会、ヤッパンHPや技術委員会、ムHPン液体研究会
日本腐食HPエンジHPHP学会、日本化学会、日本セラミHPクス協会、応用物理学会、高分子学会
自動車技術会、表面技術協会、腐食防食学会、日本MRS

11月30日に、本研究所の池田茂教授が執筆した論文がPhys. Chem. Chem. Phys.誌に掲載されました。
（Phys. Chem. Chem. Phys., 24, 468-476 (2022), Effects of incorporation of Ag into a kesterite Cu_2ZnSnS_4 thin film on its photoelectrochemical properties for water reduction, DOI: 10.1039/D1CP04075H）

ケステライト構造を持つp型化合物半導体薄膜を使った水分解水素発生に関する研究で、Cuサイトの一部をAgで置換することで水分解機能を低下させる結晶内の欠陥を減少させることについて報告しています。

12月8日に、池田茂教授が執筆した総説High. Temp. Mater. Process.誌に掲載されました。

（High. Temp. Mater. Process.,40, 446-460 (2021), Copper-based kesterite thin films for photoelectrochemical water splitting, DOI: 10.1515/htmp-2021-0050）池田教授がこれまでに開発してきた水分解水素製造のためのケステライトp型化合物半導体薄膜についてその基礎基礎物性から光電気化学特性の制御と将来性などについて解説を行っています。

2022年3月22日、立命館大学の峯元教授が開設しているYouTubeチャンネル「太陽光発電大学」に池田茂教授がゲスト出演し水分解光触媒について解説しました。池田茂教授が行ってきた水分解光触媒についてその開発の歴史、動作原理から最新のトピックスまで、専門家でない方にもわかりやすく解説されており好評を博しています。

YouTubeチャンネル「太陽光発電大学」のURLはこちら
https://www.youtube.com/watch?v=jn7NZG0spiw&t=8s

詳細は研究所 HP をご覧ください。

(https://www.konan-u.ac.jp/hp/energy-conver/)

甲南大学
研究年報
２０２１

2022年12月20日発行

編集　甲南大学フロンティア研究推進機構
発行　甲南大学
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL　078-435-2754

甲南大学